特218
675

大方軒無外著

皇民使命達成理念としての

いろは歌講話

大方工業理化研究所發行

始

勅語

典ヲ學ケ以テ肇國ノ精神ヲ昂揚セントスルハ朕深ク焉レヲ嘉尚ス

今ヤ世局ノ激變ハ實ニ國運隆替ノ由リテ以テ判カルル所ナリ爾臣民其レ克ク嚮ニ降タシシ宣諭ノ趣旨ヲ體シ我カ惟神ノ大道ヲ中外ニ顯揚シ以テ人類ノ福祉ト萬邦ノ協和トニ寄與スルアランコトヲ期セヨ

御名御璽

昭和十五年十一月十日

詔書

朕惟フニ神武天皇惟神ノ大道ニ遵ヒ一系無窮ノ寶祚ヲ繼ギ萬世不易ノ不基ヲ定メ以テ天業ヲ經綸シタマヘリ歴朝相承ケ上仁愛ノ化ヲ以テ下ニ及ボシ下忠厚ノ俗ヲ以テ上ニ奉ジ君民一體以テ朕ガ世ニ逮ビ茲ニ紀元二千六百年ヲ迎フ

今ヤ非常ノ世局ニ際シ斯ノ紀元ノ佳節ニ當ル爾臣民宜シク思ヲ神武天皇ノ創業ニ騁セ皇圖ノ宏遠ニシテ皇謨ノ雄深ナルヲ念ヒ和衷戮力益々國體ノ精華ヲ發揮シ以テ時艱ノ克服ヲ致シ以テ國威ノ昂揚ニ勗メ祖宗ノ神靈ニ對ヘンコトヲ期スベシ

御名御璽

昭和十五年二月十一日

詔書

大義ヲ八紘ニ宣揚シ坤輿ヲ一宇タラシムルハ實ニ皇祖皇宗ノ大訓ニシテ朕ガ夙夜眷々措カザル所ナリ而シテ今ヤ世局ハ其ノ騒亂底止スル所ヲ知ラズ人類ノ蒙ルベキ禍患亦將ニ測ルベカラザルモノアラントス朕ハ禍亂ノ戡定平和ノ克復ノ一日モ速ナランコトニ軫念極メテ切ナリ乃チ政府ニ命ジテ帝國ト其ノ意圖ヲ同ジクスル獨伊兩國トノ提携協力ヲ議セシメ茲ニ三國間ニ於ケル條約ノ成立ヲ見タルハ朕ノ深ク懌ブ所ナリ惟フニ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安ンゼシムルハ曩古ノ大業ニシテ前途甚ダ遼遠ナリ爾臣民益々國體ノ觀念ヲ明徴ニシ深ク謀リ遠ク慮リ協心戮力非常ノ時局ヲ克服シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼セヨ

御名御璽

昭和十五年九月二十七日

勅語

茲ニ紀元二千六百年ニ膺リ百僚衆庶相會シ之レカ慶祝ノ典ヲ擧ケ以テ肇國ノ精神ヲ昂揚セントスルハ朕深ク焉レヲ嘉尚ス

今ヤ世局ノ激變ハ實ニ國運隆替ノ由リテ以テ判カルル所ナリ爾臣民其レ克ク嚮ニ降タシシ宣諭ノ趣旨ヲ體シ我カ惟神ノ大道ヲ中外ニ顯揚シ以テ人類ノ福祉ト萬邦ノ協和トニ寄與スルアランコトヲ期セヨ

御名御璽

昭和十五年十一月十日

いろは歌講話（筋書）

講話目的	いろは歌	涅槃四句偈	心經神呪	同上漢譯	同上私譯	講話內容
國體の明徵 政教の刷新	いろはにほへど ちりぬるを	諸行無常	羯諦	度	ススメ （乘越セ）	科學 （佛教的解釋） （物質）
心身の陶冶 人格の完成	わがよたれぞ つねならむ	是生滅法	羯諦	度	ススメ （更ニ乘越セ）	哲學 （同上） （食）
藝術の精進 難局の透破	うゐのおくやま けふこえて	生滅滅已	波羅・羯諦	彼岸・度	イザススメ （相對境ヲ乘越セ）	大乘佛教 （大死一番） （衣）
處世の要諦 三教の統一 道俗の不二	あさきゆめみじ ゑひもせず	寂滅爲樂	波羅・僧・羯諦	彼岸・總・度	總ベテノ境 ヲ乘越エテ	大乘佛教 （大用現前） （住）
八紘の融和 世界の道標	京。前三三後三三。	眞如法界	菩提・娑婆訶	至道・成就	八紘一宇ニ 成リ遂ゲヨ	大乘佛教 （具不退轉） （國家）

はしがき

世界有つてより以來、人間がなした發明たる其數甚だ多しと雖も、「いろは」の發明の如きは發明中の最大發明なりと稱せられ、羅振玉の如きは、「支那に若し「いろは」有りしならば支那の文化は百載その進歩を早めしならん」と讃歎しましたが、

八紘の融和
世界の道標

京。前三三後三三。

眞如法界

菩提・娑婆訶

至道・成就

八紘一宇ニ
成リ遂ゲヨ

大乘佛教
具不退轉
(國家)

はしがき

世界有つてより以來、人間がなした發明たる其數甚だ多しと雖も、「いろは」の發明の如きは發明中の最大發明なりと稱せられ、羅振玉の如きは、「支那に若し「いろは」有りしならば支那の文化は百載その進歩を早めしならん」と讃歎しましたが、我が假名文字は、當時慣用の漢字につき省筆・略體し、剩さへ草體の妙所までも取入れて、「カタカナ」・「ひらかな」・の二種の和字を創作したもので、實に萬代不滅の大文字と申すべく、フイニシヤ人のＡＢＣ發明よりも數段の偉績でありませう。

「ひらかな」は草體なると萬葉眞名の影響のためとで、種々の變體が行はれたのを、弘法大師が高野開山の節、大工の相紋書きに便宜の樣極めて簡單な現今の字體に訂正され、又當時無同字四十七字の歌には、「あめつちの歌」とて、「あめつちわき、かみさふる、ひのもとなりて、ゐやしろを、おほむへゆには、うらまけぬ、これそたえせね、するいくよ」の歌あり。また「君臣の歌」とて、「きみまくら、おや(君臣)(父子夫婦)(兄弟朋友)(井掘田植)こいもせに、えとむれぬ、ゐほりたうへて、ろゐしげる、あめつちさかゆ、よをわ(末榮)(天地榮)(世伝)

勿）びそ、ふねのろなば（船櫓　擢）」の歌も有りましたが、語呂も意味も十分でなく記憶にも不便「へ」「ゑ」の誤りも有るので、七五調の「いろは歌」に改作され、而かも涅槃經眞言四句の意を含ませられたものです。

「いろは歌」が實に僅少の假名字を、重複も殘餘もなく、正確に滑らかに用ひて、萬古不變なる佛敎の玄理を遺憾なく詠み出でられたことは、全く聖者の作爲と申すより外はありますまい。但し「いろは歌」の前半が護命の作で、後半が弘法大師の作との說もあり、本文に述べた「雪山童子の神話」に似て居ります。最後に「京」の字を添えたのは傳敎大師若くは慈覺大師ならんとのことです。

般若心經が、古來國家一大事變の際には朝野擧つて拜誦された史蹟が有り、該經は如何にも八紘一宇、世界の敎化・德化の御聖謨を翼贊し奉る所以の一大指針として、皇民齊しく受持すべき靈經なるを確信し、大膽ながら特に「日本人としての體得現成的」の語を冠して、既にその講話を著はしましたが、今玆にその姉妹篇としての意味に於いて「いろは歌」をお話しいたします。愚考では日・滿・支・一德一心、大東亞の新建設には、是非ともこの「いろは歌」の十分なる玩味檢討を緊要とするものと確信して述立てた次第であります。

講話中、物資の生產乃至保存に於ける乾燥事業其他に關し、「御相談に應ず」云々再三申述べ、如何にも營利宣傳のようですが、實は微力ながら體驗實現を主とする私の立場から、それ等の件につき一日も早く從來の缺陷（學者の推算たよれば腐・黴・虫・變質等による國家の損害は毎年二十億圓以上ならんと）を補ひ奉公の萬一を果したき熱意の發露でありますから、抂げて御諒承をお願ひいたします。

昭和十五年十一月十日皇紀二千六百年慶祝式典の夕

東京市江東寓居にて

著者しるす

いろは歌講話目次

第一章　（いろはにほへとちりぬるを）

眞名譯…紅葉（イロハ）…諸行無常…（一）　無常は創造…僧娑迦羅（サンシャカーラ）…天行は健…エヂソンの非凡…因緣生（因緣果の規準）…佛敎の科學觀…（四）　皇道と神儒佛…ヤソ敎徒の非科學的と殘虐…（六）　リンネ…ビユフオン…ラマルク…チアルス・ダーヴイン…スペンザー（八）　フランシス・ゴールトン…メンデル…くろもそむ…ベルグソン…（一〇）電子と光…宇宙線…原子の變換…めぞとろん…電子顯微鏡…一切唯心造…八紘一宇…國際現狀…物資の製造並に使用の合理化…蘭印…ドイツ…擧國一致體制强化の切望…皇國の大使命…積極的豫備訓練…（一二）　大創造…日本の武は道が主…ドイツ將兵の態度と戰果…科學的國策と我が現狀（一四）　獅子吼の諸相…剛と完全裝備…工業の獨立…金を離れた經濟體制…フランスの敗因はユダヤ禍…物資神聖視と冥加…（一五）　檀林皇后…（一六）　家康の責任感…永久貯穀法…腐敗米…物資の完全保管…儉は濟度…（一七）　貧者の一燈…（一八）　物資を生かして…（二〇）　無所得…空氣と紫外線…太陽熱…無價の寶…滴水…南隱の水の使方…絢子刀自…獨園…聖謨翼賛の必須行事…如來藏…最大の無價物…（二四）　ファラデイ

…ミヒヤエル・フオスター…禿山と天災…はげしばり…インシグニス松…大和魂と經世濟民…
皇民的文化…積極的勤儉(一五)　無量壽と無碍光…馬鈴薯の皮…作業の副効果…喜捨と善根魔…
十一面觀音…愛見に墮せぬ慈悲…(一八)　貯蓄と奉公…射倖心挑發は阿片賣附…火と西洋神話…
彼我の異性觀…作用官能の神聖視…世界の精神文化に裨益…(二〇)　マッチの使方…木炭の用法
…御飯の炊き方…(二二)　ノルウエー人の料理箱…理想的半熟卵…肉と野菜…火ノシ(二四)　日本
竈…琺瑯鍋…助炭…ヒビの豫防…火傷手當…煖爐…(二六)　長州風呂…炬燵…病室と欄間…煙草
の煙…火事の主原因…瑞典マッチ…火事の際…(二八)　消火法…藁灰と木灰…蠅の病毒傳播…バ
クテリヤの分裂增殖…有難い身體…(二一)　古着古本の危險…肺病は必ず全治…ベルリンの花柳
病患者…民族優生運動…公衆浴湯の危險…マッツージ(四四)　公德缺陷…水道と傳染病…ヨリ良
き後繼者…兒童の身體檢査及び放便…青桐の若葉…便秘は危險

第二章　（わかよ　たれそ　つねならむ）……(四五)

眞名譯…(四六)　諸行無常に對する人生觀…是生滅法…ゴッドの創造說と禍福左右說との虛妄…
生滅は相對法の代表詞…人生の眞意義…經驗と思惟…一切唯心造…ハイネの諧謔…エヂソン…
ロソクフエラー…ブース…塙保己一…グラハムルベル夫人…(四八)　山崎闇齋…苦は增上緣…心

の創造…著者の體驗談…左翼轉向者の長所…(五〇)　神童の將來…努力の繼續…バーナード・シ
ヨオ…八十歲以上の採用受驗者…征服と協和…恐怖が作つたゴッド…自己中心の一神敎…感謝
報恩の神佛…レオ十世の免罪符…(五二)　佛敎の基本誓願…八紘一宇…欺騙の常習犯と被欺騙の
持病…秀吉のヤソ敎觀…米大統領の政治はバイブルに據る…(五四)　法爾自然と不變の乘物…敵
をマツロハヌ神…ガーデナーの皮肉…(五五)　中山氏の佛敎評論(五八)　光圓の祟佛…ワシントン
の國策基調…米國の東洋侵略史…(六〇)　排日暴擧と秘密結社…自國の善を以て自國の惡を伐つ
…射倖政策と精神總動員とは正反對…貧富相剋は崩壞菌…建國年所…パリの開城…コンピエー
ニユの森…(六二)　フランスの敗因…不動尊…各自がZ信號旗…病は口より入る…苦力たちの食
事…滅菌の食物…(六四)　洗面の仕方…八紘一宇と唯我獨尊…アメーバ赤痢…生水は滅菌後飲用
…衞生試驗所の附着細菌發表…(六六)　唾液に硫靑化アルカリ含有…咀嚼と節米…口腔は人間が
最も不潔…齒を丈夫にする法…短命の順位…コレステリン…(六八)　日本人の一日分食料…代用
食…ドイツ切符制度の標準…　壽命と食物との關係…ビタミンA…Aの保健食量表…(七二)　果
物のAC含有量…ビタミンB_1…(七四)　B_1の保健食量表…ビタミンA…Aの保健食量表…ビタミ
ンC…Cの保健食量表…(七八)　ビタミンD…Dの代用品…(八〇)　ビタミンB_2…B_2の保健食量表…ビタミ
品婦人座右の銘…看護法…豐太閤の茶會獻立…(八二)　食品と年齡…香味料…痔疾の療法…煎茶

式…(八四)　茶…酒…食堂…(八六)　食時の銘…情緒と栄養…口腔の健全…齒…(八八)　食堂及臺所の設備…食品の保存…(九二)　食用野生植物

第三章　（うゐのおくやまけふこえて）

眞名譯…生滅々已…波羅羯諦…(九四)　雪山童子…我國現狀の檢討…宗謙禪師…靖國の社に鎭魂…大死一番…(一〇〇)　唯自…唯他…楠公…大慈悲心の發露…軍隊內務書…大燈國師…神經衰弱とベルツ…(一〇二)　白隱・羅山・南隱…明月淸風…(一〇四)　峨山の典座…ムダ…隨處爲主…顚面の今…內觀法…氣劍體の一致…作業の要諦…(一〇六)　松下烏石…觀世二世…サラゼン…空中戰鬪…精神と身體…剛健…牛と車…孟子…(一〇八)　今次の歐洲戰…日本流飛行…聖戰と歐洲戰との比較…(一一〇)　不良と低能…智慧と方便…子供の着物…(一一四)　千代女…藤堂侯…如來藏…ナポレオン…ビリ卒業者採用…韓退之…(一一六)　下學上達…大忠臣と佛敎…嫁入支度…(一一八)　肌着…大慧語錄…宿癩后…(一一二)　稻垣千代…お化粧は銃後の恥…ドイツの銃後婦人…(一二四)　泣くから悲しい…雀ノ巢頭髮…渡滿婦人…藝者風と奧樣風…女性の理想美…文化婦人…過量の衣服…(一二六)　洋傘の色…裝飾品は技術を主…裁山の時計紐…衣裝が禍の神に…(一二八)　衣物の安全保管…カード…小黑板…軍寶の公開…皇室のお買上品…(一三〇)　机・椅子の規格…腰

第四章　（あさきゆめみしゑひもせす）

眞名譯…寂滅爲樂…佛法の玄極…如來藏…(一三二)　無爲…達磨夕凉…中道…八紘一宇…高嶺の月…陶淵明の非…(一三四)　皇道の選手…大用現前…波羅僧羯諦…中道…(一三六)　不二…歸一…大離…大我…寂滅…無相…無作…無所得…一實の境界…(一三八)　浩然の氣…大和魂…惟神…神・尊・命…(一四〇)　十七條憲法…三敎調整…(一四四)　萬葉集…結婚十訓…饅湯に冷處無し…(一四六)　神州…舜…無爲境…(一四八)　十魔…(一五〇)　ドイツは持てる國…ソ聯の企圖…(一五二)　十法界…八正道…八幡樣…(一五四)　門…玄關…應接間…(一五六)　客室…居間…床の間…(一五八)　商店…(一六〇)　ロンドン商人…(一六二)　貿易政策…(一六四)　家族の住居…家族の中心…(一六六)　生命の要因…何も思はぬ…(一六八)　本間家の家憲…英の相續稅…良心稅

第五章　（京）（前三三三　後三三三）

京…國體明徵…府…(一七〇)　家康の三猿主義…秀吉の皇室觀…皇室敎…(一七二)　ポルトガル印度總督への返書…一切功德…惟神の德…建國年所表…各國の旗印と動き…(一七四)　ヤソ敎徒の殘忍…一六九

將帥の規範…彼等の通念…八紘一宇…絶對は遂に相對を包容…京の建設…八正道の轍…聖戰三原則…(一七六) 英の國祭日の祈禱…ドイツ情報部長の反駁…英國の罪狀…(一七八) 日本を屈辱…佛印…蘭印…皇道…和魂…(一八〇) 荒魂…天の益人…ポール・リシヤルの評…太古日本の宗教政治の基礎觀念…(一八二) 佛教を國教…東大寺の大佛…梵網經…(一八四) ホトケ…奴…檜林皇后國學者の阿諛…東照る…儒教…聖德太子の規範…世界リード…神棚と佛壇…米國の非道史…(一八八) 眞如法界…ヴエルサイユ條約と近衞聲明…東洋道義…八幡旗…ヒツトラ總統…(一九〇) 政治體制の創設…京……(一九二) チヤーチルの演說…修羅界…同胞の至幸至福…(一九六) 皇大神に非ず皇太神…(一九四) 滿洲の建國神廟…支那派遣軍總司令部の闡明…(二〇二) ドイツの進擊の裏…國家統制機構…發明…(二〇四) ドイツの綜合國力…宣撫工作…周到なる訓練…(二〇六) フランス人の廢頽…(二〇八) ローズモノ…ドイツ教育…(二一〇) 棊局…名人…上手…ドイツの銀行…(二一二) 本講話の綜括…(二一四) 前三三三後三三三…日獨伊三國同盟…(二一六) 大政翼贊會發會式…紀元二千六百年慶祝式典 以上

いろは歌講話

大方軒無外居士述

第一章 (いろはにほへとちりぬるを)

「いろはにほへと」を古人は「眞名」で、「色者雖レ艶」、又は「色者句而」と書表はし、「は」を「テニヲハ」の「ハ」の意味に取れるも、一說には、色葉(イロハ)(萬葉集に色葉をモミヂと訓める例有り)と譯すべきである、その故は若し「色」のみならんには「うつろふ」を要するに、こゝは單に「ちりぬる」と續けたればなりと申しますが、文學的詮議は暫く措き、花紅葉のうるはしくにほへる色も、雨にうたれ風に吹かれて、空しく散るを指せるものと見ておきませう。句末の「を」は、感嘆詞、花・紅葉の無常なる有樣を見て感慨無量なることを詠んだので、涅槃經の四句の偈の初句「諸行無常」に當ります。今その偈句に就きお話いたします。但し七・五の句調に制限された僅か十二字ですから、「ちりぬるを」と「無常」の消極的方面のみを表はしてゐますが、「無常」に

は廣大無邊な積極的方面の有ること、卽ち無常はやがて「創造」を意味することを見逃してはなりませぬ。

「諸」とは「一切世間の」「有らゆる」・「一事一物の例外なき」・の意であり。「行」とは、「遷流の義」で、有爲法（一切世間の差別的事物）は種々の因緣に由つて造作され・遷流されて、瞬時も停止せざるものなる故「行」と申すのです。原語（梵語）僧沙迦羅（サンシャカーラ）の指示する所に隨ふと、「能力有ること」・「準備すること」・「形成すること」・「完成すること」・「移り行くこと」・等、頗る廣汎な意義を有してゐます。易には、「天行健なり」とありますが、歷史は寸刻なりとも運行を停めませぬ。その進む方向を正しく把捉することが何よりも肝要であります。プラトンは二千三百年の昔、「國民を改善するため撓まず倦まず常に努力する國家のみが、獨りその繁榮を持續し得ると申して居ります。

「無常」とは讀んで字の如く「常（同・恒）なるもの無し」で、例へば松樹の針葉の如く、一見して一樣に見ゆるものでも之を微細に吟味すると各葉各異で、或る特定の一葉を標準とすると、その一葉以外には唯だの一葉として全く同形同態のものなき有樣であつて、彼の幼少より事物を微細に觀察せる非凡な天才兒エヂソンには、「2+2=4」がどうしても了解できず、低能兒として小學校から退學を命ぜられた所以です。私の推察によりますと、後年のエヂソンが、ラヂオ用の

礦石選定に當り、さして差異のないやう見ゆる礦石を、一萬五千個も取集めて、一々精密檢査した程の篤學的態度から遡つて考へますと、幼なかりし彼にも木の葉の一つ一つが異つて觀え、同樣の物の間にのみ行はるゝ加算」は「應用不能な不可解法」としか受取れず。從つて「父と母と」では二人でない。（父は父母は母で父と母とは異ふから）。それが二人と云ひ得るならば、「僕とジョン（犬）と」を二人と云ひ得る不合理に陷る。されば2すら既に無し豈に「2+2=4」あらんやとの、彼の緻密的で論理的で不苟合的なる性格の持主であり、その持主であつたればこそ、始めて彼の如く世界無比なる科學的大恩人と成り得たことゝ確信して居ります。又世界・十數億人の多きを以てして、「指紋」の同一なる兩人無きを見ても、形態上の「無常」なることに疑は有りませぬ。勿論それ等常形なき物體の內外に於ける、物理的・化學的・生物的・意識的に複雜變化しつゝある現象とを併せ考へんか、實に無數・無限と謂はんもまた愚かなりて、更に天變・地異・人事・が織込まれましたら當さに不可稱・不可說と申す外はありますまい。

以上を佛敎では「諸行無常」にして而かも無始・無終に瞬時の間斷もなく、因緣に由つて合成も分解も進化も退化も行はるゝ「因緣生」と說くのであります。但しかゝる不可稱・不可說の變化も、是等を一貫する眞如の常理が存在するので、その眞如を體得して、自己本具の如來藏を顯現しつゝ、「諸行」に善處するのが佛敎の科學觀で、基督紀元に先だつこと七百五十年以前とい

ふ太古の觀念なるにも拘はらず今以て纖毫の改變をだに要せず、實に時間・空間を超越して、古今に通じて謬らず中外に施して悖らざる底の眞理であり、原則であります。

我が皇國にては古來神國として神道即ち皇道を有しながらも、尙ほ國家をして彌や榮えに榮えしめ、より神聖に神聖ならしむべし、との畏き御聖慮により、苟くも補益すべき教義あらんには悉く御採用遊ばされた。その實例としては、祭祀其他公儀には神式を、政治向き文章には儒式を、御採用あり、畏き皇室教としては佛教を御用ゐ遊ばさるゝ等の御事は、歷代の「御聖德集」により明かに拜察され、剩さへ欽定憲法には國民の信教自由を御許し遊ばされ居る有難い聖代ですから、外教を一々非難するには當りませぬが、我が□の科學發達の上からは、發達阻害の患ある非科學的迷信宗教を排すべき必要があり、從つてヤソ教の樣な外國に信仰洽ねく、その風俗に適合せる萬國公認の宗教でも、該教の根本宗義並に教徒の執り來つた經歷を精査して、病源菌は素より保菌者をも摘除し、病毒の傳播を絶對防止することは、一億皇民否な日・滿・支友邦人民の等しく必ず負擔すべき一大義務と確信する上から、下の如く批判を試むる次第で決して排外思想でないのは勿論、寧ろ八紘一宇の聖謨を奉體して世界の教化・德化の萬一に資せんとする微衷に他ならないのであります。

基督教徒スアルスは、「此の世は全く六日間に出來た。三日目に神の造つた植物は皆完全に生長したもので、今見る樣に固有の性質を具へて居た。五日目と六日目に出來た各種の動物も皆完成形。最後に神は人間を土から造り上げたと云ひ、此の解釋はその後十九世紀頃まで歐洲カトリック教徒の唯一の信條でしたが、英の神學者ライトフートは、「人が初めて造られたのは基督紀元前四千四年十月廿三日午前九時だと公言し、まるで氏が時計持參で傍觀して居つたやうですが、所謂「ゴッドのお告げ」でゝもあつたのでせうか。尋いで詩人ミルトンまでが之を讃美したゝめか、科學的進化思想を壓迫するに最も有力な說となつたのです。

獨の天文學者ゴペルニクス（犬一四二三年生一五四三年死）が、「地球は太陽の周を廻る」との說を創めましたが、この太陽中心說を祖述した伊のブルノーは、法王の召集による宗教裁判の結果、神意に反するための神罰と稱して「生キナガラ焚殺」され、その後生物進化論者・一般科學者も如上の理由で國外に放逐され、或はその墓碑建設だに絶對禁止されました。（如何に宗教問題に冷靜寬大なる一般皇民でも西洋崇拜の一部人達でも、驚駭の外はありますまい）。又如何に彼等教徒でも、科學發達の現下、斯る背理暴虐的な行爲は絶無な事と思ひの外、世界の或る地方には有色人種に對するリンチの口實となつて居り、排日（ヤソ教を奉ぜざる故を以て）の隱然たる理由に敎へられてゐます。

リンネは、一七六二年頃より實驗上「交配によつて多くの新種の生じたこと」を認め、「種は

神が最初に創造したゞけである」と唱へたが、それさへキリストの世界創造説に矛盾する無神論者として排斥され、同時代頃ビュフォンは種屬の變化の多きを信ずるに到り、「氣候・食物は生物に直接影響して身體に變化を起し、その變化は遺傳す。人種の色の相違は斯くして生じ、人爲淘汰によつて動物の新種が生ずるが、移住や孤立も亦同樣の結果をもならす」ことを確めたが、ヤソ教の壓迫を怖れて明かには生物の進化を說き得ませぬでした。

ラマルクは、一八〇〇年始めて進化論を說き、種屬の不變なのはその境遇が長く變らぬため、中には變化した個體が生じて隣り合つた別種に關聯して居る」。「地球上の生物は皆自然の所產で長い間に順次に出來たので、自然が直接に作るものは無い」。「變化の原因は主に外界の狀況に在る、卽ち植物は土質・高度・濕・熱・光・の直接の影響に、動物は習性上必要な部分は活動のために發達を促がし之に反して用ゐられねば退化するので部分的に變化す」と說き、更に一七四四年に左記四則謂ゆるラマルクの法則を唱へた。

第一則 生命はその固有の力によつて絕えずその極限までそれを所有する身體の容量を增し、そのすべての部分を大きくしやうとする。

第二則 動物の身體に新しい機官の生ずるのは、新しい必要が生じて、それが連續して感ぜられ、そのために新しい運動が起つて續く結果である。

第三則 機官とその活動との發達は、恒にその機官の使用に比例する。

第四則 個體の構造において、一生の間に得若くは變化した所はすべて遺傳し、新しい個體はそれを受けて、已でにそれ等の變化を經た所から進んで行く。

チアルス・ダーヴィン（一八〇九年生）は、五十歲の時「種の起源」を著し、初めて「自然淘汰」の說を立て西洋人の人間思想の土臺に影響を及ぼしたこと甚大でありました。

スペンサー（一九〇三年）は、進化論の要點を述べて、「廣く見ても・細かに見ても・宇宙間には、物質と運動との絕えせぬ變動が有る。この變動は物質の結合と運動の分散との勝つた處では進化となり、運動の凝着と物質の分散との有る處では分解となる。結合の過程が他の過程によつて複雜にされぬ時は進化は單純である。結合の過程に伴つて集合體の種々の部分の狀態の差による二次的變化が起る時は複雜となる。この二次式的變化は、一樣から多樣への變化で、全體として宇宙にも殆んどすべての部分にも現はれる。星雲の集合にも・惑星の系統にも・無機體の地球にも・動植物にも・地質學時代を通じての生物の集合にも・心にも・社會にも・社會的活動の全所產にも・部分的にも・一般的にも働く、結合の過程は、單に一樣から多樣へのみならず無限の一樣から有限の多樣への變化を來す。分化の過程と結合するこの特性とは、事物の全體にも微小な部分にも現はれる。物質の變動に伴ひその成分の保育する運動も、有限の多樣へと變動する無

限絶對の一樣が無ければ、この變動は避けられぬ。それを要求する原因は、集合體の種々の部分が外部より違つた力を受ける結果、一樣の不安定なことである。物體は受けた力を分裂するので變化は複雜となる。集合體が多樣になるほど一層複雜さが增す。更に異なるものを排し同樣のものを集めやうとする分離の過程が、分化を鋭く若くは有限にする。平均は進化する物體に起る變化の最後の結果力と反作用との平均點に達するまで。生物體の死は進化を構成する變化の必要な限界だ。すべて進化して來た物體は、遲かれ速かれ分解する。生物は速く無生物は遲い云々」。

一八六三年フランシス・ゴールトンは、遺傳學に關して左の二法則を發表しました。

第一　祖先遺傳の法則。子の性質は、平均兩親から（〇・五）、四人の祖父母から（〇・五）の二乘、八人の曾祖父母から（〇・五）の三乘と云ふ割合で、遠い祖先からも受繼いだものである。

第二　子孫復歸の法則。親の性質は子から孫へと次第に傳つて行くが、子孫の代が重なるにつれて、その性質は全體の平均に近づいてゆく。

細胞學に關しては、雌雄二つの生殖細胞が合して一となり、分裂して身體各部に生長することをメンデル其の他により確かめられ、生命體の內にある各細胞には、通常・核が有り核內には一定數の容易に染まり得る棒・環或は染色體といはるゝ顆粒（遺傳し得る性質に發達する特殊物質の

保持者）が有るが、その核の分裂したクロモソムの數は、

白人	48
黑人	22
二十日鼠	24
蝦ノ一種	204
エンドウ	14
馬	66
蛙	24
ユリ	24
小麥	16

クロモソムが2對の時は4種、3對の時は8種、n對の時は2^n種の組合を生ずる譯ですから、人類の如き複雜な構造のものは、全然同一のものゝ無きこと「指紋」の證する通りであり、又環境に對する順應性・諸種の淘汰の有るべき筈でありませう。

ベルグソンは、ヤソ教國に住みながら何等恐るゝ所なく、「世界を創造する神などは存在しない。凡そ世界は何者かによつて創造されたものでない。創造者と被創造者といつたやうな區別のない創造、それ自體が世界の眞相であり、それが進化そのものだ。創造とは人間が自己を自己以上に發展せしめ・自己が自己を進化向上せしめることであるからだ。凡ての努力がさうである樣に、人間の創造的努力の本質も亦或る意味で、自己の思想を物質化することにある。……努力はそれによつて成就さるゝ作品よりももつと尊いものだ。なぜなら、努力のおかげによつて、人は曾ての自己より以上のものを自己から引出し得たのである、自己を自己自身より以上に進めたの

だからだ。……然るにその努力は物質が無くては可能でなかつた苦てす云々」。汎神論的・無神論的・に進んで次第に佛說に近づき、何れも遺憾なく「諸行無常」と・「因緣生」と・「一切唯心造」と・を、裏書し・敷衍し・東西期せずしてヤソ敎の誣妄なることを異口同說して居り、但だ異なるところは、佛說が彼等學者の說に先だつこと二千五百有餘年といふ長年月のみであります。

以上は何れも生物に限られた現象ですが、更に進歩した現今の無生物科學に移りますと、「物質的世界は電子と光との舞臺であり、而も電子と光との間に相互轉換の可能性が有り、又逆に光より物質を產む」と云ふ程で、我々はその理論に極めて深遠雄大なる努力をいたすと同時に、成品の活用（ムダ排除）、廢物利用等に於ける一層の合理化に專心して、「菩提娑婆訶」を目標とする「羯諦」に立ち、瞬時も停滯・苟安の魔窟に墮在することを許しませぬ。一六一七年日本人の築いた古城の現存する蘭領インドは、世界總生產額の三七%のゴム・二一%の錫・三%の石油・を現產し、尙ほ多くの未開發部を有し。ドイツは油田においては日本の四十分の一にも足らぬのに、新發明の坑道掘（土砂を掘り上げて油を絞る技術）で日本の一倍半の石油を產出して居るさうです。

時代の進運は今や一君萬民の肇國の本義に基き、擧國一致體制の强化を切要とすること、到底往時の比ではなく、更に〳〵廣汎なる國家の總力戰と化し、國家統制下に凡百の國家總力を傾注して、武力戰には勿論、經濟戰にも・外交戰にも・思想戰にも・勝たねばなりませぬ。今次ヨーロッパの世界爭覇戰の後には、その廢墟から世界の新秩序が生れませう。我國に影響の大なるべきは勿論で。由來國の源泉は富（金）ではなくして創造力であり、科學者によつてその國運を隆昌になし得るとの大信念が緊要であります。謂ゆる生產第一・勞働第一・國民皆勤苦・です。イタリーは、エチオピア遠征に一人の戰時成金をも出さなかつたと申します。

科學の發達には分科的研究が絕對必要であるが、分科專門學者は兎角全體に關する常識を忘れがちになり、又通俗の謂ゆる不可抗力も、事後常識的に考ふれば、其の實「觀察の偏倚より來る可得避的慘事」に過ぎないことが、雪崩にも・洪水にも・旱魃にも・浮塵子の大發生にも・又空中にても・　水上にても・陸地にても、鮮なからず發生して居りますが、企畫者も・科學者も・技術者も・共に小乘的當座式短所にとゞまらぬ樣、一大猛省を要すべく、必ずや最善究竟を目標とする「大乘」途上に始・中・終・行動し、瞬時も皇國の大使命を忘れてはなりませぬ。困苦缺乏に耐えるドイツ流訓練や、「武士の子は腹がへつてもひもじうない」との覺悟の大切なことは申すまでもありませぬが、之も「蝮の屈するは伸びんが爲め」と申す如く、大活動の積極的豫備訓練としてのみ願はしいことで、身心を補給なしに消盡する意味となつては自殺的一大不祥事てすから、必ずや恒に必要物資に事かゝぬやう大創造が先立たねばなりませぬ。關東の大震火災は、

一枚の百圓札よりも一杯のスキトンの方が價値ある場合の有ることを證明しました。又如何に不撓不屈の勇猛心や・百練千磨の妙技が有つても、優秀なる空軍と・機械化部隊と・謎の兵器と・を有する强敵に對しては、素手で必勝の期し難いことは、ドイツ對ポーランド戰にも・ノモンハンの血の教訓にも、明示されて居りませう。併し「我が國は元來武の國である、故に宜しく武を主とすべきである。我が國は武國であるから廉恥心が厚く・氣性は剛直である。世をたのみ人にすがる意はない。故に國家のために忠死をなし・戰場にのぞんで義死を遂げるのである」（中軍元恒の尙武論）。又は「武は暴を禁じ・兵をおさめ・大を保ち・功を定め・民を安んじ・衆を和し・財を豐にす、これ武の七德なり」（古今著聞集）とある如く、我國の武は勇猛不屈（義にたけき意）の心と・仁慈の德と・の兼備を要するとの古來の信念であります。支那の武は道が助け（西洋の武は道を亂す）・日本の武は道が主となつて居ります（八紘一宇）。今次の聖戰は之を世界に表明する絶好の機會であります。

今次戰線中ドイツ軍に從事した記者の報告に據りますと、「ドイツ軍將兵の態度が極めて慇懃であり・少しも威張つた風がない、急な坂道を避難佛民が荷車を牽きかねて困つて居るのを見ると、二三人の兵が駈けよつて後を押してやる、いたる處で村民とドイツ兵とがもとからの知合のやうに話し合つてゐた。掠奪は勿論・拾ひもの一つもせぬ嚴肅な軍紀と統制とが保たれ、高速度

に前進する忙しい生活から占領地常で要らぬ物まで徵發するといつたことは念頭に置いてゐないやうで、北フランスの住民の間では却つてドイツ兵の方が人氣があつた」と申します。軍の實力自身が技術的に優つてゐると云ふ理由のみでなく、總ての點において缺點のない條件が揃つてゐるところに、計畫通りの戰果があがつてゆく原因が存するのでありませう。我が聖戰と頗る似通つて居ります。

「今や技術は世界の情勢を變革せしめつゝあり」・「强國とは重工業力の强力なる國家を意味す」などの言葉に省み、爲政者は科學・技術・に立脚した國策（研究家の優遇法・企業者の損害補償制度）を定め、皇民各自は皇國の大使命を深く認識して舊來の併呑主義を一擲し、大中小を一貫した同種工業の綜合的活用により、萬難を排して重要物資の消耗を減殺し・、海外依存をやめ・自給自足の方策を樹立して進歩せる獨得の技術により、軍事上の裝備はもとより一般生產の改良並に增加に邁進せねばなりませぬ。その殷鑑遠からず、ドイツ及びソ聯に於ける輓近數年間の建設が反省上の好例でありませう。併し悲しいかな我國の現狀では、科學者・技術者・なるがために言論者同等の地位は決して與へられず。役員方・商人衆・職工ども・の通語が存し・技術從業員は配偶を得るにも困難なほどに社會に輕視され、國內で教育を受ける中等學校以上の學生では、物資の生產及び運輸に從事する側の數は、之が消費・販賣並に監督に當る方面の數の幾十分の一にし

か達しない有様ですから、商業人口の過剰・物資不足・英米依存・原價安の販賣高・闇相場・等々不祥事の多いのは當然の歸結でありますが、今となつては產業界全體の共同責任に於て之が善後處置を講ずると云ふ實質的な心構と施置とが緊要であります。

我が國にも「數萬本の竹竿だに有らば某敵の突破容易なり云々」と公言する暴虎馮河者が時として世の尊敬を僥倖することもあるが、一兵卒の言ならんには其の勇氣だけは稱揚の價値も有りませうが、苟くも將校以上のおゝならんには、所請「窮鼠猫を嚙む」の要ある悲境以外には絕對禁止を誓はれたいものと存じます。涅槃經には「師子王の如きは自ら身力を知り（自己を根本的に反省し）・（他邦依存嚴禁）牙爪鋒芒（裝備充實）・四足を地に踞し（訓練周到）・巖穴に安住し（世界の情勢を精査して自ら方策を確定）・尾を振ひて聲を出す（斷乎として使命遂行）・若し能く是の如き諸相を具するとあらば當に知るべし是れ卽ち師子吼なることを」・「師子・兎を搏つてと猶ほ象を搏つが如し」とあり、長唄の石橋には、「獅子は小虫（コウ）を食まんとにも先づ勢（自主獨往・世界の全勢力を利用）をなすとこそ聞け、我が法力の有ればとて容易く思ひ渡らんこと、あら危しの御事や」とあり、僧肇は「師子吼は無畏の音なり、凡そ言說する所、群邪・異學を畏れず」と申して居ります。廣大無邊の聖謨を永久に翼贊し奉るべく大使命を擔ふ皇民は、決して淺薄輕浮な自負心を懷くことなく、「慈・畢竟すれば畏れ無し」の「剛」の德に、完全なる裝備を必ずや御伴とすることを常則とすべきでありませう。當方がいかに「不介入」を標榜しても、先方からは狂瀾怒濤が容赦なく押せて參ります。萬里の長城は匈奴の侵入を防ぎ得ず。マヂノ線は容易にドイツ軍に突破されました。油斷はいつも大敵であります。特に今や世界の葛藤は、西南太平洋を中心として展開せんとしつゝあります。

近代戰は軍需工業能力の戰爭であり、軍需工業能力は國家の能力と經濟力との綜合的統制組織の結果であります。今日の兵器を造り裝備を整へること素より必要であるが、更に將來の兵器を作る技術と工業力とを培養するには、今から餘程思ひきつた施設をなし、速に歐米に對する模倣と追隨の域を脫却し、工業の獨立を圖らなければ大東亞の新秩序建設は完遂されませぬ。ドイツ優勢の背後には、金を離れた經濟體制（最高の能率經濟）と世界最高水準に達した工業力のあることを忘れてはなりませぬ。又フランスの敗因は思想上のユデヤ禍が氾濫し・民族固有の傳統が無くなり・民族的氣魄と活力とを失つたからだと申します。

由來我が同胞は一切の物資を神聖（米一粒に佛樣が三體ござると）なるものとして尊重（粗末にしたり無作法に喰べると罰が當ると）し、且つ自己一切の精神生活及び行動を君・親・師・同胞・の四恩の冥々に加はれる結果、謂ゆる「冥加」として之を感謝する美風が有りましたのを、明治の要人が廢佛・毀釋・唱道の結果、此の國風殆んど絕えなんとし、「冥加」とか「勿體ない」等の言葉

の意味だに正解し得るものは、中等以上の學校教育を受けた人達中には多くは居られますまい。目下、米・炭・マッチ・其他日用必需物資の不足を來たしたのは、檀林皇后樣の御言葉「禍福は人の自ら召す所」にピッタリでありませう（爲政者は有德者・哲學者たるを要す）。

「德川家康公が林羅山に日本紀を講ぜしめられ時、「食者天下之本也黃金萬貫不レ可レ療レ飢白玉千箱何能救レ冷」に至り乍ら講を中止せしめ、本多正信を召し、米穀を蓄へ諸國にも其の旨達すべしと命ぜられたと傳へられます。古來、責任感深き爲政家が卽刻主義・常備主義（非常時に備ふ）・なりし事を證して餘り有りませう。

「米食史」は四十年間・苦心の大著述（原稿三萬枚）であり、その結論は、「濕處に貯藏した米を食べると脚氣病にかゝる」の短文ですが、ヴィタミン論の唱道盛んなる今日猶ほ、七分搗・胚芽米に於けるカロリー量の吟味だけで、「生きたヴィタミン」の有無多少は不問の樣です。現今の貯米方法では、玄米が「生」を保有しながら黴雨越しすることは到底不可能でせう。從つて毎年數百萬石に上る腐敗米（今次の米不足は全く之に原因すと云ふも過言にあらず）の減じやうも・脚氣患者の絕えやうも・ありますまい。「生きた玄米」ならば種籾同樣に處理（豆モヤシ造りとも同樣）すると百％發芽する筈ですから、市賣玄米が果して幾％發芽するか、官民各位の御實驗を切に〳〵お願ひ申上げます。此の體驗の無いお方なら、失禮ながら米の榮養價云々を品評する資格は不十分です。

衣蝨・カツヲブシ虫・シミ・絲狀菌等の被害を乾燥劑同封以外の方法で完全保管せんとする從來法も一大誤謬で、上は國寶から下は日用品に至るまでの被害は、火災・盜難・の數十倍にも及びませう。その故は、火災は稀れに起り、盜難は持主の變動に過ぎないが、蟲と菌と腐りと黴とを伴ふ濕害は寸時の間斷もなく、レンズまでも金庫內の藏品までにも加被されるからであります。商品の宣傳の樣ですみませぬが、私は生產・貯藏・全般に亘つて多年研究工業化して居りますから、乾燥に關する限り徹底的に御相談に應じます。

物資の節約を唱道すると之を誤解して消極的方面の、禁用・不買・若は賣惜み・死藏・などに向かはうとしますが、斯る消極的方法は結局萎縮と共倒れとに終りますから、寧ろ國民一般に心を積極的に持直して、「大いに買へ、但し極吟味して眞實必要且つ安價な物を必要量を越さぬ樣に買へ」。「大いに使へ、極注意して道理にかなう樣、適當量だけ生かして使へ」（杓底に湯を殘す）。「大いに賣れ、不用品を入たものに死藏するのは通貨を地中に埋むのと同樣の愚舉だ」と考へて戴きたいものです。皇紀正さに二千六百年と云ふ世界最舊邦の誇りを有し、而かも土藏とか押入とか、外國には類例稀れなる貯藏所の普及せる我が國が、五年や七年の戰爭や禁輸で、生活必需の物資に窮迫を來たすのは、物資そのものゝ缺乏でなく、全く偏在・死藏・の結果として市場

に姿を見せぬ様になつたばかりですから、當分の不用と思はるゝ死藏物品、例へば古座蒲團でも古毛布でも古洋服でもドシ〴〵賣放して市場を賑はし、代金は直ちに、之を適當に善處すれば、物も金も共に活動して「無常」の積極的方面、卽ち「物の使命」を「濟度」卽ち向上發展せしめる大慈悲にかなう譯であります。今日非常時下に萬一、米を賣惜みして、そのために已むを得ず外米を買入れ、普通價格拂下げともならんには、その價格差並に金貨喪失による國家の負擔荷重は如何に甚大なるか平時の考へでは算出不可能です。結局「國家の負擔は國民の負擔」でありまし。

現下、廢物利用の盛んになつよことは實に結構と存じますが、物資に更に自分の「情ケ」を込めると、價値の增加は實に測り知れぬ程・所謂、貧者の一燈が長者の萬燈よりも輝かしく成り得ませう。自慢話の嫌いがあつて洵に失禮ですが、代るべき例話を知らぬので亡き母の行跡を書かせて頂きます。母は子供の衣物が背丈けに合はぬ樣になると、必ず洗濯・補綴・糊附・砧打・等なるたけの手數をかけ、略ぼ新物の樣にしてから、夕暮頃、なるべく人目を避ける樣に、年頃の子供の居る貧家へ持參して惠み、子供の古着は一枚も家に殘さず、又古蚊屋も同樣處理しましたが、「屑屋に賣れば二束三文のものでも、可及的親切を込めて某々などの家に上げれば非常に喜ばれ、品物も生きて冥加にかなひ、而かも自分には何程の失費にもならずに樂しい日が送られ

る、ひとへに御先祖樣のおかげじや」と、その部度、佛檀に燈明をかゝげて禮拜するのが常でありました。よく泊り客のある宅でしたが、農家のことゝて蕎麥など饗應しますと、客膳が濟めば家族銘々に適量分配し、餘分は必ず家族の食事前に自身持參して貧家の老人達に配りましたが、「時がタツとそばがノビて味を損すること、家族の食後では食殘りの嫌ひがあること」を掛念したのです。母は鮎が好物でしたので學校の休日歸省の土產に買つて來ますと、父には酒肴を兼ねて二尾を供へても、自身には一尾だけとして、他は自分の食前に附近の貧しき老婆に駈足で熱い炙だちを配りました。「大へん好物でもあり折角のお土產じやが、珍らしいものは少し足らぬ位の分量の時に本當の味が有るので、餘り多いと味が落ちて勿體ない。又あの婆さんは病後でもオイシイモノも買へなかつた樣子で、涙を流して喜んでくれた、一擧兩得が出來た」とて悅んで食膳に就きましたが、死別後三十餘年の今日でも、鮎を喰べると往事が偲ばれます。又米を大切にすること非常で、今日の世態から見ると殆んど狂的の評を免れますまいが、賣米に對しては特に入念でした。母は賣り米に塵芥・屑米・等の自然混雜の虞れ有りと認めますと、自ら强い唐箕にかけて更めて精簸し、升目も亦一俵宛ての定量よりは二合程餘分に添加して、私に「この宅で一俵に二合位づゝ餘分に入れても少しも會計に響かぬが、町の貧しい人になると一握の米でも大切なのだから、こうして運賃なしの施しをするのだ」と如何にも嬉しさうに訓へて呉れましたが、

この事實がいつしか米屋に知られて、宅の名札を俵入に挿入する樣になり、毎年末にはお歳暮持參で禮に來たのを記憶して居ります。母は村内第一の勤勉家として知られて居りましたが、夜分など私に、「毎夜斯うして絲を紡ぐのに、三文の油を費して二文位の手間賃にしかならぬが、損得の勘定なしに働かせて貰へるのが有難いのじや」と、たびゞ〳〵諭して呉れ、當時十一、二歳なり私にはその意味も十分には解りませぬでしたが、「無功德」・「無所得」・の佛敎に思ひ合せて根强い庭訓と存じて居ります。又村の人達もなか〳〵親切に見返へして呉れられました。その一例を申しますと、宅では自作田も一町歩餘り有りましたが、或る年の春先き頃、父が二十日餘の病臥の後田巡りをしますと、殘らずの作田が耕されて在りまして、誰が好意でやつて呉れたか遂に其の仁が分らずに終りましたが、田舍人の親切さは、都會移住後・年久しき今日猶ほ忘れ難い記念であります。

我々は十數日にわたる斷食は可能でも、空氣が無くては十分間とは生きられぬ程新鮮な空氣の大切なるに拘はらず、高價な炭粉を含める煤煙で汚され、剩さへ紫外線の効能までもだいなしにする結果、米國の或る工場地帶では、從業員毎人の衞生費增加額が一ケ年三十五ドルに上ると某雜誌にありました。從業員外の人達にも同樣でありませうが、我が工場地帶とてもそれと大差はありますまい。又太陽熱は一平方メートルに一、一六四キロカロリー卽ち石炭一キロ瓦の約五分の一の熱量をもつて居ますが、煤煙は之をも消耗します（太陽熱を利用研究の必要）。又水が無くては如何なる養分も用をなさず、衣にも住にも大切なるに拘はらず、眞に其の價値や有難さを知ることは非常の際ぐらいで、常には誰でも無價の物として氣にもとめぬが、古來大德の方々は、此等の微細の點にまで周到なる注意を拂はれ、大乘的に取扱はれた例は澤山あります。今その一二を列擧しませう。

滴水禪師がいまだ儀山禪師の會下に修行の小僧時代のこと、師より浴湯をうぬる使命を受け、新たに井水を汲まうとして、たま〳〵桶底に殘れる少量の水を捨てましたら、儀山禪師は大喝一聲、「今の水は死んだ、なぜ無益な殺生をする」と嚴しく叱られました。「滴水」の名は此の敎訓の記念として附けたもので、「曹源の一滴水・一生受用不盡」と終生服膺され、弟子達にも諭され、大乘佛敎を履踐されました。ちとお話がそれますが、或る日・禪師の提唱後、某大官がその自慢の泉水をはめて貰ひたさに、自ら案内しつゝ見事な庭石を指して禪師の批評を乞ひましたら、「衲（ワシ）は石屋でありませぬ」とスゲなく言放たれました。本人の大任・下僚の模倣・等に對し、暗諭されたこととかと存じます（上の好む所、下之より甚しきものあり）。

明治傑僧の東方大闢と稱せられた南隱先師は、隱寮の掃除を時々自分でもされましたが、掃除後の雜巾を洗ふのに三個の小桶を用意して、先づ第一にて洗ひ、次に第二桶にて洗ひ絞つて、第

三桶に移し最後の淨めをされましたが、この手配にする効能を數字で表はしますと、雜巾から洗去らるべき汚分を一とし、各桶の水量を百とすれば、雜巾の汚れは第一次には百分の一・第二には萬分の一・第三次には百萬分の一となる譯で、雜巾は非常に清潔になります。さて桶中の汚水は第一の最も汚れた分をば植木にやり・第二では地覆石を洗ひ・第三では水場の竹簀の子若くは他の雜巾を洗ふなど、徹頭徹尾・水を生かしてつかはれました。若の此の場合水三百入りの大桶一個でしたならば、水量は前と同量を費しながら、雜巾の汚れは三百分の一は殘る筈です。又先師は町の湯屋でも、二つの小桶を上述の如く使つて、極度の少量の湯しか費さず、使用後の汚れ湯では流石の汚れを流すのを常とされました。我國の船員方も水を非常に注意して用ひられ、故棚橋洵子刀自なども水使に非常にやかましいお方でした。

又西方大關の獨園禪師（著者の法祖父）は、十年二十年の長き年月師事してもコヾト一つ聞き得なく、例へば雲水の按摩が拙なと、「お身の御師匠さんは平素お達者の様子でまことに喜ばしい、お身も亦心配が無うて結構だ」（師の健康のため按摩の不要なりしを思ひやる）。と叱るかはりに喜ばれた程、溫厚玉の如きお方でしたが、或る日のこと、烈しい叱聲が戸外に漏れるので、折柄參禪に來合はせたヤソ教徒の人が、珍らしさの餘り屋内を覗いたら、飯臺には山盛りの漬物鉢が在り、傍らには一人の小僧が畏つて頭を下げ、禪師は仁王立ちに立つて漬物を指さしつゝ、「この香の物を頂くのは衲とお身等と二三人ではないか、一度に斯う澤山にあげては、三日も四日も殘つて香の物の命のカオリが死んでしまう。物を生かすことの修行をする坊主たるものが、骨惜みの爲めに殺生するやうな不心得者は、衲の處には置けぬからサッサと出てゆけ」と叱つて居らるゝ所なので、禪師の高德を今さらの如く感歎し、一層參禪に骨折つたと申します。

世間には「三文にもならぬ事」との言葉も有りますが、お互の勤儉についての考は、自分のみに取つての損益勘定の念が主となつては、神國を誇りとする我國のお互としては餘りにも卑しく過ぎます。是非とも「聖謨翼贊の必須行持」として、「天地の化育をたすく」との高尚な信念からでなくてはなりませぬ。無數の數が極めて大數である如く、無價の物ほど價の有るものはなく、無功の功ほど功のあるものは有りませぬ。併し無價物中で最大の價値を有するものは何でありませうか、「一切唯心造」即ち無常なる諸行一切を日々夜々寸暇なしに、造作し・向上し・完成せしめるのも心、若くは之に反してそれを破壞し・墮落し・モウ一歩のところで所謂九仞の功を一簣に缺くのも・心であれば、申すまでもなく、お互の心こそ無價且つ受用無盡のもので、如來藏の異名の有る所以です。お互はこの廣大にして無邊なる至寶を行・住・坐・臥・如何様に使つて居るでせうか、ムダに使はぬでせうか、他時異日はさておき即今ドウですか、眞にか・妄にか・貪にか・嗔にか・痴にか・將た過去にか・未來にか・否な「現在に」・「純一無雜に」・と云ひ得

ませうか、一擧手・一投足、常に心身不二に成り切つて大乘的解脱の態度に出て居りませうか、難儀の感は「爲ぬでも濟せる」の惰心の有る時に起り、不平不滿の念は自分のことを一切棚に上げた時に起り、愚痴の心は大使命を忘れ自ら侮つて弱者に成り下つた時に起るので、畢竟は心をお粗末に使つた結果と存じますが、お互に大に猛省いたしませう。我が國では古來言葉よりも理法・理法よりも事實・事實よりも心・心が根本だとしてゐます（言あげせぬ國）。

道德的には古來君子國と尊稱せられた皇民も、物質科學には遺憾ながら全般から申しても、西洋に一籌を輸し居る現狀ですが、ファラデーが「科學に對する熱愛・誠實の熱狂は學問以上の大なる財產であり、增し行く知識よりも高貴なる賜物である」と云ひ、又英ミヒヤエル・フォスター卿が、「科學的研究には急激な困難に直面して人を救ふ勇氣よりも、ヨリ以上の確固たる忍耐的德性の勇氣を要するといつたことも味ふべき言葉でありませう。

我が國は多雨多濕で日照時間の極少ないため、古來「旱魃に飢饉無し」の諺まで有る位なのに、昨年の早害はどうした事でせう。單に不可抗力の天災とのみ諦めることは禿山が許しませぬ（ドイツ民族は森林を神聖なるものとして保護）。如何に旱天でも我が島國にあつて空中水蒸氣の不足な筈はなく、つまり植林政策の不完全なため、夜間最も結露し易き草木の葉の缺乏に由るのでせう。而かも禿山を茂山に回復するにはバゲシバリがある筈です。（金澤營林署では生長率が普通樹の二倍以上といふパルプ用軟材イングニス松の養成に成功）山岳多き我が國に在りながら斯くも水災・旱害の頻發し、又は林產資源に不足を告ぐるのは、政策が天惠に背ける結果ではありますまいか。教育には、大和魂を今少し經世濟民的方面に活動する樣導いては如何でせう（愛きは心に在り）・（地下水量は無限なり）。

現下は實に千載一遇の一大好時機ですから、寸時の油斷も無く生活の改善を圖らなければなりませぬが、日本文化は櫻花の旭ににほふが如く・菊花の九重にかほるが如く・、杉森の神社を護るが如く、どこまでも我が國史に鑑み、我が國民性を根本とし・、我が國體の精華を登揚した日本人自身の進步でなくてはなりませぬ。尙ほ一層手近に申せば、各自の個性・家風の合理的改善發達からであり、而かも皇民としての大使命達成に合致する文化でなくてはなりますまい。勿論之が培養の肥料として他の長所を採つて同化し利用するのは結構です。斯る自覺に立脚し十分に發達した日本文化こそ、新建設大東亞の標榜たるのみならず、やがて世界の文化に貢献する所、

戊辰書に「勤儉產ヲ治メ」の御言葉を拜しますが、この「勤儉」を單に「ツトメル」・「ツヾマヤカニスル」・とばかりに解さないで、「勤」を消極的には「時を殺さず」、積極的には「時を生かす」ことと解し、「儉」を同樣に「物を殺さず」・「物を生かす」・ことゝ廣義に解したい。若し已むを得ずして殺す時にも尙ほ犬死せしめず、寧ろ或る意味に於てヨリ大なる生命を與へたい。卽

ち時をして無量壽ならしめ、物をして無碍光を放たしめることを、勤儉の究竟と解して以て生活改善の主目的としたいと存じます。前歐洲大戰の際ドイツの軍人は、あれほど物資不足に苦しんで居ながら、最後まで羊毛の軍服を着けて居たので、列國から不思議にされて居りましたが、戰後調べて見ると、ドイツは國内に在る羊毛の九割までを回收し、それを十一回も反毛して軍服につかつたのであります。

「廢物利用」なんと耳ざわりの良い言葉でせう。併し此の言葉には一旦廢物となりさがつたものを更めて救ひ上げて利用すると云ふ嫌ひがありますから、寧ろ人を敎へ・人を使ふ・上には勿論、如何なる物資からも廢物を作らない・何物をも廢物とは見做さない・大切な資源としてその物の性質に適應して生かして使ふ・其の場〳〵に滿點を得る樣にイキ〳〵させて使ふ・と云ふ風に改めたいと存じます。例へば、馬鈴薯の皮を生て剝げば皮の方に身・而かも大切なビタミンを含んだ部分が附くが、湯煮の後ならばこの憂が無いから、生剝ぎして棄てた皮からの養分回收よりは良い譯でせう。併しその發芽部卽ち凹みの部分には魔醉毒ズラニンを含みますから、先以てその部分をエグリ去つて後に水に浸し置き、然る後に煮ますと味もよくなります。林檎は皮のまゝよく洗ひ、皮とともに喰べるのが榮養的であります。今日は硝子の破片・罐詰の空殼まで工業原料として回收されますが、回收し得た物資それ自身の價値よりも、寧ろこれを取扱はるゝ方々の氣高き公心が生き・貧人が生き・工業が生きる・等の副効果が甚大であります。慈善・公共の事業は、主人の懷から若くは世人の財布から取出すのが本來の意義ではありますまい。又佛敎では慈善は已むに已まれぬ自己の慈悲心を滿足させたその事だけで十分で、其の餘の念は水に流し忘れてしまふ。若しそれを記憶すると、「善根魔」となるとか・「報を求むるの業は餓鬼なり」とか戒めて居ります。由來、慈善を施すのは藥を與へるのと同じで、病人から各種の障りを除いて生理通りに生き得る樣回復させる働き、卽ち病の邪道から健康の正道へ誘ふ手段に過ぎず、慈善はなるべく速く他人の庇護を離れて自助獨立し後る樣に導く方法でありますから、人々の苦しみの狀態に適應せしめ、老者は之をいたわり・幼者は之を育て・壯者は之を働かせ・弱者は之をはげまし・惰者は之を勤めしめ・惡者は之を矯さしむべく、甘・酸・辛・苦・いろくの藥が有りませう。慈善の名になづんで砂糖や蜜ばかり與へると胃腸を害し、慈善の押賣りが始まると惰民や横着な失業者ができます（某國には悠々と自家用自動車で失業救濟金を貰ひにゆく者も居る）。觀音樣たは恩・威・並び行はるゝ十一面の象徴御像が有り。慈悲の標示として青黑色に彩どられた不動尊は、火炎を伴ひ・繩や劍を持して居られます。これは慈善のみならず、敎育其他にも同樣であります。「愛見に墮せぬ大慈悲」が大切であります。

兒童の貯蓄心を發達せしめる事は誠に結構ですが、それは兒童自身では金を生して使ふ力がな

いから、之を貯金して立派な方々に事業の資本として生かしてもらい、特に現下の如き非常時局に際しては、僅かな金でもそれを通じて奉公の萬一に供し得るのだと、良心滿足感（冥加主義）を第一とし、それによつて得る利子など第二第三とする様に教へることが極めて大切と信じます。

從つて割增金など射倖心をそゝる政策は、國民に阿片を賣りつけるのと同樣・他日の良心痲痺の結果必然ですから、かゝるドロ繩政策は一日も早くその必要を感ぜぬまでに、國民精神の作興することゝ・振作せしめる爲政家の盛德と・を熱望します。現今「米」・「炭」・など幾多難問題のあるのも、實は物資そのものゝ不足よりも、寧ろ射倖貪婪より生じた偏在の結果だと一面には憤慨しながら、他面では同時に割增制を公々然奬勵するのは、國策遂行上の永遠の將來に對し、何人も黙然たらざるを得ないでありませう。辭職後までもと責任を大々的に自覺なさる方々はいつ出現なさるものか。

我々は空氣や水をさほどに思つて居ない樣に、生活上非常におかげの有る火についても餘り注意をひいて居ませぬが、我々の世界から火を取り去つたら世の中に大へんが起りませう。人間が自然界の優者として萬物を支配し得るのは、火の使用法を知つたからで、如何に恰悧な動物でも火を使はないから、火の使否により人間と動物とを區別すれば一つの例外もありませぬ。西洋の神話に、「昔時、半神人が男ばかりの火なき人の世界を憐んで陰かに天上の火を盜んで來てくれたが、それ以來・人に智慧がついて神の威が衰へた、そこで神は大に怒つて半神人を山頂に縛り、更に男を誘惑すべき有らゆる美を備へた女を地上に創造して下界の攪亂を試み、罪と惡と死とを生ずるに至つた」とありますが、是は火が大切なことの寓意でありませうが、此の話によつてたま〳〵古來外人の信ぜる神の意義が暴露され、且つ表面女尊に見えても內實は婦人を罪惡視する一端が知られます。我が日本に於ては天照太神樣を女性にましますと傳ふる國史・八歲の龍女卽身成佛と唱ふる佛敎・共に女性を男子よりも劣れるものとはせず、男子を剛健に・女子を貞淑に育て、異性を異性として差別しつゝ同等位に觀ます。斯く差別中に平等・平等中に差別を認めて、毫も相侵すことなき眞理そのまゝの國風こそ實に尊いことゝ存じます。又或は祖先の厚恩に感謝し・或は高德を追慕し・憧憬して神として祭り、更に自然の作用官能を神聖視して神に配し、火の神・水の神・等と稱して、ひたすら其の恩惠を全うし、且つ神意卽ち眞理に背かざらんことを宗とします。實に高尙にして道理に合へる國風ではありませぬか。學者が自己の研究の結果を世界に發表して國威を海外に輝かし・世界の學海に貢獻すると同樣に、我國古來の麗しい風俗・正しい信仰・を益々發達せしめて、內・國運を發展せしめ、外・國光を宣揚せしむると同時に、世界人類の精神文化上に裨益を與へ八紘一宇の聖謨を翼贊し奉ることは我々皇民の一大義務で、又其の義務を果たす事の緊要さは學術技藝の研究發表や、天然記念物保存の比ではありますまい。

火と云へばマッチ、火の德に氣がつかぬ間はマッチの使ひ方にも氣はつかぬが、マッチの棒を長く持ち箱に對して長く擦る樣な從來の愚をやめて、棒を顏部短く持ち・箱に押しつけて僅かに棒の頭だけをずらす位に擦れば、棒は決して折れぬのみならず、藥面の消耗も極めて少くてすみます。ベルリンではマッチの燃からを工場に集めて再生し、或は家庭で附木の代用にします。華美流行の魁の樣に評せらるゝ巴里の上流婦人は、マッチがらを揃えて煖爐の焚附けとし、兼ねて失火の患を豫防し、又ハガキを細く切つてその端に硫黃を附けて附木代用にします（パルプ不足に困る現在の我が國では古ハガキは勿論、古新聞・古雜誌でも燃すべからず）マッチ一本は實に僅かな物ですが、全國二千萬の各世帶に於て、改良擦り方によつて朝晝夕各一本づゝ節減ができたとすれば、一ヶ月九十本代金二錢・一年金二十四錢・全世帶では年四百八十萬圓となる、小を積んで大となす誠に注意すべきことです。「地は一撮土の多きなり、山は一卷石の多きなり」と中庸にもあるこの通りであります（マッチがら・煙草がら・の路上放棄は危險なる惡習）。

木炭は冷えて居れば多重の臭氣や有毒瓦斯等を吸收し、熱すればそれを吐出しますから、お座敷の火鉢につゞく木炭は前以て火の移る位に豫熱を要します。冷たい火鉢や煙草盆に炭火を入れるには、先づ火箸で灰をフワ〳〵にかきまわし、中央に炭火よりも稍大きな穴を明けて入れ・灰の少しく熱した頃を見計つて上部だけに灰をかけます。そうすれば急冷せず通氣もしますから火は消ませぬ。灰の代りに石綿・鑛滓綿・ロックファイバー・を使へば一層結構です。又座敷の爐なぞで炭火を動かすとき白灰が立ちますから、燒砂を炭火の上から撒き、白灰を砂と共に落着けてから炭火を一方に片寄せ、然る後に木炭をつぎ足します。火面が砂に掃除されて空氣に觸れ易くなり火を熾んにします。

御飯の炊き方の俗謠に「後先（アトサキ）チョロ〳〵中バンバ、赤兒が泣いても蓋取るな」と云ふのがありますが、能く事情を盡したものです。炊き初には竈も鍋釜も冷えて居り、燃料を多く使つても煙ばかり出て完全には燃えないから、初は底の中央だけに焰の當る樣に燃し、釜中の熱するにつれ水が米をつれて循環を始めるから、此の際には火を大きくして循環を助け、ふきこぼれぬ樣・熱がむらなく行わたる樣にします。盛んに沸騰する樣になれば如何に火を强くしてもそれ以上には溫度は上らず・蒸發熱を損するばかりですから火を弱めます。尋いで湯氣が透明になつて煮え音が靜まる樣になつたら全く餘燼を去り、竈内の冷えぬ樣に戸を閉ぢて置きます。又煮る間は必ず蓋をして置くべく、蓋は輕いよりは重い方がよろしい譯ですが、重壓釜は慣れぬ方には危險でもあり・さしたる効能は望めませぬ。以上俗謠の樣に炊けば、御飯の中央が高く盛り上り且つ飯粒が菊花狀（放射線狀）に立ちます。「江戸風土記」に、牛込の或るスシ屋では、菊花狀とならぬ御飯ではスシを造らなかつたとあります。

又決して出來そこないが無いとの保證づきの玄米の炊き方は、玄米一升・水一升九合から二升位、ざつと水洗して前夜しかけて置きます。沸騰してオネバが吹きこぼれそうになつたら蓋を取り、水氣が減り穴があいてきたら蓋をし、火を引き、二三十分蒸して仕上げます。又七分搗米は上等の米なら一升に水一升四五合・軟質といはれる下米なら水一升三合位ザルに入れ、ざつと水をかけて洗ひ、前夜しかけます。火は弱く沸騰したら、ふきこぼさぬ注意をして火を強め、こぼれそうになつたら火をだん〳〵弱め、白米の倍位の時間たきこみ、火をとめる時ボツともう一度もやし、白米の倍位の時間蒸して仕上げます。

前述の餘燼を去る代りに竈の中に濕れた新聞紙屑・鉋屑・鋸屑・等を入れて戸を閉ぢ、出來た蒸氣で長時間熱を保たせて飯を熟ませると、焦げぬ利益もあります。御飯を炊くのに水から米を入れて炊くよりも、水を沸騰させてから米を入れる方が暑中など臭氣がなくて良くあります。又杓子やお櫃は熱湯で洗ひ淨め、かぶせ網で蠅を防ぎつゝ十分に日光に曝します。

ノルウエー人の料理箱（魔法煮物器）は、引出が角形の鍋で出來て居る小簞笥の樣なもので、引出鍋を一個づゝ沸騰するまで煮ては直に箱に納め、終りに蒲團其他の保溫物で包みます。それで各煮物の溫度が平均して十分に熟まれ、且つ容易に冷めないから、稼人などが朝家を出る際に斯く料理して置けば、夕方歸宅の際溫かい食物を攝り得るなど甚だ重寶であります。又「火無コンロ」も同じ應用です。又卵の半熟も同じく熱の平均で安全に造れます。卽ち卵の漸く沈む位に鍋に水を入れて、沸騰少し前に火を去つて卵を入れて蓋をし、冷えぬ樣にして置くそれだけです、卵白は攝氏八十度以上卵黃は七十五度以上で固まりますから、上述の如くすれば白黃ともに半流動の半熟卵が必ず出來ます。若し七十五度位の湯に入れて置くと卵黃のみが固まります。

肉類を炙るには、最初は較々強い火にかけます、之は肉を煮るのに汁が沸騰してから入れるのと同樣に腐敗を防ぎ味を良くします。尙ほ少し〳〵焦せば香氣を增します。外面が少し焦げる樣になつたら火を弱めるか或は火を遠ざけますと、內部まで柔かに蒸せて硬くもならず崩れもしません。魚串は斜めに魚頭を下向にし、餘分の汁が串を傳へ去る樣にせねば良風味は出ませぬ。又頭や鰭の硬い魚皮の厚い肴などは、その都分を少し過度に焦がす位が結構ですが、最初から急火に當てると折角外面に出來た薄皮が破れますから注意を要します。魚類はたとへ煮るものでも、一旦燒いた後にすれば味や風味の良くなるものが多くあります。風味と焦げとには餘程密接な關係が有ります。多くの野菜や貝類はその養分の殆んど全部が煮汁に溶出し、肉類は味だけ溶けますが、蒸物にすると養分全部が材料中に保有されます。「火ノシ」は蒸物の應用で、衣物を淸潔な適度に濕したタオルで包み、「火ノシ」で上から輕く押へると蒸氣ができて衣物に浸込んで湯となり、皺を伸ばし黴菌・虫卵・を殺すのです。若し目附用の澱粉を含んだ織物だと蒸氣のため

糊ができてべたつきますから、先以て織物に少量のアルコールを浸めてから「火ノシ」がけをします。紅絹(もみ)には水はいけませぬ。又蠟のシミを去るには上下兩面に乾いた日本紙を當てゝ火ノシがけをします。

従來の日本竈では、熱を受けるのは釜の鍔の下だけで、鍔上は空氣に冷されますから、竈の上に通氣を妨げぬ樣にした保溫用の被蓋がいります。瀬戸引(琺瑯鍋)は急に強い火にあてるとヒビが出易いから、最初は弱火にし次第に強めます。又焦げつかぬ樣にするには竹の皮かヘギ板を敷きます。まゝ有毒な鉛分の出ることがありますから、鍋にうすい硝酸水を塗り、暫くして更に沃度加里の液を塗ると、鉛が有れば黄色の沃化鉛が出來ますから直ぐ知れます。これは醋酸でも少し入れた水で十分に鉛分を去る必要が有ります。

湯沸し或は小鍋等をかける茶の間火鉢には、必ず助炭をおすゝめします。木炭の消費が頗る減り、殊に弱火で長時間煮る必要の時に極めて重寶です。幼兒の居る家では、此種の火鉢は手の屆かぬ高さの臺に固定するなど、火傷等の危險豫防が肝要です。寢前に火鉢の殘灰に銅製水管を通し、手洗用溫湯を得ると同時に「火の用心」をすることも結構です。家庭用蓮根煉炭には、市賣の煉炭燃燒器が必要ですが、欲を云へば蓋に完全燃燒の原理を今少し餘分に加へてほしい氣がいたします(通氣を妨げぬ樣輕石を炭に上置することも一方法)。

肌の濡れたまゝ火や風に乾かす時はヒビの切れ易いもので、女中の手・配達夫の足・海水浴客の肌にヒビのできるのはその爲めであります。皮膚は黴菌防禦の甲冑ですから、火鉢の出る季節には充分の手を拭ひ乾かして後に火にあたる樣に注意を與へていたゞきたく、又海から上つた時は十分に肌を拭ひ乾かし、少しでも濕れて居る間は風に當り日光に曝らしてはなりませぬ。ヒビの藥は酒精二五、グリセリン二五、苛性加里〇・五(又は硼砂二位)、水一〇〇、のベルツ水が結構です。毎夜寢る前に少しく掌に滴して肌に塗りつけますと、冬もヒビ知らずに濟みます。

萬一、火傷をしたら、手足の先き位なら直に冷水に浸して痛みの去るまで待ちます。水に浸し難い部分ならば、タオルに手早く水を浸めてその部分を包みます。其の間一秒でも半秒でも遲ければ遲いだけ結果が惡いから、極めて迅速を要します。その後は醫師です。幸にグリセリンが有れば最良ですが、蜂蜜でも糖蜜でも其他刺戟なき粘液を、ガーゼかタオルに浸めて包み、時經て痛みを感じ出したら直ぐに新たに取かへます。大抵は痛みを知らずに・傷を殘さずに・濟みます。但しカーゼをずらすと表皮を傷けるから注意を要します。

ストーヴに就いては、倒炎裝置・不完燃燒部への空氣補給・供給空氣の室外よりの取入れ及び豫熱・耐火物による炎の圍繞・等により完全燃燒をなすことを必要とします。煙突から煙の出るのは、燃料の浪費のみならず紫外線を遮ぎり、公衆衞生に反する不德行氣であります(完全燃燒

裝置の御相談に應じます)。風呂は長州風呂が最經濟的であり塵芥を燃し得るので衞生的でもあります。炬燵は長居して懶惰者の養成所としない限りは結構な設備で、寒國の疊敷の家に年寄子供が居るとき、一家團欒の際など僅かの燃料で、身體のみならず、親子兄弟の心の底までも煖まりながら和氣靄々歡談することは、心身の疲勞回復の方面から見ても良策でありませう。併し炬燵には毒な酸化炭素が多いから吸はぬ樣、火事や火傷の無い樣必ず金網蓋をすること、假寢して風引き腦充血等にかゝらぬ樣注意が大切です。酸化炭素を吸ふと神經系統に害がある外に、尙ほ赤血球のヘモグロビンと化合して血液の酸素運搬能を全く無くするので、此の瓦斯を容積二%含む空氣を一時間も吸へば、窒息卽ち血液の酸素不足で死に至ります。完全燃燒の裝置のない從來の火鉢の樣なものゝ炭火は、なか〳〵多量の酸化炭素を發生するので、ランマの無い病室ではこの瓦斯のために害を蒙ることが多いさうです。次に此の瓦斯を多く含んで居るのは煙草の煙で五乃至六%も含んで居り、毒を除くことも弱める方法も無く、吸ふただけは正直に掛値なく害を與へます。「ナーニ初から善いと思つて始めたのでないのだ、今更止められるものか」との仰せならば誤熱心のほど痛入る外はありませぬ。併しもう一言いはせて頂けば、大酒家や猛烈な喫煙家は、往々自分が聾となるのみならず、其の子孫に聾者の生れることのあるのは事家ださうです。(耳の病氣は治療極めて困難ですから、少しでも故障が有つたら早速專門醫に)。毎年數億の損害を出す火事は、煙草に原因することが最も多いのですから、マッチも吸殼も必ず全く火氣の去つたのを確認して、然る後に捨てる樣堅く〳〵御決心を願いたく(登山者の起す山火事)。マッチ製造家諸君には、焰が消えると同時に餘燼が黑くなる瑞典式(軸にアムモニア鹽類を含ましむ)に改良を願ひたいものです。

關東大震火災に於ける燒家五十餘萬・死者十數萬・損害百數十億といふ大非常事變は別としても、全國每年の火災は一萬七千餘件・建坪六十萬坪・損害二億圓と申します。而かも火災の原因の八割强は過失と横着とから出たもので、不可抗力と云ひ得べきものは極少數のことです。國防婦人會の方々には科學的消火方法も・內部からの火災の無い樣にも・お心添えを願ひたいものです。諸外國は火災數がだん〳〵減少しつゝあるのに、我國は却つて增加しつゝある樣です。(戰時の燒夷彈は每戸一個ヅヽ落すとのこと)。

火災と知つたら自家他家の區別なく火事！　火事！　と連叫し且つ電話交換手に通報すべきです。自家の外聞などを氣にして躊躇してはなりませぬ。消火・避難・電氣瓦斯に對する注意は豫め訓練して置く必要がありませう。又大切な物には非常持退と大書、而かも大切さの大小により持退順の番號(總個數も)大書、且つ容易に運ばれる樣紐を通し置くことが必要です。安心し得る土藏あらんには、非常詰込み用の番號札を、物品と土藏の棚とに合札として附け置き・又土藏

内を通る路順も習慣となる様定め置きます。（知人某骨董商は十三回罹災・最後の神田の大火事には此の注意訓練のため帯一本草履半足の燒失ですんだ）。如何に丈夫な倉庫でも、長時間の包火には藏品が變質、時としては發火までしますから、十分な水溜り・自動撒水の用意が要ります。又疊は餘程ゆとりの有る時に最後に取出すべきもので、初めに出すと邪魔になるばかりでなく、床を踏みぬき怪我の虞れがあります。遺牌其他祖先に關するものは持退第一號です。火事の煙は輕くして可なり長時間地上一尺以下には下らないから、煙に包まれたら濡れタオルなどで口鼻を被ひ、濡れ座布團を頭からかぶつて匍伏して逃げねばなりませぬ（戰時毒瓦斯はなるべく空氣よりも重く造る）。烟を多く吸ふと先以て窒息して人事不省となつて倒れ、尋いで燒死します。又大火事場を通過した風には有害瓦斯を含み、酸素の缺乏する事は必然的ですから、如何に空地が有つても、火に包まれ若くは風下となる虞れの有る個所に避難しては窒息の不幸を見ることが有りがちですから、なるべく郊外の水あり森林有る土地を目當とせねばなりませぬ。併し最も大切なる要件は、落着いて而かも速く逃げること・品物に欲を起さぬことでせう。持退荷が焚附となり、己を焚き他を殺した例はよく有ります。他家の火災と聞かば、近所ならば留守居だけ殘して男子も女子も先以て科學的消火器・手提ポンプ・バケツ水・等を持つて駈けつけ消火に盡力すべく、消防隊が來るか、いよ〳〵ダメと見きわめるまでは決して自家の事を考へてはなりませぬ。その火元さへ消せば自家は無難です。こゝが先途です。相互救助の第一手段です。其の間には人が集まります。そこで歸宅して類燒の豫防又は自家出火時の注意通りに移ります。最早手傳人は十分ある筈です。火がやゝ遠くて類燒の心配の無い時でも家をあけて見物に出ると、消防の邪魔・自家の不用心となるから、警戒して内に居るべきです。人の駈ける道が暗くば燈火で照し、路傍に飲料水を出すなどは、御婦人方の間接の消防御助勢として望ましいことです。消防の人が水を飲めば息がきれず、汗で着物が濡れると現場に到つて十分な働きが出來ると申します。

水で火を消すのに　（一）水によつて發火點以下に冷やし且つ燃材面を蔽ふのと。（二）注いだ水が蒸發して千數百倍容の蒸氣となり、燃材附近から空氣を驅逐し、同時に蒸發の潜熱として多量の熱を奪ひ取るのと二つあります。（一）は小火の時の方法ですが、水に不揮發性の鹽類を含めば材面を蔽ふことに於て一層好結果で、液體消火器はその一例です。（二）は可なり大火の時に執る手段で炎をあげて燃える場合には此の法によつて消します。併し猛火となつて後に斯くやりますと烈しく蒸氣を生じ、高い氣流を作つて炎を上昇せしめ、且つ周圍から空氣を吸込んで燃え、特に水不足の時は火勢は却つて熾んになりますから、猛火の時には上方より雨下せしめるより外はありませぬ。又煉瓦・　石などの燒けたものに、之を冷やし切れぬ位の少量の氣を注ぐと、水分蒸發のため「火吹きダルマ」を作つて火勢を増します（防空演習には燒夷彈の性質並に之に

適應する科學的消火法の實演最も緊要)。

藁灰は今一度燃えてから灰となるべき藁の多孔質の炭で、冷時には多量の臭氣・瓦斯等を吸着するから、時としては發火の虞れがあり、之をガーゼに包むと脱脂綿の代用品ともなります。又木綿の袋に入れて幼兒の「小便ブトン」とするのも良い應用であります。農家が藁灰の俵に小便をかけて肥料(アムモニア瓦斯吸收)を作ることは良い考だと存じます。木灰には炭酸加里を含み、蟲卵・ウジ・黴菌・ を殺す力があるから、蠅の好く樣な宅地内の汚物には一切木灰をかけて掃除しますと、蠅の趾端が木灰の炭酸加里に痛められるから再び寄りつきませぬ。又炭酸加里は大切な肥料で而かも我國には不足がちですから、木灰を無意味に捨てゝはなりませぬ。福井市各小學校で兒童を經て木灰を集めて居らるゝのは洵に結構な企と存じます。(蠅の完全驅除法は別に發表します)。

蠅などによつて傳播され易い結核・チブス・赤痢・ヂフテリヤ・痘瘡・猩紅熱・等のバクテリヤは極めて微細なもので、其の大さは毛髮の直徑の三百分の一位だから恐るゝに足らない樣ですが、其の繁殖の速なこと驚くの外なく、一匹のバクテリヤが十分生長すると二個に分裂し、分裂したものも亦生長後各二分されつゝ繁殖します。斯く自體が分裂しつゝ增すのですから、親子の關係もなく從つて兄弟もない、而かも數だけは殖える樣な奇妙な增殖をします。その分裂は適當な溫度で養分の十分な場合には、二十分間毎に行はれますから 一晝夜には七十二回行はれ、二の七十二乘は二十二桁にわたり四十七垓二となります。全世界の人口を二十億・毎人・一ヶ年間の飲米を一石、一石の米粒を七百二十萬粒として、五十萬年間の飯米の粒數に略相當します。斯く我々の思念し得ない多數となつて、其の一々より毒素を分泌しますから、バクテリヤのために病死を來たすのは當然であります。而かも高度の顯微鏡でなくては見えぬから自づと視逃す樣になり、一層危險であります。併しバクテリヤの侵入が口よりするものは唾液と胃液とにより、皮膚よりするものは表皮により、呼吸よりするもるはマスクにより、眼・肛門等の粘膜よりするものは接觸を愼しむことによつて、大體の防禦が出來。健康體であれば、右の毒に對して抵抗する所謂抗毒素を發生してバクテリヤを殺し得る樣な、不思議な有難い體を親より賜はつたのですから恐怖は無用です。併し日本人のキレイズキ自慢には、バクテリヤ有無の吟味が不徹底ですから一層の注意を要します。

或る豪家の娘が婚約もすみ支度も調ひ、偏すら黄道吉日の至るを待ちわびし甲斐もなくて、潜伏せる肺結核のため重患となり尋いで死亡しましたが、母は悲憐の餘り病臥中の娘にその新調の衣裳を被らせて慰め、死後は又その記念を手許に留めるに忍びず、そのまゝ附近の年頃の娘に廉く讓りました。斯くてその衣裳は第二の花婦を美しく飾りましたが、病毒に感染して歸省療養中

に死亡し、間もなく看護に盡瘁した父母も兄姉も一家五人全滅の悲慘事が生じました。勿論惡意あつての讓渡ではありませぬが、結果から云へば消毒を忘れたばかりに、賣手は五人を殺し、買手は衣裳の代金に更に五人の命を添えた事となりました。實に古着は賣るにも買ふにも大に警戒を要します。「前生のお約束」など迷信は一大禁物です。又消毒の考なくして古本を買ひ貸本を讀んだために、平素極めて健全な某模範學生が肺患で夭折した例も承知して居ます。近頃は眼からも肺病の傳染することが立證されたさうですから、古着、古本は一層注意が肝要です、併し肺病は必ず全治し得るもので、醫療と心の持方とで、彼の重症者がと思はれた人で七十歳以上も長命した例を數多く承知して居ます（結核病の九割五分は肺にあると云ふ位肺に最も多きも潜伏結核は無症狀で打診聽診では見つからないから最新式健診法を集團的に早期診斷を緊要とす）。

「戰爭と衞生」を極度に警戒してゐるドイツ保健省の發表によれば昨年（昭和十四年）度のベルリン市民の花柳病新患者はたつた卅五人・全國五萬以上の都市の統計でみても千人につき五・五人の率とのことです。民族優生運動がドイツに勝利の榮冠が輝いて居ます。ベルリンでは今次の大戰にも、「優秀な民族・優秀な武器あるところ必ず勝利あり」と、靜かに決定的勝利を待つて居るさうです（但し我が皇道・聖戰を模範として戰後の後始末あらんことを祈る）。

「平生の心にほしや風呂上り」と申す如く、風呂は疲勞後の無二の慰で、心の底までも伸びやかになつて誠に結構ですが公衆用錢湯（セントウ）には、殆んど總べての病源菌を含んで居りますから餘程の注意を要します。チブス・赤痢・等の患者は全快後も通常數ヶ月間・病源菌を保有して居るのに、本人は平氣で錢湯に來ることも有勝ちですから、なか〳〵危險であります。二百三十六名の女學生が同時に急性婦人病にかゝつた例もあります。又錢湯の湯で顏を洗ひ、不幸にして痳病菌が眼に入り、其日の中に兩眼がつぶれた樣な悲慘な例もあります。顏を洗ふには上り湯を用ふべきは勿論、必ず眼を閉ぢて洗ふはづであります。湯床に坐り又は不潔な腰掛のために、結核菌が侵入して大病となつた例もあります。公衆衞生のためには是非下體を石鹼で淨めてから入り、上る時には自己のためには上湯で淨め、更に冷水のタオルで拭くことが必要であります。湯の溫度は土地の習慣も有りますが、多濕の土地・勞働の人では少し高い方が良いと申します。病人は醫師の指定を要します。

風呂場で身體を摩擦するには、靜脈の血行を助けるためマッサージの樣に心臟の方へ向つて擦るのを良しとします。血液によつて動脈からは酸素と養分とを運び、靜脈からは老廢分を運んで肺・皮膚・腎・腸・から掃除するのですから、疲勞の回復のみならず、健康の保持にも增進にも大切なことです。都會の方々の汽車洗面場や錢湯での湯水の使方を見ますと、家庭では實によく注意周到に物を生かして使はるゝ私德の完全な方々で、尙ほ且つ人待たせの時間の空費や、多量

の湯水濫用をなさる様な、公德缺陷を平氣で公衆に表示さるゝこともあり、之に反して一滴といへどもムダにせず、最後に桶に殘つた水で浴場の汚れを流し桶は定置場に始末つて歸らるゝ等、ゆかしいお方も稀には拜見いたします。ベルリンでは一人の頭割り以上の水量を使ふことを恥とします。公園で手洗水を浪費して子供に注意され、刺身を「洗ィ」にして下宿を逐出された方もあります。序ながら申しますが、水道の蛇口からゴム管で洗濯盥に水を送る時などの際に、ゴム管の先の盥水に觸れぬ様必ず注意を要します。水壓の負となる場合には水道管に汚水を吸込み、自他ともに恐るべき病毒傳播をひきおこすことが有勝ちです。

「白金も黃金も玉も何せんに勝れる寶子にしかめやも」。子は親に取つては如何なるものよりも大切で、子のためには身を犧牲にすることさへ厭はぬ程ですが、我々よりも一層進んだ第二の國民を生み・育て・敎へて、君國のためには勿論・世界人類のためにも盡すべきこと、即ち愛撫よりも一層重大な義務を有することは申すまでもありませぬ。東鄕元師の母堂は元師の幼少の時にも他日國家の柱石として育て上ぐべきものなればとて、其の寢床の頭の方を通らず、裳の方へ廻られたとのこと。そのお心掛てこそ庭訓も行屆き素志を達せられた次第と存じます。「子供の入浴監督の時間には、國家の大事の外は面會を謝絶す」といつた古羅馬の大臣もありましたが、實に入浴の時は子供の身體檢査の好機會であります（體重計・記錄）。蚊の刺痕にはイヒチオールの酒

精液を、蚤痕・腫れ等にはメンソレータムを、カメ・アセモ・にはシッカロール・亞鉛華・等を塗擦又は撒布します。幼兒の股に生ずるオシメイボは、青桐（フラギリ）の若葉の絞汁をつけると一夜で消えます。世には子供の皮膚病を胎毒と誤解して、その初期を看過して大事となる多くの例もあるが、謂ゆる胎毒は殆んど絶無で、生後の不潔・不注意によるさうですから、決して油斷はなりませぬ。幼兒の放便はムッキに取るか又は明るい所でなさしめ其の色・硬さ・性狀・臭氣・度數・其の他などに異狀あらば醫師の診斷を要します。又常に目の色・舌の色・等に注意を要します。實に全世界を通じて人間の五分の一は六歲未滿、即ち母の手に在る間に死する統計であり、我が國の乳幼兒死亡率中下痢腸炎によるものは、實に歐米諸國の十倍乃至廿倍に達する有樣であり又幾日も秘結すると腸內の腐敗物から生ずる劇毒のため大病となることが極めて多くありますから、幼兒のみならず、靑壯年でも老人でも便秘を等閑に付してはなりませぬ。

第二章　（わかよたれつねならむ）

「わかよたれそつねならむ」を、眞名で「我世誰曾將常在」、或は「我世誰歟常住」と譯し、又「誰」は「何也不ノ知二其名一也」とありますが、どの說にしても結局は、諸行の無常なることは萬

古不變の眞理なれば、人世とて何ぞ其の例に漏れて常住ならんやと、諸行無常に對する科學的觀察に更に哲學的思惟（人生觀）を加へて一層その意味を充實せしめたことになりませう。

この「わかよたれそつねならむ」は、四句の偈では「是生滅法」に當りますが、偈にいふ宇宙間の森羅萬象並に人世一切の出來事が常に變化流遷して止まぬのは生と滅との相對法であるからだと云ふのであります。生に對して滅は必ず有り・盛に對して衰が必ず有るに相違ありませぬが、生・盛・の理を知れば生・盛・をしてなるべく善く・美しく・永からしめ得べく、滅・衰・の理を知れば滅・衰・をしてなるべく遲からしむべく、「一切唯心造」の心を働かして「無常」の眞理に順應しつゝ、目的にかなふ樣制御して大使命を果たし得るのも、「ゴッドの創造說」・「ゴッドの禍福左右說」が幸にして人爲的虛妄であるからであります。

こゝに云ふ「生滅」は一切の差別相對法の代表詞として擧げたので、我々の五官に知り得るもの・心で思慮分別し得るもの・等々・一切を含んで居りますが、是等悉皆をば日に月に向上善處して、人格修養にも・皇民としての大使命達成にも、一意役だてることが人生の眞意義であり、生き甲斐のある生活でありませう。安心も立命も此の境地に立脚せねばなりませぬ。

少し科學者風に申しますと、知識はすべて經驗と共に始まり、經驗はその內容の類似に從ひ觀念を以て歸納的に總括せられ、生活に於ける行爲の結果を演繹的に豫測推定する媒介となり、概

念はまた新經驗のために歸納及び演繹の兩面的思惟によつて、絕えず修整せられてその意味內容を變化す。卽ち知識は經驗だけでは斷片的たることを免れないが、思惟の活動が始まると、思惟それ自身の立場から特殊を普遍に概括すると同時に、普遍によつて特殊を規定し支配する手續を完全に遂行して、その論現的要求を滿足せんとする「一切唯心造」の信念により進步するのであります。

「人間は自分を產んで貰ふ兩親の選擇に非常に注意すべきである」と、詩人ハイネが諧謔的に併し悲觀的に申しましたが、事實・我々は生れた時に其の兩親によつて運命づけられるので、「こんな親に產んで貰ふのではなかつた」と選擇不注意を後悔したとしても、それは兩親がその配偶を選ぶ時卽ち自己の未生以前に遡るのですから、この諧謔は靑年の配偶選擇上の警鐘としかなり得ないが、但し低能兒として小學校からさへ退去させられたエヂソンが、世界空前の科學的大恩人となり。ウスノロで・虛弱で・一時間四仙の炎天下勞働者に、どうして我が愛娘をやれるものかと、彼女の母からコヒドク初戀を破られた後年の石油翁ロックフエラーが、二十億の富を致たし、而かもその大部分を社會公共のために費し、剩さへ九十八歲の長壽を保ち。弱年の時醫者に見放された病身者の救世軍ブース大將が、八十三年間の奮鬪生活をなし。其の他、盲の塙保己一・聾のグラハムベル夫人・盲聾啞三重苦のヘレンケラー女史等の實例を觀ては、何人も生みの親に

不足を訴へ得る筈は有りませぬ。山崎闇齋が、「卑賤に生れて侯家に生れざりしを以て幸福の第一として感謝す」の言も肯はれ、「ドイツの根强き發展はその瘠土なるがため」と申すも否定は出來ませぬ。佛教では「苦は增上緣なり」と喝破して居ります。要は各自が自己本具の如來藏の顯現如何にかゝつて居ります（日月も我を待つて明かに、神佛も我を待つて尊貴なり、政敎も我を待つて起り萬物も我を待つて其の所を得る）。

進化論者が、ヤソ敎の壓迫に反抗して「現在は過去の子供であり未來の母である」と申す如く、是非とも吾々は過去の運命的遺傳に出來得る限りの改良を加へて未來に引繼ぐこと、卽ち常により善き新しい心の創造による世界の創造に專念を要します。つまり天壤無窮の皇運を扶翼し奉るには、吾々臣民も亦永久に子孫をいや榮えに榮えしめて皇民たるの大使命を果さねばなりませぬ。從つて如何に不肖に見ゆる子が產れても、エヂソンの母・ヘンレ・ケラーの秘書トムソン女史・等を手本として、敎養上・捨身的盡瘁を爲さなければなりませぬ。又しても私の體驗談となつて相濟みませぬが、かつて校長たりし時、生徒の入學に際し成績同等の時は、世論に反して年長者に優先權を與へて修學上の機會均等を圖かり。盜癖を露はした某生は未成年なるを幸い、特に警官に願つて家事都合退學の名目で內々で卽刻實父に引渡し、商家に托して金錢出納を取扱はしめること一ヶ年間、厘毛の間違なかりしとの保證を得て再入學を許し、本人は感激のため慢等

成績にて卒業し、更に某專門學校を經て某縣の技師として令名あり。今一人は同上の嫌疑を蒙つたもので極力庇護に努めましたが、その後外國留學も命ぜられ、現に某省高等官として羽振りよろしく。發作的狂暴なりし某生は、繪畫敎師の骨折りによつて完全に性癖を滅して壯年畫家中錚々の名を得。世方には鈍かりしが努力と正直一方の男で、今は木彫界の重鎭として尊敬を博し居る某。圖案技師として某縣に活躍し居る某。其他別科生徒某の輕躁癖（半時間も定席に居れぬ）が漆蒔繪の稽古で直つて可なりの工場主となり。低能視すれた某は彫刻の優良工となりて銀器工場主となり。幼時の大怪我のため右手の發育全くとまつた某は、現今東都に在つてさへ一二を爭ふ裾模樣かきとして大切がられ居る等を連想し、特に二十餘年間嚴罰者を一人も出さなかつたことを追懷して愉快に堪えませぬ。

大陸建設陣の現地から司法省の東京保護觀察所へ來た報告によると、彼等左翼運動轉向者の長所としては、（一）過去の經驗のために組織力があり調査研究欲が旺盛である。（二）思想的に免疫性となり・新思想にたぢろかず・寧ろ民族的自覺に立ち直りつゝある。（三）歷史的動向を見る眼が養はれて居る等があげられ、殊にこれらの人々が國家愛民族愛に目ざめて一切の過去を拋ち誤謬を淸算し、むしろ贖罪的な氣持で獻身努力してゐる態度は涙ぐましいものがあると申します。爲政者・敎育家の反省すべき好參考資料であります。

「十歳で神童十五で才子廿歳過ぐれば通常の人」と申す諺の如く、幼年の神童が年長ずるに從つて平凡化することは決して珍らしくはありませぬが、これは該人精神の發達に一定度が有つたのでせうか、或は他からの稱讃のために慢心が生じ勉强を怠つたためでせうか、恐らくは後者でありませう。身體の發育を進めつゝ不退轉の勉强を續けたなら、必ずや最初の輿望に沿ひ得しならんと存じます。學生にはその良成績をほめると同時にそれよりも一段上を示し、選手養成の心持で、絶えず向上心と難處突破の勇猛精進力とをそゝる必要がありませう。和田英作畫伯は「人間の一生は努力の繼續・ゴールの無い競馬みたいなもので、一努力・二努力・三努力だ。……家の者は緣の下の力持ちをすることが一番人間の幸福としてやつて居る。奉仕生活を自然にする」と申されたとのこと、實に至言と存じます。

英の文豪バーナードショオは、人間を偉くするものは經驗ではない期待である。……未來の期待を持つ人は六十を過ぎてから本當の偉い仕事をするのだ」といひ、チエールも志を達して初めて首相となつたのは七十四歳の時で、斯る例はどこの國でも見。「支那性格」(西曆一八九〇年出版)には、安徽省では採用試驗に八十歳以上の老人が卅五名も青年達に交じつて居たとあります。吾々は子供の教養に當つては、秀才肌の人よりも、一日・一日いかに少しづゝでも、身も心も間斷なく發達し、常に健康にして辛抱强く、何時までかゝらうとも出來るまでやり遂げる不退轉心の養成が第一要件と存じます。一足飛び(非思慮的な禪の工夫は別に仔細あり、急々如律令を要す)は失敗と挫折とに終るのが普通でありませう。天才の九分九厘までは長年月に亘る汗だと申します。

人生に於ける生存競爭はだん〳〵激しくなりますが、其の解決方法に、(一)征服。(二)協和の二樣あり、從つて宗教にも二樣ありますが、「苦しい時の神頼み」の諺の通り、宗教史にも「世の中で恐怖が最初に神を作つた」とありますが、神(ゴッド)が人間を創造したのでなく人間が神を創造(神と人との契約思想)したのですから、「利己主義」・「弱肉强食思想」の習性ある國では自己中心の一神主が起り、「人道主義」・「利他至上主義」の尊ばるゝ國では感謝報恩の汎神教(宇宙は唯一の原理又は本體によつて統一ぜられるが、この本體は宇宙外に獨立する神でなくして、神は却つて宇宙の森羅萬象に内在するものと見る)・(長者は長法身、短者は短法身)の行はるべき理でありませう。從つて西洋ではヤソ教・マホメット教が行はれ、東洋では神・儒・佛・の教が行はるゝ筈であります。

ヤソ教の神は他の神を拜するを許さず。偶像(神の象徴化)を許さず。親子同胞が相互の冥福を祈らずして神父の專賣とし。神父は例へば法王レオ十世が基督紀元一五一三年(ヤソ教の充分發達した頃)聖ペートル寺建立のため免罪符を販賣して、神罰が金錢によつて左右さるゝことを公表して憚らなかつたのも、自己中心・金錢崇拜思想者が神を創造した事實をたま〳〵法王の名に於て暴露されたものと認め得ませう。

大慈悲を教の基本とした佛教では、釋尊自身が最高道德の境地に立ち、「衆生をして佛と等しくして異なること無からしめん」との模範誓願を示し、上求菩提・下化衆生を以て學徒の必須行持とし、又如何なる善行でも、其の功德をば父母同胞を始め一切に回向すべく教へ、たとへ如何なる有德者でも、苟くも人心救濟の念に缺くることあらんか嚴重に呵責すられました。

神武天皇樣が都を橿原に肇め給ふ御言葉には、「上は則ち乾靈の國を授けたまひし德に答へ、下は則ち皇孫の正を養ひたまひし心を弘むべし。然て後に、六合を兼ねて都を開き八紘を掩ひて宇と爲むこと亦可からずや」とのたまはれました。「然て後に」は特に大東西新秩序創立の今日・官民共に猛省すべき御言葉かと拜承されます。

ヤソ教が功利主義を生んだのか、功利主義がヤソ教を生んだのかの吟味は、雞が卵を生んだのか卵が雞を生んだのかの吟味と同樣ですが、現在ヤソ教信奉の國は揃ひも揃つて、國民同士間でも外國に向つてでも功利主義一本槍で押通し、特に有色人種に對しては更に征服主義をさへ濃厚に加重し、「正しき道を養ひ」と云ふ如き道義觀念は、限外顯微鏡でも見出せない程ですが、斯る環境に對しては、皇民は齊しく涅槃經に聞ゆる「獅子吼の諸相」を完備する樣反省しなければなりませぬ。油斷はいつでも大敵であります。諸外國が我國に向つてする諜報・宣傳・謀略・は先づヤソ教徒を手蔓とすることは必然的でありませう。（秘密に語つた秘密漏る）外交史より觀れば、彼等は欺騙の常習犯者であり、我等は被欺騙の持病患者であります。一日たりとも世界の變化に目を蔽ひ對手の研究を怠つてはなりませぬ。

ポルトガル領印度總督が書を秀吉に贈りその武功を讃へたのに對し、秀吉から使者ワリニヤーニ等に與へた書狀には、左記の如くヤソ教禁止に强硬な態度を示して通商のみを許しました。（大明國經略の途印度に立寄る云々の語有り）。神佛を敬せず・君臣の義を辨まへぬ宗教は、國體を害するからです。……修身之術・治國之要、深謀遠慮而以仁・明・武・之三一撫養諸士一哀憐百姓。……夫吾朝者神國也。神者心也。森羅萬象不レ出二一心一。非レ神其靈不レ出。非レ神其道不レ成。增劫明二此神不增一。滅劫明二此神不滅一。陰陽不測之謂レ神。故以レ神爲二萬物根源一矣。此神在二竺土一喚レ之爲二佛法一・在二震旦一以レ之爲二儒道一・在二日域一謂二諸乎神道一。知二神道一則知二佛法一。處レ世也以レ仁爲レ本。非二仁義一則君不レ君臣不レ臣。（然るにヤソ教は）不レ敬二神佛一・不レ隔二君臣一。（天皇の尊きを知らず）。「故に許さず」云々。

生存競爭が主因となつて科學哲學の發達したのは結構に違ひはないが、之が惡用に專念なる現狀では、人世に眞の幸福を送るべき曙だに見えませぬ。米國大統領就任式の際には、大統領は必ずバイブルに接吻して、政をバイブリに據つて行ふことを宣誓する慣例が有り、ヤソ教徒の自慢の一でありますが、昨今の米の外交がバイブル根據ならば、バイブルこそ日本人たる吾々の寒心

に耐えざる所以のものでありせう（大統領の選擧戰に於ける演說と就任後の施政と正反對なのが殆んど當例で國民も異とせず）。

我が佛敎で說く「佛」は、他敎で立つる如く他より與へられたものでなく、人間が修行の力によつて到達し得た位です。「法」（宇宙の本體）は法爾自然のもので、釋尊が出られても・出られないでも異らぬ永遠の眞道であり、不變の乘物（ヤーナ）で、釋尊はそれを悟り・體得して吾等に示されたに過ぎないとして居ます。キリストは如何に偉人でも、その敎徒が自己中心主義であり・有色人種征服主義である以上、皇民としては大東亞新秩序建設の立場から見て邪敎として排斥せねばなりませぬ。但し排斥はたゞ敎義に對してのみで、決して人に向つてであつてはなりませぬ。人に對しては只管その轉迷開悟を祈るのみであります。皇民の祖先は、その敵を呼ぶのに「まつろはぬ神」。など神を以てしました。戰爭にさへ、その誇れる細才（クハシボコ）（精鋭な武器）を私利貪婪の心にては用ひませぬでした。

哲學に關して思出さるゝのは英の評論家カーデナーの皮肉です。彼は「哲學者が散步に出やうと思つて門前に出たが右に行かうか左に行かうかと一時間も考へた、そして結局・決斷しかねて家に入つた。彼は又午前中は散步しやうか馬に乘らうかと考へつゞけて空費した。それから午後の時間は斯くして午前中を空費したことを悔んで、これまた空費した」（議論より實を行へなまけ武士、國の大事を餘所に見る馬鹿）とからかつて居りますが、哲學者ならぬ私などにも類似の時間徒費のあるのは爭はれぬ事實で、宗敎には餘りにも迷宮が多く、その迷信のため人世に不幸をもたらすことは非常なものでせうが、至幸にも我が國には民をして嚮ふところを知らしむる偉大な佛敎があります。今佛敎中堅の評論家中山理々氏の言を左に拜借します。

『日本書紀に從へば、欽明天皇十三年冬十月、百濟の聖明王から佛像・幡蓋・經論・若干を奉獻して以來、皇女推古天皇御卽位の第二年には天皇の御名を以て佛敎興隆の詔勅を御發あらせられて居る。而して天皇の攝政たる聖德太子は聰明英邁・我が日本的性格の御模範として外來文化か咀嚼され千三百年後・昭和の今日尙ほ難解を稱せらるゝ佛敎々理を原書のまゝ讀破せられ、自ら法華經・維摩經・勝鬘經の三經を獨自の御見解の下に漢文で御註釋あらせられた。是が唐に渡り唐の法雲寺明空が感歎して私鈔六卷を奉つて居り、最近大正七年には太子の三經註疏は中華民國に於て支那民衆の手で復刻されてをる。是れ實に日本佛敎の決定版である。而して聖德太子は皇國最初の憲法を以て篤く三寶を敬へと規定し、明かに佛法を國敎と爲し給ふたのである。又聖武天皇は國每に僧寺尼寺を分立せられて國民の信仰を指導し給ひ、その本部として東大寺の大佛を建立ましまし、聖德太子の憲法を政治的に實現遊ばされたのである。日本佛敎は下から抗爭的に盛り上つた下剋上の殉難敎ではないのだ。奈良朝・平安朝・御歷代皇統の御崇佛は申すに及ば

す、鎌倉時代から戰國時代・封建幕府壟斷の最近世に至るまで、京都御所に於ける佛法の御信仰は連綿として深化し給ふたのである。

臣下として上古日本佛敎の双璧たる傳敎大師・弘法大師は如何、前者は自ら聖德太子の使なりと稱し、後者は生々世々陛下の法城法將たらんと奏し奉つて居る。鎌倉時代大衆佛敎の花形たる法然上人・親鸞上人・日蓮上人・道元禪師・皆な皇祖御歷代の御崇信に從ひ、御遺訓を忘れたる權力階級の妄雲邪氣を拂うて、皇祖の御信仰を宣揚し奉つたに過ぎないのではないか。

佛敎は日本に關する限り皇室敎である。第廿九代欽明の朝佛敎公傳以來一千三百八十七年、昭和の御代まで皇統御九十六代を數へ奉る。その內入道御落飾遊ばされた天皇は四十八代に在す。即ち佛敎公傳以來御皇統の半數は僧儀に入らせ給ふ。抑々一系の御皇統が連綿として一體の宗敎に歸し給ひ、億兆の臣民亦次ぎ〳〵に祖師を立てゝ皇室の御模範に從うて現當二世の魂の糧を頂いて來た。かくの如き美はしい宗敎史が他の何處の民族に見出せやうか。我が國こそは千三百年來・國民精神總動員の國體であつたのである。

後宇多法皇の御遺勅第三條を何ひ奉れば、僧侶も俗家も共に佛法の興隆に勵むべき事と題せられ給ふ中に、「我が後に血脈を繼ぐの法資・天祚を傳ふるの君主は盛衰を同くすべく、興替を伴にすべし。我が法脈斷廢せば皇統も共に廢せん。吾が寺興復せば皇業も安泰ならん。ゆめ〳〵吾が此

の意に背きて悔ゆること勿れ」と仰せられてあるのである。

明治天皇は、明治十五年に眞言宗の宮內後七日の御修法を御再興あり、明治維新の廢佛・毀釋に對する御明裁を賜はつた。畏くも明治天皇の御靈柩には、御念珠と妙法蓮華經の紙符を御納め奉ると洩れ承はる。又畏くも先帝大正天皇御大葬に際しても御同儀と承はる。

嗚呼・日本十萬の佛者よ、實に佛法は皇祖皇宗の御遺訓ではないか。君達は御遺訓を保持・宣布し奉る重責の身ではないか。國民生活に關係薄き蝸牛角上の相剋に終始したり、ブルヂョアまがひの居儈を眞似たり、德川時代の惡風を趁うて唯だおまじないを稼いだり、讀經儀式のサンドイッチマンに甘んじたりしてゐて善いのか。一億國民も亦日本佛敎界今日の分裂・不振をそのまゝに見送つて皇祖皇宗に申譯が立つものであらうか。國民各位も三思せられよ。速かに日本佛敎を國有の元に還せ。これが出來なくて何の國體明徵だ、何の精神總動員だ』。

德川光圀卿が排佛家であるかに傳へられて居りますので、實は大日本史編纂を親しく主裁された程のお方が、佛敎を認めぬ苦なきを疑つて居りましたが、二千六百年歷史展觀會に左の史料（本法事出品）を得ました。それは德川光圀が遠成院日近の學德を欽慕し、領內の久昌寺に迎へんが爲めに贈つたもので、端嚴な正式の牋法を用ひ辭意亦懇篤を極めて居ります。

遠成院近大上人

久昌精舍　爲薦先妣冥福建焉

三昧講堂　欲驚學徒長寢說此

白鹽一去　冷講席之風

烏鵲群飛　迷檀林之月

學非師學何就

玉不錯玉無光

恭惟

遠成近公

博窮佛敎

兼闚儒典

恢張手裏　提一乘圓頓之宗綱

廣長舌頭　翻四辨懸河之波浪

昔者貫頂名利度人我

今也盤旋幽谷友煙霞

掛錫燒香

絕交樂獨

恐草木識名遯晦迹

雖桃李不言自成蹊

久切望大旱雲霓

速來轄闔山衲子

元祿十二年歲次己而五年穀旦

從三位前權中納言源朝臣光圀頓首再拜謹疏

㊞　㊞

米國の近代政治家は、二口目には米國が世界の平和と人道の卸問屋みたいなことを吹聽して居るが、古來聖人の如く尊敬されて居るワシントンでさへ、米國民に對し、「米國の國策を決定するに當り基調となり根元となるものは米國自體の利益であらねばならぬ」と。「八紘一宇」の御聖謨とは凡そ反對の意思を表はし、一八一三年聲明のモンロー主義も陰に對外積極政策を包藏して、一八九八スペインに向ひ强引に挑戰し、戰爭を國策遂行の道具に使つた典型的な侵略を行つたが、遂にフイリツピン群島とグアム島をスペインから割讓させ、尋いで民衆の意思を無視しハワイを併呑して太平洋進出の足だまりとし、キユーバを保護領としてカリブ海進出の足場とした。其後大統領が代つても積極政策だけは益々强化踏襲され、ソキシコ・ニカラガ・サントドミンゴ・ハイチ・コロムビア・パナマ・に對する米國の重壓はいよ〳〵加はり、彼等側では平和と人道との守護神の如く讃へられたウキルソンさへ、中米彈壓はその評判とは似てもつかぬものであつた。即ち萬事が「米國自體の利益」以外には顧慮せぬと云ふ結論であつた。歐洲各國が支那に於ける勢力範圍の設定に狂奔し、租借地・不割讓地域の設定・鐵道借款の契約・等々・私利貪婪飽くなき彼等の帝國主義が老支那の喉首につかまつた當時には、米國は「我にも獅子の分前を與へよ」と叫んで仲間に割込んだのである。而して近頃は「條約尊重」に結びつけて、彼等の對東亞干涉政策は、天與の絕對權利によつて基礎づけられてゐるかの如き錯覺を抱かしむるに到り、ヤソ敎を手先に使ふべく日曜敎會で排日の講話をなさしめんと議會で首唱した議員さへ出ました。斯る帶菌の虞れ多い宗敎を弘めんとする人達に、日本國民としての資格內容が有りませうか。ロンドン

ては、彼等の大僧正が排日暴擧の旗頭さへつとめたことも皆様に記憶新たなことでありませう。

「最近ヤソ教牧師・傳道師などが秘密結社を結成し、これを母體として全鮮的に不穩畫策に狂奔してゐるばかりでなく、天皇及び皇太神宮に對し奉り不敬の言動或は軍事に關する造言蜚語、銃後國民に對する反感乃至反國家的機運の醸成につとめるなど、惡質犯罪を敢行して居ることが判明したので、時局下戰時體制を紊すが如きこの種非國民的妄動に對して、銃後の治安確保の見地より全鮮一齊に檢擧を斷行した。……教徒はこれを契機として純化更生し、もつて皇國民としての自覺のもとに、宗教報國に邁進することを切望してゐる」と總督府警防局の當局談が發表されました。しかしヤソ教は如何に日本風に改裝せんとしても、一神教である以上、日・滿・支・の宗教としては不適正教卽ち邪教と申す外はありまぬ。

如何なる時代如何なる國土に論なく、之が改造又は新建設には、それ等國民的生命の裏に潜む偉大なるもの・高貴なるもの・堅實なるもの・を認識し、之を復興せしむることによつて現代の諸邪惡を打倒しなければならず、而かもその手段たるや「自國の善を以て自國の惡を伐つ」ことを唯一無二の方針とすべく、例へば日・滿・支・盟邦間に於ける宗教も道德も古來・樹立補益し來れる神・儒・佛・三道の融合統一に待ち、經濟も讀んで字の如く眞實の經世濟民と解釋し、戰時經濟道德の振興に主眼を置き、それを活動方針として實行したいもので、富籤や馬券や割增奬勵金風のものは、精神總動員とは正に心持に於て對蹠的なものでありませう。世界第一の富みを以て誇りとする某國に失業者一千餘萬人、是も亦世界第一と云ふが如きは、彼等の宗教・道德及び經濟に關する主義に淵源するものでせうが、我等東亞流に解しますと、彼等の貧富相剋の現象は偶發的のものでなく、他日の崩壞を招致すべき病源菌を內部深く包藏する徵候の一つで、天壤無窮なるべき皇國に比し實にお氣の毒に思はれます。建國年數に微しますと、大慈悲心に立脚し給ふ天皇のしろしめす我が皇國が皇紀二千六百年を數ふるに對し、その十分一の年所を數へる國は唯の一ケ國もありませぬ。樹德の深厚なくして目前の富强のみをつかまんとあせるほど危險なものはありますまい。

前大戰後ドイツを飽くまで押へつける理想と信念とを持つた猛虎クレマンソー逝いて十年、虐げられたドイツは復興の意氣に燃え・着々戰備を整へ機會を待てるに反し、佛國は人民戰線內閣の出現（國民の鬪志を失はしめた）を許容し、一週四十時間の勞働制を認めて、本來尙武を國民性とせるあの勇敢なフランス兵も施すに術なく、花のパリも今や開城せる如く、彼等の歷史は常に繰りかへしますが、過ぐる第一次世界大戰の千九百十八年十一月十一日ドイツ軍代表が勝ち誇るフォシュ將軍から屈辱的な休戰條件を受諾せしめられた・コンピエーニュの森に於ける記念すべき同じ列車・同じ調度品を用いて、ヒトラー總統は一九四〇年六月廿一日フランス代表と會見、ド

イツ側の休戰條件を手交し、フランス戰勝の記念碑（ドイツの驚が自由の鋤に貫かれてをる碑）は取除かれました。又ペタン佛首相は敗因を極率直に告白して、「一九一八年の戰勝以來佛國民の間には犧牲的精神が失はれ、享樂氣分が充滿して眞劍な努力がみられなかつた」ことを指摘して居ますが、我國過去數年間に於ける上層社會・指導階級に屬する者の其の日暮し的氣分が、國民をして前途に對する希望光明を失はしめ、一方には現實を享樂すると云ふ氣風を醞釀せしめた形跡はなかつたでせうか。世界秩序再編成途上に於ける東亞新秩序建設の大使命を負擔する日本は、今こそ一億一體・不動尊そのまゝの鐵火となつて勇往邁進しなければなりませぬ。

第一章に於て物質的科學の進境は歐米に一日の長あるを認め、是非にもその水準線に否な寧ろそれを超越すべく、各自立場を異にせらるゝ皆樣にも、齊しくZ信號旗を押立てゝの御奮鬪をお願いたしましたが、我々日常生活ぶりについても、祖先の遺風を繼紹すると共に、苟くも長所あらんか外國風なりとも吟味の上快く取入れ、所詮一日も早く彼等に勝るべき、身體を作り上げ鍛へ上げて、皇謨翼贊については何人にも一歩も讓らぬ覺悟をしなければならないから、お互の生活につき左に檢討を試みませう。各種の仕事の上で優秀な技術と能力を有すも同胞も、一とたび生活法と云ふ點になると、非常に弱點が多いやうであります。

「禍は口より出て、病は口より入る」の支那古訓の後半、即ち病源菌の侵入防止に於ける口の衛生法は、支那では貴賤・都鄙とも頗る普及且つ徹底して居る樣です。先年・南京で日本人會長須崎醫師に、「日本人がなぜ支那人に嫌はれるのか」お醫者としての立場からの意見を伺ひますと、氏は「日本人は衛生的に見て不潔ですから、……支那には眼病と黴毒とは各地普遍と申してもよい位だが、赤痢・コレラ・チブス・其の他、病源菌の口腔侵入に由る病氣は皆無であつたが、日本人が入るとそれが發病する、……豫防注射は嫌ふ・治療・隔離は不完全で直ぐ蔓延する」と云ふ譯で、日本人が疫病神視さるゝのだとのことでしたから、旅行中力めて苦力連の食事に注目しましたが、彼等は食事直前に必ず沸騰點にまで蒸熱してまださめやらぬタオルで、先づ口邊を次に兩手を叮嚀に淨拭滅菌します。又決して生水を飲まず。食物も果物以外は熱・鹽・酢・油・其他で完全に滅菌したものを採ることが、蓬頭弊衣にも似ず一般の習慣にまでなつて居る樣です。支那のは判然しませぬが、日本では百萬人の赤ちゃん中二十五萬人即ち四分の一が二十歳になるまでに死亡し、死亡率では日・獨・伊・中最高位です。猛省を要します。而も特に御婦人方に願ひます。

孔子廟參拜の節、店頭ヘギ板に列べた饅頭（マントウ）の購買を申入れますと、應諾して持去り蒸熱の後渡して呉れました。又其の邊の街道中央即ち一段低き車道は、臭氣芬々たる汚泥の充滿、寧ろ泥溝と稱するを適當とする位なので、早速通譯に賴んで附近の舊き醫局に就き、赤痢・コレラ・等の

患者を調べましたら、案に相違して患者は未だ曾て一名もなく、病名すら知りませぬでした。

旅舍にて朝の洗面には、卓上の金盥に新タオルを一文字に擴げわたし、側に熱湯と冷水との淨瓶型の手附き水器が併列された。これは先づ熱湯で限なくタオル・金盥の完全滅菌、次に適温にさますためです。斯くては口に病源菌の入いり様がありませぬ。最初須崎醫師の言に不滿なりし私も深く反省し、今猶ほ有難く思つて居ります。

遠慮なく申しますと、お互同胞には、「我流で通す」・「向ふ見ず」・「エラガル」・「おダテがき く」の缺點がチョイ〳〵出たがりますが、釋尊の「天上天下唯我獨尊」とは正さに對聽的の感情です。卽ち釋尊のは「三界は皆な我がものだ。一切衆生は皆な我が子だ。一人として迷ひの衆生が有つてはならぬ。これ等の衆生悉くをば自分同等の覺りの境界まで轉迷開悟させねばおかぬ。この大責任をもつて道德的に至上最高の地位に立つのだ。而かも我れ獨りこの尊き地位に立つのだ」との大我、卽ち絕對無我の境地を言明したので、長き八絃一宇の御聖謨とは世間・出世間の表裏の差異のみと拜察されます。從つて我々は上記缺點を絕滅せしめ、指導責任を忘れぬと同時に、「鄕に入つては鄕に從へ」で、社交は勿論・衞生上にも最大の注意を拂ふ樣ありたいものです。特に滿洲には攝氏九乃至七度と云ふ如き內地に稀れなる淸冽水多くて飮慾をそゝりますが、案外にも其の水中にアミーバの生存することが普通で、渡滿同胞のアミーバ赤痢にかゝるもの頗る多く、而かも容易に免疫とならずして四回も五回も連年息ふものさへあります。渡滿者には「決して生水を飮まぬ」・「生冷水で冷やしたものに注意する」・のお覺悟を願いたいものです。（滴酸又は重金屬にする滅菌法を用ふべし）。我國には到る處好飮料水に富み・生水飮用の習慣が有りますが、溪水には、まゝ銅鹽類を含む處れがあるので、昔時はサスガ（刀に附屬のナイフ）を水に浸して見てクモリ（銅が鐵に代り沈澱したもの）が出れば毒（ブス）として避け、クモリが生じなければ初めて安心して飮むと云ふことが、帶刀者間には行はれて居た位であります。

「生水」（水道深井も檢査を要す）の外に最も御注意を願ひたいのは「蠅の病毒傳播」（赤痢患者病室の蠅の四三%の腸內に赤痢菌ありし實例あり）ですが、私は十數年來研究の結果略ぼ對策を得ましたので、近く成績と共に發表したいと存じて居ますので玆には略します。

日本人は土地があまりにも保健に惠まれて居るためか、病源菌に對する注意が不十分で、紳士淑女のお集まりといふ席でも、室外で折角洗淨めた手を、食器以外・細菌の有りさうな部分に平氣で手を觸れらるゝ方もまゝ有りますが、衞生試驗所の發表によりますと、「一錢銅貨百一個・五十錢銀貨百一個・壹圓紙幣百六枚・に就いて試驗した所が、一錢銅貨には平均四千百九箇。多いのは十四萬五千八百〇四箇の黴菌を附着して居ました。此の驚くべき多數の黴菌中で、病源菌としては大腸菌・膿腫桿菌・化膿性葡萄狀球菌、殊に脾脫疽菌は、銅貨で八十日間・銀貨で七十一

日間以上も生存すると云ふ譯で、電車や浴場や病院等には多種多樣の保菌者が入込み、此等の手から出された通貨が、數分間の後には他の人の手に渡るので、病源菌は萬遍なく多數の人に渡る云々」とあります。從つて食前には必ず手を洗ふこと。紙幣を數へ又は書物の紙をめくる時に指を口で濡さぬ事。幼兒が錢・玩具などを口に入れるのを禁ずる事。等を要し、鉛筆を嘗める惡習慣も是非やめたいものと考へます。電車・自動車の吊り革・窓戸・腰掛等の一切も、特別な注意を拂つてない販賣飲食物も、皆保菌物と見て用心するにしくはないでせう。幸に我々の唾液中には劇藥硫靑酸アルカリ（過クロール鐵の水溶液を紅色に變へる）の微量があるから、食物をよく咀嚼して糊狀とすれば、その劇藥のために病源菌が悉く死滅しますから、咀嚼は消化には勿論・消毒にも極めて大切であり、食べ過ぎの害も豫防（節米の第一義諦を兼ぬ）が出來ます。從つて齒の衞生が頗る緊要です。糖分が血液に多いと齒のカルシウムを溶かし、列齒間にハサマリモノがあると腐敗を來たし、氷などで急冷すると表面の琺瑯質を破り、結晶食鹽や不良はみがき粉では琺瑯面に疵を殘します。刷子は强毛がよろしく、齒グキの熱を去るには沃度チンキが良いですが、兎に角故障の有るときは專門醫に御相談のことゝいたして置きます。ちと恥かしいお話ですが、米場の某齒科醫の發表によりますと、「フィラデルフィヤ動物園で、狒々一頭・ライオン二頭・河馬一頭・象二頭・犀一頭・豚廿八頭・馬二頭・チンパンヂー二頭・犬五十頭・猫八頭・鼠一頭の

多種類に亘り研究をしたが、これら動物の唾液中には、人間のそれに比べてバクテリア量が非常に低位にあり、唯だ齒のぬけた三十歲の狒々のみが人間に近い極めて不潔な口であつたと申します。マー、とあきれてゐずに朝は勿論・就寢前にも齒をみがきませう。每食後磨けば尙ほ更ら結構です。又齒のお弱いお方は、鰯や昆布の樣なシナラコワイ物を糊狀となるまで咀嚼する稽古だけで齒の丈夫になること請合です。良質のゴムでも結構です。食事には「煮た粥よりも嚙んだ粥」と云ふことは、上述どの點から見ても合理的であります。

「脂肪を攝り過ぎると禿げ頭になる、、短氣はご馳走の食べすぎから、それがウソと思つたら社長樣をごらん」と云いますが、所謂重役型の半病人はコロリと來易いのです。動物性蛋白は榮養價は高いが、酸性鹽類を作る成分を多く含んで血液が酸性になるから、アルカリ性鹽類を作る成分の多い野菜果物を食後に採つて中和する必要が有ります。外國の例を見ますと、短命者の順位は、帝王・豪族・金持・中流生活者といふ樣に、美食とは反對の順になつて居ります。又脂肪を澤山とると大抵頭が禿げ動脈硬化も早く來るさうです。之は動物性脂肪殊に卵に多く含まれて居るコレステリンのためですから、子供にとつては腦神經を造るために、その發達後は性ホルモンの原料として必要だが、五十歲以上になつてもコレステリンを以前の樣にとると、身體のココにもカシコにもストックされて、膽石病・腎臟結石・動脈硬化（萎縮腎狹心症ともなる）等となつ

て金儲けなどで心痛すると血管が破裂するさうです。夏季に廿歳前後の人が盲腸炎にかゝり易いのは、過勞と肉の過食とが原因だとのことです。

美食のみならず滿腹も亦禍ひのもとですから、腹も身の内と考へて左の通りが良いさうです。

體重十五貫の日本人として一日分、蛋白質四五グラム　カロリー一、七〇〇カロリー　が適當で

それを採るには、

獸魚肉一〇〇グラムより　蛋白質二〇グラム

七分搗米三合より……　蛋白質三〇グラム　カロリー一、六〇〇　五〇グラム　一、八〇〇カロリー

野菜五〇〇グラム……　カロリー　二〇〇　必要無機質

（佐伯博士）

（混砂白米）

	内地米	泰國米
水分	13.25	13.10
蛋白質	6.93	7.88
脂肪	0.34	0.81
含水炭素	77.56	78.30
纖維	0.27	0.70
灰分	0.71	0.68
カロリー	350	361

榮養價を比較しますと、中等程度の勞働をする成年男子の主食一食分は七分搗米一合一勺（一五四瓦）で、蛋白質一一・一瓦、熱量五三九カロリーであるのに對し、同重量の甘藷は一八五カロリー、馬鈴薯一二二カロリー、里芋一六二カロリーです。又熱量五三九カロリー攝るには、甘藷四四九瓦（蛋白質一・七瓦）、馬鈴薯六八〇瓦（蛋白質三三・一瓦）、里芋五一二瓦（蛋白質一・一瓦）食べねばならぬ。又米の蛋白質一一・一瓦を攝るには、甘藷一〇〇六瓦、馬鈴薯五五一瓦、里芋一五

が、四瓦が必要で、これだけは食べ切れないから、七分搗米一合（一四〇瓦）の榮養價は蛋白質一〇五瓦、熱量四九〇カロリー、ビタミンBの國際單位二三八ですが、これが代用として、

（1）挽割麥一一〇瓦、里芋一三〇瓦は、蛋白質一一六瓦、熱量四九五カロリー、ビタミン一三七。

（2）挽割麥一〇〇瓦、甘藷一〇〇瓦、黃粉五瓦では、蛋白質一一・三瓦、熱量五〇〇カロリー、ビタミン一三〇。

（3）挽割麥一〇〇瓦、馬鈴薯一五〇瓦では、蛋白質一一・二瓦、熱量四七七カロリー、ビタミン一四五。

右孰れも七分搗米に劣らず、節米の趣旨に沿ひ得ませう。

「來らざるを恃むことなく待つあるを恃め」の格言がありますが、ドイツは戰爭が始まる前から前大戰の失敗に懲りて、國民生活を安定させて、戰線の勇士に後顧の憂ひの無いやうに計畫してゐました。これが生活必需品の切符制度です。ドイツは戰時中は、貧富貴賤の別なく一切に切符でなければ物が買へない仕組になつてゐます。そしてこの切符制度の標準は普通の勞働者の生活に置かれるのです。ドイツにも闇賣買はあるやうですが罰金といふ手ぬるいものではありませぬ。泊り込みのお客は自分の食糧か食糧切符を持たないと泊めてもらはれませぬ。浴用石鹸やコーヒーも持參を要します。食糧の割當は國民の保健上影響の無いといふのを限度として居り、ミ

ルクは十歳未滿の子供と乳兒持ちの母親とのみに與へられ、野菜・果實には未だ切符制なし、トマト・オレンヂ・コーヒー・茶・など殆んど輸入に待つものは斷じて家庭に入れませぬ。

永年壽命と食物との關係を研究した某學者は、我々は良質の蛋白質と石灰とビタミン類をもつと澤山攝るなら、平均壽命をもつと延ばし得るだらうと論じて居りますが、石灰には蛋白質の分解物で酸性となる血液を中和し、且つ細胞の活力を盛んにして身體の抵抗力を強化する働きが有ります。若し體の全細胞の活力が減ると恐ろしい病弱と老衰とが押しよせて來るのですが、有名な榮養學者ロイブ博士は、日常食物の石灰不足に掛念して、毎朝コーヒーの中に石灰劑を入れて弱年より飲み續け、九十餘歳といふ高齢の今尚ほ元氣で研究に沒頭中とのことです。尚ほ石灰に不足すると心臓の機能は衰へ・腦神經は興奮し勝ちで神經質になつてきます。野菜類は石灰を多く含み殊に青菜には鐵分を含んで貧血を防ぎますが、野菜の不足と肉類・砂糖の過食とが重なりますと、年中いら〳〵して蒼白く・病弱で・短命となります。元氣な日本の兵隊さんは毎日野菜を一キログラム近く食べられるさうです。

ビタミン（西暦一九一一年ファンク博士命名）・（國際一單位は例へばカロチン〇・〇〇〇六ミリグラムの有する効力）は動物の成長・保健・繁殖・に必要なるのみならず一萬分の何グラムといふ微量の體内存否（動物體内では合成されぬ點ホウモンと異なり）によつて生か死かゞ決定する位な魔力もので、而かも種類も澤山ですが、大物のA・B_1・B_2・C・D・さへ逃がさぬ樣注意すれば生命には別條ないとのことです。併し厄介なことには、ビタミンが缺乏して居ても、相當危險な狀態になるまでは素人にははつきりした自覺症狀が分らぬから、夫々の保健量や缺乏症狀を承知して居る必要があります。

ビタミンAは、大體動物性の脂肪中に含まれて居ますから、脂肪の強い下等な魚からとり易いのです。又植物の綠色部や黃赤部には色素カロチンが存して、之を食べると肝臓内でビタミンAに變化されますから、青い菜ッ葉・黃赤色の濃い人參・南瓜・トマト・などが効果的です。果物にしても梨や林檎よりも蜜柑・柿・枇杷・等赤肉のものが合理的です。吾々には大體毎日少なくとも三ミリグラムのビタミンAを補給する必要がありますが、それだけ卽ち保健量を含む食品を掲げますと（理研井上兼雄氏發表）。

Aの保健量を含む食品

バター	30瓦	大匙2杯
卵黃	30	2個
牛乳	600	3合餘
にしん	100	1/3尾
ちさ	20	
はうれん草	20	
かぶの葉	60	
人參	40	
トマト	186	中2個
キャベツ（青葉）	75	葉1枚
肝油	3	茶匙2杯

「注意」（植物油を食べると、その油量に比例してAの消費高まり、又蝦にはAが無いから天プラは鰯・人參・さやいんげん・等が良いのです。卵黃は色の濃いもの、蔥は青い部分、牛乳・バタ・は牛の青葉を食べる季節にA多し）。

ビタミンAは正常の視力を維持するに必要で。これを缺くと夜盲症にかゝり易く、又は薄暗い所で直ぐに物の見える様に眼を調節できなので、Aの攝收不十分な人は、燈火管制中では他の通行人や街燈柱その他に衝突し歩行が容易でありませぬ。それでAは夜間空襲に對する保護の一要素に數へられます。序ながら申しますと、同胞の黑目玉は碧眼よりも精確な射擊に適して居るとのことです。

百グラム中のビタミン含有量
（單位ミリグラム）

		A	C
蜜柑	皮	0.24	2.5
	肉	0.20	34.1
柿	皮	2.14	71.8
	肉	0.10	50.0
樽柿	皮	1.52	32.2
	肉	0.08	29.4
梨		0.12	4.8
林檎	皮	0.09	—
	肉	0.01	2.8
バナナ		0.17	8.9

ビタミンB_1は、七分搗米や外米には脚氣にかゝらない程度の最低量は大抵存在しませうが、梅雨季以後・米が濕氣と暑さに蒸されると破壞され、B_1減少症が流行する樣になります。（著者には多年研究の結果完全保存の成案有り御相談に應じます）。先づ食慾不振となり、便祕を伴ひ、全身殊に兩脚はダルク、次第に無氣力になります。初期ならB_1の多いものを食べると數日間で回復します永引くと終に胃腸障害を起して胃袋は弛緩して胃下垂となり、胃液の分泌は衰へ・腸の蠕動は鈍り・消化不良となり・最早食物からのB_1吸收が不能となつて脚氣に襲はれ心臟も犯されます。老年期になつて心臟を弱らしたり、烈しい胃腸障害を起したりしては、長命は保てませぬ。又それほどではなく脚氣にはかゝらないまでも、潜在性のB_1缺乏症に襲はれます。殊に成育期や、姙娠・授乳・激働の場合や、澱粉砂糖を多食した時、又熱病や胃腸病などの場合にはB_1の需用量は數倍に上るから、食物に綿密な注意を拂はないとB_1減少症にかゝる虞れがあります。從つて病人のおかゆは七分搗が良い譯です。B_1は野菜や果物にも相當有るが、茹でこぼすと半分以上のB_1や・アルカリ鹽が失はれますから、毎朝の味噌汁に新鮮な野菜を澤山入れのが一番合理的でせう、一般の肉類・魚類には少ないが豚肉と魚の皮には多いし、魚皮には外のビタミン類も石灰も多く半味でもあるから、相當優良な榮養品です。B_1の保健食量は大體毎日〇・五ミリグラム位とされて居り七分搗米三合には〇・六ミリグラム有りますがとぎ洗に二五%流され、炊く時にも熱のために同量位破壞されますので、結局その御飯からはB_1が〇・三ミリグラム位しか補給されぬから、不足分は副食物からとらねばなりませぬ。今そのとるべき副食物の大體の標準を示しませう。（白米食の時は表の二倍半）。

砂糖敬遠の料理（歴史家白柳秀湖氏）。野菜のゴマ和エにも薄い醤油とゴマで味をつけて砂糖を使はず。ダシやスキ焼汁をつくるにも砂糖なし。醤油入れすぎの鹹味調和には玉葱や日本葱、その他の野菜に含まれてゐる含水炭素に限る。夏蜜柑の酸味を殺ぐのには食鹽。

ビタミンB_2はAと同様に成長を促進し老衰を防ぐ様で、元氣の衰へた老人や虚弱兒童にB_2を澤山與へると、非常に明朗になつてめき〳〵元氣を回復します。B_2は肝臓の中に多く存して種々の有害物を解毒し、酒の醉さましにも煙草のニコチン解毒にもよく、肺結核患者に多量のを與へると一〇〇％近い効果を認めたとのことです。子供が砂糖を過食すると血液が酸性に傾いて酸中毒を起すため、骨の細いヒヨロ〳〵の虚弱兒となりますが、B_2で豫防ができます。B_2はかく體内の

B_1の保健量を含む食品

牛肉	220瓦	ベフテキ	2枚
焼豚肉	34	カツレツ	半枚
鰹	285	切身	3枚
鰈	180	切身	3枚
牛乳	500		3合
卵黄（煮）	26		2個
豆（乾）	90		半合
赤かぶ	90		4個
はうれん草	160		二把半
キャベツ	180		二枚半
豌豆（罐詰）	90		半合
馬鈴薯	280	中	三個
大根	180		半本
林檎	285		2個
バナナ	220		2本
ぶどう	285		70粒
蜜柑	285	大	2個
トマト	285		2個

清潔係をするのですから、新陳代謝が衰へ、體内に有害物を蓄積して細胞を弱らせ、老衰に拍車かけられて居る老人には特にB_2が必要であります。B_2は螢光を放つ黄緑色の色素で、猫や犬の眼球が暗夜に青光のするのはB_2が螢光を放つからで、短波光線を長波光線に變じさせる力があるのです。眼球にはAやB_2やCが多量に含まれビタミン補給には好適な食物です。B_2が缺乏すると先づ食慾不振と胃の膨滿感が起り、次で貧血し始め、不眠症を起して非常に憂鬱となり、悪性の下痢を起すなど、恰も結核患者と同じ様な症狀を現はし、後には血便を出す様になり、顔や手足の甲に皮膚炎を發し・毛髪は抜け・爪まで脱けることがあります。卵と牛乳にはB_2を多く含み、殊に牛乳に乳酸菌を培養して豆腐の様にかたまらしたヨーグルトには澤山ありますが、ブルガリヤ人の間に高齢者の非常に多いのは、ヨーグルト食のためだと申します。殘念ながら日本人の

B_2の保健量を含む食品

卵	40瓦		1個
牛乳	200		1合
かき	100	中	10個
はまぐり	160	中	16個
さんま	120	小	2匹
鰯	200		40匹
うなぎ	22		2匹
うに	25	大匙	1杯半
はうれん草	250		4把
人参	1,000		10本
馬鈴薯	2,000	中	21個
キャベツ	400	中	1個
豌豆	220		1合半
麥芽汁（飴）	95		
蜂蜜	190		
大豆	390		2合
豆腐	800		2丁
納豆	70		1苞

食物にはB_2が少ないので身體が大きく成育せず、平均壽命も短いのだらうと云います。併し納豆や椎茸には卵に劣らぬ程澤山のB_2を含んで居、大麥から造つた白飴も田舍味噌や甘酒にも相當有るさうです。B_2の保健量についての定説はありませぬが、毎日〇・二ミリグラムの補給があればよからうとのことです。その分量を含む食品表を右に、

牡蠣（カキ）は貝類の中では珍らしく消化よく、蛋白質・脂肪は少ないが、グリコーゲンが含まれ、ビタミンもA・B・Cがあり、無機鹽類の銅や鐵もあつて、貧血症や病後の衰弱などに力强い食品ですが、内海で養殖したものは往々腸チブス菌を腹わたに吸込んで居るので、酢牡蠣では勿論、輕く揚げたフライでも滅菌せず、之を食べると冬でも罹患しますから十分に熱を加へて召上られたいものです。

ビタミンCの缺乏によつて襲はれる癩病の様な物凄い壞血病は日本にはないが、大都會に住む人達は可なり多くC減少症にかゝつてゐます。殊に冬の間は新鮮な野菜に不足するため、段々にCに不足して春先になると、なんとなく倦怠を覺ゆる春季疲勞。又口中が腫れて臭い口氣を發散したり齒龈が腫れて出血したり、ムシ齒が痛んだりするのは皆C減少症の現れです。之がもう一歩進むと食慾減退・呼吸困難・心臟苦惱・などが現はれ、更に脚にロイマチス様の疼痛が起り、皮下出血を見るやうになれば、最早・壞血病の部門に進みつゝあるのです。尙ほ恐るべきことは、

Cが不足すると胃腸が傳染病にかゝり易くなり、齒や骨が脆くなることです。四十代の人で齒の根がゆるむのは多くはCの缺乏のためです。Cや石灰に不足しない人は齒も丈夫でムシ齒にならないし、體も頑健だから長命するのは當然でせう。棚橋絢子刀自は、九十九歳の時初めて齒が一本拔け落ちて、大へん淋しく感じたといはるゝ位です。尙ほCを澤山補給すると細胞の呼吸作用が盛んになるから疲勞の回復が非常に早いので、拳闘選手は試合中盛んにCの多いレモン汁を吸つてゐます。又血行をよくして心臟の機能を高め高血壓を低下させます。又Cはホルモンの活動力を高めさうです。肺炎や腸チブスの様な熱病にかゝつたり、腸胃カタルや糖尿病にかゝつた場合は、Cの消費量は異常に高まるから、之を多量に注射すれば治療上非常に効果を擧げられます。Cは新鮮な野菜や果物だけ澤山に含まれて居ります、（Cは極めて分解し易いが、野菜果物をば

Cの保健量を含む食品

レモン汁	57（E）		
蜜柑汁	85	大	2個分
いちご	85		8
柿（禪寺丸）	120		2
梨	620		4
林檎	1,070		7
葡萄	1,000		250粒
西瓜	900		1/10個
メロン	85		1/4個
栗	91		
ぎんなん	100		50粒
淺草のり	143		70枚
わかめ	260		1把
番茶	14	大匙	2杯
煎茶	14	同	上
玉露	60	大匙	8杯
抹茶	40	大匙	5
コーヒー	50	大匙	7ホ

分解の掛念なく無熱乾燥することは、多年の研究によつて成案を得て實行しつゝありますから御相談に應じます、緑茶のCも完全に保有した製茶が出來ます。勿論その他のビタミンも同様に保有されます)。新鮮な野菜を煮たのでも時が經てば次第に分解して行きます。Cの保健量は、毎日三ミリグラム内外とされてゐます。同量を含む食品を右に、

ビタミンDは主に日光の紫外線によつて供給されるから、工場地帯に育つ子供達は、煤煙のために日光が不足し骨が軟かになつてセムシになり、又朝から電燈の光りで仕事をして居る人達は年中殆んど陽の目を見ないから、元氣は衰へ之が激しくなると齒や骨が脆くなる恐れが有ります。Dが缺乏すると石灰の吸收が惡くなり、石灰が不足すると細胞が衰へて體の抵抗が弱り、病弱と老衰とが襲ひかゝるから困るのです。毎日の食物に折角注意を拂つて石灰の多いものを澤山食べて居ても、Dが缺乏すればそのまゝ腸を素通りして役立たないのです。Dの多い食物は存外少なく卵黄と肝油位ですが、然し日光によく曝した魚の乾物や椎茸には澤山に含まれて居ますから、日光に不足がちの人には、鰯の乾物を骨ぐるみ食べらるゝ様にお勸めいたします。(ホシカを肥料とすることは古來の慣習なるも適當加工して食料若くは飼料とし糞尿を肥料とすることは最も合理的)。之はDの外にホルモンも含まれ、燐酸石灰が多いから一擧兩得です。(著者は服部報公會から補助金を戴いて、多年の研究より、如何なる煤煙の多い燃料でも塵芥でも完全に無煙に燃燒し、而かも悉皆酸化炭素瓦斯として動力用にも加熱用にも供し、尚ほ瓦斯中の窒素をば輕金屬と化合固定化し、瓦斯能力を强化すると共にアムモニア資料を得る成案を得。又鰯其他を微粉とし、味も成分もDも完全保有する成案有り、共に御相談に應じます)。最近アメリカの學者がDを全然與へなくとも枸櫞酸又は枸櫞酸カリを與へると相當骨格を强固にすることが實證されました。姙娠中Dを攝る一方・酢ツバイものゝ欲しい時には、枸櫞酸を含んで酸味の有る果實、特に蜜柑・オレンヂ・レモン・などの柑橘類を喰べることは、胎兒の骨格の强化上相當の効果があるでせう。溫州蜜柑には水分の外に七%の糖分と一・二%の枸櫞酸を含み、十一月頃早目に採集して籾殼中に貯へると、比較的成分も味も變らずビタミンBCの減りも少ないさうです。

ビタミンEは他のビタミンの様に未だよく知られてをらず、合成もできませんが、生殖腺に關係が有り、婦人で之が缺乏すると不姙娠症になつたり、早・流産をおこしがちです。又Eは、これまで絶望視されてゐた筋肉や神經の障碍に對しても、驚くべき効果があるといはれます。即ち子供の敵病小兒魔痺(「鐵の肺」で知られて居る原因不明の病氣、多く小兒が冒され手足の不自由が殘る、大阪ではBの脊髓管腔内注射の療法だけを行つて半數近くを完癒したとの發表)や、微毒に感染した大人が後年になつて罹ることのある悲慘な脊髓痨(運動障碍や排泄異常を伴ふ)なども、Eを多く攝れば豫防できるとのことです。又筋肉が無力な患者に用ひると殆んどすべての者が快方へ向ひますので

Eの治療方面に於ける新分野の開拓が、人類の福音として期待されてゐます。Eは大抵の食物には多少とも含まれ、又調理によつて破壞されないので、實際には不足に陷いることはないでせうが、Eが多量に含れて居る食品は、チシヤ・豆類のモヤシ・小松菜・カブラの葉・バナナ・玄米・半搗米・七分搗米・牛豚肉・卵黄・バターなどです。

食物は單に健康を保持するのみならず、胎兒から老人に至るまでの體格や體質や氣分までも絶えず變化改造し、一家の平和にも大切なものであり、中產以下にあつては生計の大部分を占めるものですから、食物は先以て健康と改造とに必要且つ十分な成分を採り、而もなるべく廉價になる樣消費經濟上の改善をなさねばなりませぬから、完全に主婦たるの任務を果たすには、この食物ばかりでもなか〳〵容易な智識や技能ではなりますぬ。實に困難な併し皆樣の大慈悲を發揮して銃後の守りを堅くし、物も人も生きる樣一擧手・一投足が悉く的確な奏効を收むる上に於て、誠に望ましい御婦人方の天職であります。嘗て米・紐育の某女學雜誌の懸賞募集で第一等賞に當選した「婦人座右の銘」に、「料理法（榮養維持問題）を知らぬは女でない。鈕の修繕や自己の衣服の洗濯を他人になさしめるのは、自己の意氣地無きを示すのである。パンの燒方（御飯の炊き方）は必ず學び置かねばならぬ。壹圓は百錢なるを忘るゝな。一家の主婦となつたら夫の收入と支出とに釣合を保つ樣常に計算を怠るな。借金をしながら流行物を購ふは寧ろ恥辱である。裸八貫でも勤勉な男子は百萬長者の怠惰者よりは貴きを知れ。「エース」と「ノー」とを正直に答へよ、男子をしてアヤフヤに惑はしめるな。音樂よりも美術よりも文學よりもパンの大切なことを知れ。車よりも馬よりも歩行の便利なことを忘るゝな。結婚は金錢と體裁とによつて爲すべきでなく、配偶者の眞價を知つて後に行ふべきである」とあり。正道は何國でも同樣です。併し我が國としては更に、「自己本位を棄てゝ夫を內助し、老人と和合し、子供の良き指導者となるべき修養」の項を加へたいと存じます。

今日何々婦人會といふ立派な名で活動なさるゝお方々の有樣を、嬉しく感謝して拜見して居る私の切望は是非女學校の理化（實用的）（國防的）の時間を極度に增し、尙ほ一つは女學校に「看護法」を獨立した必須課目として頂きたいことです。斯くて一般家庭に於ける病人の看護は勿論のこと、國家の非常時に備へ、必要とあらば何時でも、大多數の看護婦を戰線に病院に動員し得る樣な組織を作り、陸軍病院乃至海軍病院に於て一定期間を限り、實際の訓練を行ひ正式に看護法を敎へ込んでおけば、學生生活及び卒業後の精神生活・消費生活に至大な好影響を與へることゝ存じます。

豪奢無類なりし樣に言傳へらるゝ、豊太閤の天正十四年十月十四日の御茶會の獻立書には、一、牛蒡と燒栗の煮附　一、鱈一片と茸（椎茸）　一、鹽鮭の燒物　一、おめし・御湯・以上　とあり

ます。何といふ質素の事でせう。これはサビを尊ぶ茶道精神からですが、併し榮養上から考へても本當でありませう。所謂御馳走と稱するもりゝ中には、唯珍奇を主とし、榮養上何等の價値の無いもので而も價格の徒に高いものがありますから、常食には勿論・社交上にも此種のつまらぬ虚榮滿足は是非廢止したいものと存じます。魚類でも野菜果物でも、本當の味や養分はシユンの時分にあるので、時節違ひの物には必ず不充分であります。鯛が上品で鰯が下品だとの考は、身體を他所にしての話です。又サンマは、牛肉のロースに比較して蛋白質は同量で二一%、脂肪は三倍で一六%、カロリーは二倍で二三〇カロリーそれに腹ワタを喰べるので、ビタミンや特殊無機質の補給ともなります。一般日本人は、肉食さへすれば健康も保たれ・元氣も出る樣に考へて西洋人をまねる傾きがありますが、之は味と榮養とを同樣に考へるからでありますまいか、彼地でも長壽者・忍耐家・慈愛家・には實際上菜食者に多いさうです。要するに此等は主に年齢によつて取捨選擇すべきもので、幼兒は主として乳を用ひ、成長の盛んな少青年期には肉を取り、壯年期には肉食を減じ、老年期には菜食を主とする方が本當でありませう。

食慾增進のため食物に、シヤウガ・カラシ・トウガラシ・カレー・等の香味料を加へることは頗る必要なことであるが、之が習慣となると次第に强烈な香味を要求する樣になるから、少青年時代にはなるべく使用せず、壯老年時代に到り是非必要といふ時にも少量で奏効し得る樣豫め注意を要します。若し多量使用が習慣となつて强烈に胃腸を刺戟すると、胃腸の血行に障害を起し、直腸の局部充血をも起します。心臟病にも痔疾にも害があります。肛門附近の靜脈には蠕膜裝置が無いので血液は停滯もするし、どちらへでも低壓の方へ流れて鬱血し易いから、誰でも痔疾にかゝり易く、治療はなか〳〵困難・又患者も多數ですが、里芋の葉柄の生若くは表皮をはいだ干物を水に膨らし、よく煮て御飯の副食として少し餘分に用ひますと、一週間以内に大抵治ります。痔癖のお方は痛む前に必ず痒くなりますが、その際に喰べると痛みを起さずに濟みます。芋の葉柄には血行と便通とを良くする成分（加里鹽類）が有からです。各地方の風土記によると、產後の副食に必ず數へられて居ります。蛞蝓（ナメクヂ）を盃にいれ、砂糖をかけて一兩日位おくと粘液ができますが、それを脫脂綿に浸めて痛所に當て二三度取りかへるとなか〳〵効能があります。

先師に煎茶を戴いた際、抹茶の式そのまゝに先づ菓子を取らうとしますと、師は「それは違ふよ、この玉露を出す時は第一碗には一二滴、この時は香を賞美するので從つて主人に向つて香氣の挨拶を述べる。第二碗には五六滴、この時は旨さを味はい、その挨拶を述べる。第三碗目になると湯の溫度も少し高くし・分量も增す、此の時には茶に苦味が出るが、苦ウゴザルの挨拶も少しヘンだから、菓子を喰ベロを甘くしてから此の第三碗を飲み、菓子の讃辭と・菓子と茶との調和味に關するお手際への讃辭を述べる。斯くして茶も菓子も生かして味ひ、主客共に樂しむので

あると敎へられました。實際・玉露は香即ち揮發性芳香油を得るに苦心し、又日おひを作つてアマイド化合物（旨味を出す）を多くするものに苦心して製します。古い儀式には眞理に觸れてゐるものが多い樣で「禮は天理の節文なり」との古言我を欺かずです。理由も內容も吟味せずに舊弊視したり、型式呼ばわりのするのは、自愚の發表に過ぎませぬ。茶の苦味はカフエンで、神經及び心臟の興奮・尿意の促進等の効の有るもので、過量の有害は勿論ですが、我が綠茶には强性なビタミンCを含み、紅茶やコーヒーよりも優秀な飲料で、外人でも智識階級には頗る稱讃されて居ります。（日本人が紅茶・コーヒーを飲むのと「雀の巢」とは好一對の心理狀態）。

酒は食前に極少量を用ふれば酒精の刺戟により胃液の分泌が盛んになつて消化を助けますし、又血液中に酸化酵素を生じて吸收された酒精を直ぐ酸化し、消化を待たずして勞働後の疲勞を治する効が有りますが、兎角・酒は量を過ごし易いのと、若し量を過すと酒精のまゝ血液と兵に循環して甲狀腺を侵して醉ひ、屢々侵すと免疫の働きが鈍つて病氣に對する抵抗力を減じますので、此の點からでも利よりも害の多いことは明かです。又母體の毒が胎兒に影響することは極めて稀なるに拘はらず、酒毒は慥かに胎兒に及びますから、姙娠中は一滴の酒もいけませぬ。大酒の害は素より、たとへ少量づゝでも連續的の晩酌は考へものです。毎晩一合づゝの習慣がつきますと之に相當した抗毒素が習慣的に發生しますから、一合では平氣で何の愛相もなく、而かも止めると先廻りの抗毒素が承知せず・謂ゆる腹の虫が鳴ります。そこで家族は一合五勺をすゝめますと五勺の酒で大悦悅、而かも暫くたつと一合半では又平氣、二合三合と次第に上達して名人となり、遂には家も藏も飲み盡す大幻術師さへも世には珍しくありませぬ。（主人が外で酒を飲めば家族は內で涙を飲む）化學的の毒物は煙草でも阿片でも斯くして深みに陷るのです。併し右は少青年への說法で、之を社交や老人への奉仕に强いて應用するのは今日まだ尙早です。酒客は時刻になると腹の虫が鳴つて苦痛を感ずるのですから、「何は無くとも先づ一獻」と、鹽辛でも何でも有合品ですゝめ、徐ろに御馳走の用意をなされば奧樣への御好評は太鼓判で請合へます。宴の途中に冷シモノを出すと酒が上等に味はれます。又スルメの樣なコワイものをよく嚙んで齒を働かせますと、早く快醉をとり得て飲み過ごしを防ぐ効が有ると申します。「アルコールの後裔に及ぼす影響」と題し池見博士の發表によりますと、「アルコール中毒は遺傳しないが、酒飲みの素質は遺傳する。しかしアルコール中毒患者が、普通の健康人よりも精神病の系統のものに多いのは事實である。しかしアルコール中毒は魔藥中毒者同樣、アルコールを禁絕すれば治る」とのこと。

食堂は別に作らず茶の間・居間の利用でも、兎に角・家族團欒・一番樂しかるべき室ですから、愉快と清潔とを兼ねて、芭蕉翁が「あら尊（トウ）と青葉若葉の日の光」といへる如く、見晴らしも日當りも風通りもよく、臺所との聯絡も便利な位置を選び、相當の裝飾と整頓とに注意を要します。

食事は口のみでするものでなく、鼻には芳香を與へ、目には美しく輕快な色と形とを與へ、耳には親しく樂しい音を與へて、心身ともに快樂に成り切つてすべきであります。斯くしてこそ食の一片・汁の一滴までも、悉く消化し吸收され大勢力となつて身心共に生き〳〵いたします。食堂では不平小言は大禁物で、たとへ過失があつても善意に解して、「生かす」方に導く樣修養が第一であります。昔時・一休禪師の小僧時代、或人が惡戯に、當時僧侶に嚴禁なりし魚類を食膳に供し、食後之を詰つたのに、「生佛樣のお腹に入つて成佛せよ」と念じて喰べたから、魚は成佛して喜んで居ると答へたと申します。是非お互に食物の成佛する、即ち魚肉其の他の悉皆が吾々に同化して大勢力となる樣致したいものです。元陸軍教授友田宜剛氏の作「食時の銘」を左に御紹介致します。どこの文明國でも食時の祈禱・感謝の辭を敎へぬ處は無い樣です。

食時の銘（食前）　うるはしうして旨き朝食（フサヅ）（午食・夕食）今享く、願くば我人（ワレヒト）もろともに心身壯健にして同じく正道に進まんことを、食を享けてはまさに眞理を心の食とし、かみてくだきて諸德の味を知らんことを思ふべし。　我が國歷代天皇の御稜威・我が家祖先相承の美風・古今忠君愛國の士・仰ぐべく信ずべく範とすべし。　一つには、君の恩・親の恩・師の恩・衆生の恩を思ひ。　二つには、我が世に立つるいさをしの多きか少なきかをはかる。　三つには、身の養ひを旨として味のよしあしは言ふべからず。　四つには一粒一菜も農夫の汗を思ひて貪るべからず、

棄つべからず。　五つには、德行を成せんがためと思ひて此の食を享くべし。　一口には、一切の惡をやめんがためなり。　二口には、一切の善を修めんがためなり。　三口には、君のため國のため家のために、大いに爲す所あらんがためなり。要するに皆この德を成せんがためぞ。

同上（食後）。　飯食了りて身の力充ちたり。勇氣前に倍して事を爲すに堪へたり。いでや奮つて己が業にぞいそしません。いでや奮つて己が道にぞすゝまなん。

情緒と榮養との關係についてゲーツ教授は、「怒り易い惡意の有る且つ陰鬱なる情緒は、身體の組織内に有害なる化合物を生ぜしめ、且つ其の化合物の或る物は極めて有害であるが、愉快なる心の滿足せる情緒は榮養價値を有する化合物を生產し、それが細胞を刺戟して勢力を生ぜしめる詳しく云へば消化液の分泌・食道の調和運動（滋養物を下向）・消化せる滋養の吸收力・等を增す」と云ひ。「快活な心は肉の生命である」と斷言して居ります。ボーモン氏は又「憤怒可び强烈なる情緒により、胃の內層が刺戟され赤色となつて乾燥し、且つ非常に敏感となり、不消化を來たした」と實驗の結果を發表して居ります。つまり喜悅及び愉快の結果として、血管の膨脹と・心臟の收縮の增進と・により血液の循環は一般に促進され、殊に腦に於て著しく、兩眼の光澤を增し、呼吸作用は一層・活潑となつて、體溫昇り・榮養交換が急速となります。之に反し、不德者の意外の名利獲得は驚異・恐怖・心痛・を伴ひ、死又は狂を來たした例が少なくありませぬ。

食事の際には、和食の時にも是非衞生本意のナプキンを用ひたいと存じます。又食堂近くに鹽嗽裝置を備へて、食事の前後に於ける口齒の清潔を勵行したいもので、便所の手洗は廢してもさしたる害は無いが、食堂に是れ無きは危險至極です。「病は口から」・「榮養の總べては消化器關門の三吋内に在り」・「世界人類の生命を延長し國家と家庭との幸福を增進する唯一の方法は、只口腔を健全狀態に保つに在り」等、内外・古今の訓言及び警句を忘れてはなりませぬ。齒科醫大家の調査によると、ハシカ患者の八割・肺患者の三割・は齲齒所有者だつたと申し、齲齒の空洞は結核菌の侵入口でもあり、齲齒のため短氣となり推理判斷の力を減じた實例もあります。稀薄な食鹽水で食後・起床後・就寢前及び外から歸つた時は、必ず一度含嗽する習慣が有りたいと存じます。齒痛はその部分の末梢血管内の充血に起因しますから、顏面の外部から溫石(オンジャク)か懷爐で溫めて血行を外方に導けば直に鎭まります。溫石は半拳大の瓦片か小石を强く燒き、食鹽を厚く敷いた手拭に包んだのです。初めは顏の遠くから、次第に近づけて强く溫めますと直ぐに治ります。又齒ぐきの腫れたのには、沃度チンキを塗ればよろしく、此の藥は綿にしめて齲齒穴に詰めても効能があります。餘はお醫者樣に。

食物が衣服住居よりも大切であの如く、之を調理する臺所は家中何たの部分よりも大切な場所なることは、誰にも異論は無い筈です。實に臺所は一家健否の分るる瀬戸際でありますから、見

榮だけでなく本當の清潔第一主義で、出來後る限りの設備が有りたいと存じます。（一）水道の無い處では病源菌の有無を時々井水について檢査し消毒をします。（二）出入口には竹暖簾（錯筆大の竹を一寸五分位に切り密接した繩暖簾）を通したものを一尺五六寸隔てゝ二重に吊り、出入りの際・蠅が驚き去る樣にした防蠅裝置。（三）窓には方眼三ミリ以下の金網を張つて昆虫を防ぎます。（四）出入口には洗滌裝置を設けて入いる時必ず手を洗ひます。（五）食料品は必ず水で滌いでから臺所に入れます。斯る設備は一見大袈裟の樣ですが、一人の傳染病患者が出た時を假想しますなら、殆んど云ふに足らぬ經費で濟みます。御用聞口には、注文品名と數量とを記した札を外から透視し得る樣掛けて置くと、留守の時にも用を辨じます。尙ほ外より商品差入れの出來る箱など設くれば甚だ便利です。臺所の床は、アスハルトを厚く塗つたフエルトを上敷きすると水液も浸まず、相當の彈力が有つて立仕事に適します。床の高さは居室と水平にして昇降の煩を省き、天井を設けて塵埃の落ちぬ樣にします。床下は適宜貯藏庫に供します。流石は臺所の主ですから、廣い臺所では中央に据え、四周で作務し得る樣にします。コンクリート造りとして底に簀枠を敷きます。内部を加除自在の挿板で三部に區分し得る樣作れば、三段洗いが出來、大抵の物には桶を使はずに濟みます。排水管の上端には、加除自在の銅網と木栓とを應用し、下端は屋外の銅網底の箱（殘滓受け）を經て下水路に連絡し、廢殘の何物をも暫時も臺所に留めず、

下水路にも入れぬ樣にします。庖丁・杓子・等は手寄りの最も便利な樣位置を確定し、名札を貼ります。總べて物品は確たる置場を定めて寸時も他の個所に假置してはいけませぬ。之が徹底的整理の第一歩であります。不用時のバケツは伏せて置きます。普通のバケツは亞鉛メッキの鐵板製ですが、鐵と亞鉛とが水につかると電氣が起り亞鉛が鐵の代りに侵されますから、バケツを貯水用とするには、必ず然るべき塗裝を要します。亞鉛アミルニユームは表面の銹が透明の保護膜で大切なのですから、磨いてはいけませぬ。ブリツキは錫メッキで切口や疵の部分が濕れると鐵が錫の代りになつて赤銹を出すから、磨かずに拭ふだけにします。臺所は充分に明くし、一は以て作業清潔に遺憾無からしめ、一は以て働手の氣分を爽かにし、尙ほ「花生け」其他適當の裝飾を施して、愉快に健康に働き得る樣にしたいものです。主婦は女中の母たり姉たり敎師たるの覺悟が第一で、これが家風となれば子弟の慈愛心を養ひ、將來のため家に結構です。花婦修行のため食費持參で女中志願者のある御家庭をも存じて居ります。

水杓は眞鍮かアルミニームで一合と五合と正確なものを二個備へます。御飯の水加減・汁の分量を計るに極めて便利です。目勘定・手加減が未熟者にまで行はるゝのは我が同胞の通弊で、之がために家庭・學校・實業界等、社界の萬事萬端に於ける科學的發達が阻害されて居ります。（調練に正確な檢定法が無ければ科學は發達しませぬ）・（音感訓練は飛行術に切要）。

茶・乾海苔・干瓢・椎茸・其他常に乾燥保存の必要なる食品は、ブリツキ罐に密封し、尙ほ器內にアイデアル・ドライヤー（I、D）を同封します。同封用のI・D・はその目方の五〇％までの吸濕能力があり、濕めると黑く變色しますが、之を餅を燒く程度に焙烙か鐵板の上でゝも燒けば初めの白色に還つて、幾度でも反覆使用できます。（如何に大量の御相談にでも應じます）。

雞卵の長期保存法を申しますと、熔かしたパラフキンの中へ卵を一瞬間沈めて引上げると、殼の表面にパフラキンの薄膜を被ふて殼の氣孔をふさぎ、酸素の侵入を防ぎます。之を紙にでも包んで冷所に貯藏しまる（家庭）。最も完全な方法は、眞空ポンプで卵の氣室內の空氣を拔き、次に炭酸瓦斯（ドライアイスを用ふれば最も簡便）や窒素を氣壓二五〇ミリメートル位まで入れて、氣溫を零下一度に密封器內に保てば殆んど永久的保存が出來ます（大商店）。ドイツでは今次大戰には、數年前より完全保存せる卵が有るので困つて居らぬ內情ださうです。

收獲量を申しますと、同面積地でジヤガイモは麥の二倍とれ、サツマイモ（蔓に手入れすると減收）なら尙ほ多くとれます。又蛋白質目的としては、大豆作の方が牧畜に比し五分の一の面積で辨じます。芋類は冷藏すると腐敗しますが、適當厚に刻んで乾かせば永久保存が出來、非常用として最も適當でありませう（北滿では冬季野菜が凍結腐敗し、ビタミン缺乏症發生の徵候があるとのことですが、救濟策としての野菜の完全乾燥の御相談に應じます）。

支那事變以來各方面に物の不自由が訴へられて居り、特に食糧の不足は國民の體力や心理に及ぼす影響が非常に大きいので、資源の開發或は榮養經濟の點から、山野が大部分を占むる群馬縣松村きん女史のお調べによりますと、「食用となる野生植物は、アザミ・ウド・フキ・グミ・サンシヤウ・など山地に百卅五種。クワ・キキヤウ・ナヅナ・タンポポ・など平地に百六種。ナヅナ・カタバミ・ツクシ・ヨモギ・など都會に六十三種で、實際に食用されるのはこの内二百六十九種、そして最多く食べられてゐるのは僅か卅四種位ですが、調理法の研究が不十分なからです。ウド・ヤマユリ・ツルナシヤハズエンドウの類は揚げ物に、オケラ・タデ・の類は油ミソに、オホバコ・ギヤウジヤノニンニク・ホトケノザ・等は飯の中に入れ．クルミ・ヤキホクチ・ナヅナ・等は餅に入れ、サンセウ・フキ・ワラビ等は佃煮に、フキの類は燒餅に、ヤマブドウの類はジヤムに、ヤマイモの類は卵やきに、ワラビはキンピラに。……と云ふ風に調理すれば、榮養的にも不足を補ふことができ、非常時の食糧資源として活用できる。……ウルシの若葉は和え物によく、スミレも花だけでなく、おひたしや和えものにしておいしく、カラスウリは藥用の外・その根は澱粉質に富んでゐるとのことです。ドイツでは前大戰の際、植物學者總動員の結果、ホーレン草の代用品十三種を發見しましたが、中にはホーレン草よりも優秀なものが有つた筈で、代用品は下等なりと決めてかゝつてはなりませぬ。又路傍及び堤防の雜草は現今のものゝまゝでよいのでせうか。

第三章　（うゐのおくやまけふこえて）

「うゐのおくやまけふこえて」を、眞名で、「有爲之奥山今日越氏」、又は「有爲奥山今日越」と譯してありますが、涅槃偈の第三句「生滅滅已」に當ります。「有爲」と「因緣」との爲作造作により常に生滅流轉する相對的「諸行」即ち生滅の法を申すので、この生滅法を超脱して「お覺り」・「目的境」・に入るのは實に容易でない、例へば前途を遮ぎる大山脈を乘越える樣な難路で、一つ越ゆればまた一つと申す如く、越えても〳〵山路はつきぬが、到頭・今日こそ、その奥山を越えて了つた即ち「生滅が滅し已つた」といふ意です。併し「けふこえて」は、既往は追へず・未來は知られず、今日只今こそとの大決心で、寸時の間隙もなくより高き原理を體得すべくイザスヽメと勇往邁進すをことを申すので、心經の波羅・羯諦（彼岸・度）に當ります。「イザ」の他の意味はソラッと互に手を牽き手を曳かれつゝ進む意氣込みであります。我々は失敗したといつては落膽に停まり、成功したといつては自慢・油斷に滯り勝ちでありますから、現在・即今の脚下を顧照して彼岸（到來の境）を透破向上せねばなりませぬ。何事でも到達した境域を幾度も〳〵乘越えてこそ名人に成り得るのですが、豫め承知はして居ても、いよ〳〵となれば躊躇心も起る

が、そこを放身捨命即ち大死一番して蓦然向上することを肝要とします。第二句までの生滅法は科學でも哲學でも分りますが、第三句からの「生滅滅已・寂滅爲樂」は、西洋の科學哲學では勿論、宗教でも佛教以外では了解・體得は不可能です。之について次の如き神話（涅槃經）が有ります。昔時、雪山童子が獨り雪山に籠つて殊勝に修行をして居るので、後日必ず高徳の人と成るだらうと誰もかも稱揚して、本名の代りに雪山童子と申して居つたが、獨り帝釋天のみは不安心で。

（イ）「水中の月の氣動けば則ち動くが如く、畫像の成じ非くして壊れ易きが如く、菩提の心も亦復是の如し、發し難く壊れ易し。……是の人苦行を修し、惱も無く熱も無く、險道に住して其の行清淨なるを見ると雖も未だ信ずること能はず」といひ、自ら之をためさうと思立ち、之をとめた天仙も有つたが、帝釋は之に對して。（ロ）譬へば魚の母多く子を胎めども成就する者は少きが如し、菴羅樹の花多くして果少きが如し、衆生發心するものは無量なれども、其の成就するに及びては少くして言ふに足らず、大仙よ我・汝と倶に往いて之を試むべし」といひ、自ら恐ろしい羅刹の姿に變じ雪山童子の側に立つて。（ハ）「諸行無常・是生滅法」と唱へた。童子は之を聞いて、是れは古佛の說き置かれた偈で其の前半だらう。是れだけでも、變化無極の世間に立ちながら目前の現象のみに執着して居る迷夢者を覺醒せしむるに大なる力があらう。唯惜しむらくは一偈の半にすぎないだらう。其の後半を聽き得たら如何程貴いことだらう。併しいま誰がこの

偈を唱へたゞらうかと四顧すると、そこに羅刹が立つて居り他には誰も居らぬので。（ニ）童子はその鬼の前へ進んで恭しく禮拜し、後の半偈を聞かんと求めた。然るに鬼は「我久しく食すべき物を得ず飢渴甚しくして心惱亂せるが故に此れ以上は說き得ぬ」と謝絕したので、童子は更に言葉をつくして。（ホ）「汝の說く所、名字終らず・義亦盡さず、何の因緣を以てか說くことを欲せざる、夫れ財施は則ち竭盡することあるも法施の因緣は盡くべからず。……是の偈・說き畢らば我當さに終身汝が弟子と爲るべし」といつたが、鬼はこの言葉を斥けて、「汝は自身の勝手のみ考へて他に對する同情が足らぬ。飢渴の爲めに惱む我に說くことを望むのは無理である」といつた。童子は、「汝の食とするは如何なる物か」と、羅刹は答へて。（ヘ）「吾が食するものは唯だ人の暖肉のみである、吾が飲むものは唯だ人の熱血のみである、然るに多くの人が天の守護を得て居るために、吾は之を殺して吾が飢渴を醫することが出來ないのだ。今は非常に疲れて居て偈を說くどころではない」といつた。童子は之を聞いて、「汝若し後の半偈を說くならば吾は此の身を以て汝に供養しやう。それを樂しみに勇氣を起し、是非とも殘りの半偈を說いてくれ」といひ、自ら其の志を述べて。（ト）「我・設ひ命終するも此の如き身は復た用ゆる所無く、當さに虎狼・鴟梟・鵰鷲の噉食する所と爲るべし、自も復た一毫の福をも得ざらん。我今・阿耨多羅三藐三菩提を求むるが爲めに、不堅の身を捨て以て堅身に易へんとす」といつた。併し鬼は

之を信ぜず、僅かに半偈を聞かんがために捨身するとは信用し難いといつた。童子は之を聞いて譬へば人有り他に瓦器を施して七寶の器を得るが如く、我も亦是の如し、不堅の身を捨て、金剛身を得るなり。汝・誰か信ずべきと謂はゞ、我今、證することあらん、大梵天王・釋提桓因及び四天王・能く是の事を證せん」といつたので、鬼は初めて承諾した。童子は大いに喜び、着てゐた鹿皮の衣を脱いで地に敷き之を法座とし、且つ「唯だ願くば和上・善く我が爲に其の餘の半偈を說き具足することを得しめよ」と拜跪した。是に於て鬼は殘りの半偈を說いて、「生滅々已・寂滅爲樂」といつた。偈を說き終つた鬼は「此の二句を得て前句が全く活きて來て、汝の願は已に滿足した、此の上は汝の身を以て吾に施せ」といつた。（リ）童子は此の貴い偈を後進に遺して永久に法施をしやうと思ひ、地にも樹にも手の屆く限り偈を書きつけた。卽ち「深く此の義を思ひ然る後に、處々に若は石にも若は壁にも若は樹にも若は道にも此の偈を書寫す」と、最早少しの遺憾もないから、約を果して吾が身を鬼に供養しやうと大樹に上り投身せんとした時に、その樹の神が何故の投身かを聞いた。童子は聞偈の報恩のためと答へ、尙ほ過去の佛の說きたまへる偈の中でも最も貴い敎であると說明し。（ヌ）我此の法のために身命を棄捨す。利養・名聞・財寶・轉輪聖王・四大天王・釋提桓因・大梵天王・人天中の樂の爲ならず、一切衆生を利益せんと欲するが爲めの故に此の身を捨つ」といひ、愈々身を地上に投ぜんとするに臨んで更に。（ル）願くば一切慳惜の人をして悉く來りて我が此の身を捨離するを見しめん、若し少しく施して貢高を起す者有らば、亦我が一偈の爲めに此の身命を捨つること・草木を棄つるが如くなるを見ることを得しめん」といひ身を投じた。（ヲ）併し其の身が地上に達せぬうちに、虛空からは種々の讚歎の聲が起り、恐ろしい惡鬼は忽ち帝釋天の姿に變し、童子の身を受け止めて地上に安置した。而して帝釋天は恭しく禮拜して。（ワ）善哉々々、眞に是れ菩薩なり。能く大いに無量の衆生を利益し、無明黑闇の中に大法炬を然さんと欲するなり。……汝・未來に於て必定して阿耨多羅三藐三菩提（無上正等覺・無上正徧智）を成就せん」といつたとあります。それでこの偈を夜叉說半偈とも申します。

この神話は本偈の由來書とも見られますが、それと同時に、話中に含蓄せる意義を辿ると、偈そのものゝ說明となるのみならず、現下・非常時局に當面する我々皇民の最良示唆と存じますから、左に之が檢討を試みませう。

（イ）今日の保護人・敎育者・爲政家・がその兒童・民衆のために、帝釋天の樣に惡まれ姿に變身してまで素志達成上の心配をして居りませうか（元の張鑾曰く「怨に任ぜよ」「謗を分て」それ人臣となり惟だ名を收めんと欲して敢て怨に任ぜずこれ不忠の尤なる者なり）。或は幾分御機嫌とりをしてはゐられますまいか。汽車・電車中公衆の前でも學生は勿論・敎育を受けたものでも、老幼・其他・

難儀の者に數分間の讓席するものだに少ないのを見逃して居ります。又學生の勉强振りは、心の惱みもなく上氣(ノボセ)もせず樂しんで難問題に沒頭し・品行方正に精勵してゐませうか。スポーツは結構でせうが、時間空費の見物人の方が多く有りませぬか。今日の選手に本人の健康と壽命との犧牲（選手に結核患者多し）を要求してはゐますまいか。公衆一般の鍛錬機關は充分でせうか。(ロ)國內無數の學生が國家の要求する大人材に大成されつゝありませうか。不幸にして榮達主義・功利思想の小才子を養成してゐるのではありますまいか、中途半端で落伍・挫折・惡化・の傾向はありますまいか。罰則の制定よりも寧ろ帝釋に恥ぢない本當の「親心」（民を責めるよりも先づ爲政者自らせめよ）こそ緊急最良の防護手段でありますまいか。轉任・辭職の多いのは親心不足の結果ではありますまいか。（ハ）突然な一句半句をも聞漏さず、面子に捉はれず敬聽して、更に一層の高敎を求め聞く謙虛の態度が、老少男女一般に保有されて居りませうか。（ニ）嚴格な小言(コゴト)の多いお方に善び進んで近づく傾きが減じて居りますまいか。（ホ）研究修行のためには終身の勞奴をも辭せぬ決心が有りませうか。（ヘ）如何なる大事でも之が代償としは必ずや己れの身命が要求さるゝ菩で、他人への依存は絕對禁物。宗謙禪師は上杉謙信に答へて、「兵を進むるに死を先にすと」申して居ります。（ト）たとへ定命通り長生して疊の上で死ぬことが出來ても所詮が無い、結局は燒くか埋むか禽獸の餌食となるかに過ぎない、而かも死のために一毫の幸福だに齎らし得ない、だから我今・無上等正覺（永久に國家の指標たるべき智德）を求めるが爲めに、何時死ぬか分らぬ脆弱な身を捨てゝ、永久に靖國の社に鎭魂する金剛不壞の身に易へやうと思ふのだ。（チ）若し他人につまらぬ瓦器を與へ、その代りに立派な七寶が貰へたらどうであらう、自分もその通りだ。脆い身を捨てゝ金剛身を得るのだ、この眞心を神々樣も御昭鑑あれと、まるで第一線へ出征の方々への贐辭であり・銃後への訓示でもある樣でありませう。（リ）我々皇民は天壤無窮の皇運を扶翼し奉るべき大使命を負ふて居るのですから、この使命達成に關する敎訓は、死の寸前までも宣布の努力を要します。（ヌ）これで安心して死地に臨むが、吾は唯だ皇民としての義務のために義務を果すので、私利のためでもない。勳賞ほしさでもない。分取品ほしさでもない。死後の天國の樂しみを欲望するのでもない。全く大君の御爲め・國民のためにと思ふばかりに此身を捨てるのだと、果報主義を戒めて居ります。（ル）唯だ願ふところは國難に殉ずる我が行動をば一切の我利々々連に示して反省せしめたい、又若し少しの働きに高慢心を起す樣なものが有つたら、我が使命達成のためには、一敎訓の代償として此身を草木の如く棄てることさへ惜まない有樣を見せて、使命の貴さを知らせたい。（ヲ）「斷じて行へば鬼神も之を避く」・「心だに誠の法にかなひなば祈らずとても神や守らむ」（佛敎には求福の祈り無し）。（ソ）その通り〳〵眞に是れこそ其の本分を盡くす優良皇民卽ち大和健兒である、無量の民衆を濟度し本能と邪敎と

に晦まされた無明黑闇の中に、眞如の大燈明を點ぜんとするのである。……汝は將來必ず大慈悲心を究竟する無上等正覺を成就するだらうと申すことゝなり、行爲に對する慢心も苟安も報酬要求も絶對になく、徹頭徹尾、上求菩提・下化衆生に始・中・終・一貫して居ります。卽ち生滅の滅し已つた大死一番した境界であります。

大死一番は禪宗に於てよく云はるゝ言句ですが、室內獨參以外では說得不可能ですから、朧氣ながら第二義諦に下つてお話いたしますが、大死一番の境地に入る方法に、(一)唯自。(二)唯他。の二つあります。唯自は、山河大地の總べてを己れのものとして悉皆自分に取入れ、之より生ずる全責任を負擔する。例へば釋尊が、「汝諸人等は皆是れ吾が子なり、我は則ち是れ父なり、汝等累劫に衆苦に燒かる、我皆濟拔して三界を出でしむ」と申され。楠公が、「正成一人生きて居ると聞召し結はゞ、陛下の御開運は決定して相違ございませぬ」と奉答された如く。唯他は、一切お任せして全く無我になつてズンと先方に入つてしまう。例へば「心をばむなしきものとなしはてゝ世のためにのみ身をやまかせむ」・「生きながら死人となりてなりはてゝ思ひのままになすわざぞよき」と驀進する如く、何れも一毫の雜念を交へぬ一大勇猛の現はれであり・畢竟せる大慈悲心の發露です。此二つを圓轉活脫・自由無碍・に出入する所に生滅々己が在ります。卽ち生に當りて生無く、滅に當つて滅無しです、更に言葉を換へて申せば、視るときんば通身是れ眼、聞くときんば渾身是れ耳となるのです。軍隊內務書に、「軍ハ天皇親率下ニ皇基ヲ恢弘シ國威ヲ宣揚スルヲ本義トス。軍隊統率ノ本旨ハ將兵ノ心ヲ一誠ニ歸シ、一致團結以テ軍本義ニ邁進セシムルニアリ」とありますが、將は將に成り切り(唯自)。兵は兵に成り切る(唯他)。ところに、眞の一致團結が出來るので、唯自と唯他とは二にして一、一にして二であります。勅語に、「德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ」とあるのも斯くあらんかと拜察されます。大燈國師の辭世に、截斷佛祖。吹毛常磨。機輪轉處。虛空咬ゞ牙。とありますが、平たく解しますと、佛に逢つては佛を切つてしまい、祖に逢つては祖を切つてしまふ。利劍は間斷なく磨きすます。何ものが出て來てもビヌはおかぬといふ樣な言葉で、其の意味合は、何事でも何物でも唯自と成り切ると同時に、唯他となり切る、卽ち自もなく他もなく唯だ一誠あるのみて、生滅の相對境を脫します。以下類例を擧げて種々に檢討を試みませう。

神經衰弱にかゝりますと、他人は「あのお方は餘りに勉强が過ぎたから」と同情し、自分も亦同樣に信ずるのが常です。某名士の體驗談によりますと、某が日淸戰爭の際・學校の敎授兼舍監として將た軍資獻納の勸誘委員として、晝夜兼行殆んど寢食に遑なきこと十數ヶ月に亘つて、遂に甚だしい神經衰弱症にかゝりましたが、自他共に過勞の結果と信じ、同僚知友の强要もだし難く、總べての役を辭して上京し、ベルツ醫博の診斷を求めました。博士は、「アナタの御體格て

は、ソレ位のお働きのために該症は起らぬ筈です」と斷言されました。斯る患者に在つては病態を輕くいふと腹立だしくなるのが常で、「イヤ・私はシカ〴〵・コレ〳〵の劇務にも缺掌し、殆んど寢食をも忘れた位でした、十目十指の視指する所決して間違はありませぬ」と某が激しました。「アナタの日誌を仔細に御點檢なさい、必ず何か思ひ當る事が見出せませう」との博士の挨拶に、日誌を繰りましたが、果せるかな、某が精勵による疲勞の當時、宅の書生の一大悲慘事に遭い、いたく哀傷せる記事を發見して博士に示しました。博士は「ソレデス〳〵、それに相違ありませぬ」と云い、某は「ソウデシタカ〳〵、ハハヽ、なるほど」の短話の交換で心機一轉。三年もと豫想された難症がケロリ平癒し、直樣歸任したとあります。さすがの名士も少々唯他になり不足で小我が殘つて居たのです。自隱禪師は之を評して「三合の病氣に八石五斗の物思ひ」と申して居ります。總じて人は、働けば疲れ、疲れると必ず眠くなるが通常で、其の間の働き方に不合理な點さへ無ければ、又精神につまらぬ打擊さへ無ければ、神經衰弱の起るべき筈は無いとのことで、ベルツ博士はその一天張で通されたのです。(黴菌殊に結核菌の毒素の中毒から來る神經衰弱症の有るのは別です)。禪僧などは數月はおろか數年に亘る不臥の修行にても、眞劍に骨折らるゝお方には神經など傷ふ樣なことはありませぬ。先師渡邊南隱禪師が其の師羅山禪師の會下で修行の時は、毎夜二時間位の睡眠で過ごされたことが多く。又羅山禪師の修行中には、大井の上に板を渡たし落ちると溺死する樣にして毎夜徹宵坐禪されしこと實に滿三ヶ年間の久しきに亘つた由を承はりました。往年私が師の許を去ります際に、高弟の老儒から、「人生一戯場。恰似醉餘(モタリノ)枉。明月清風在。莫ッ求ニ世事忙(ルコトノ ヲ)。」の詩を貰ひましたが、先師は、衲(ワシ)は「求」を「辭」に改めて贐としようと申されました。何んでも來れの活劇中に在つて、そのまゝ明月清風と心得る境地こそ御互に在つて欲しいもので、娑婆卽寂光淨土で無くてはなりませぬ。「忙」の字を或人は解剖して「心の亡じた有樣」だと申します。「スキ」も「ムダ」もなく、當面の事物に成り切り(唯自又は唯他)、少しの餘念をも全く亡じて働く姿であると申すのですが、我々は「唯自」にも「唯他」にも成り切れず。「スキ」だらけ「ムダ」だらけ手落ちだらけで、唯だ〳〵仕事に追はれ、不平だら〳〵、反射的・模倣的に働いて、ゴルフ・週末旅行・「ァー忙シィ」では「忙」の字が眼をまわしますが、生滅が滅して居りませぬ。

峩山禪師が僧堂で修行の時分に、兄弟子某と共に典座卽ち炊事係になりましたが、某は頗る病弱の人で、數十人分の炊事を禪師にのみやらせて、自分は蒲團を被つて高イビキで寢て居り、時には頭を出して「忙がしいか」と呼ぶ。禪師は、二人でさへ手ばるに一人に任せてゐて能くも言へたものぢと腹がたち、「忙がしいとも〳〵眼をまわしてゐます」と答へましたら、某は又「ソーダラウ、眼ばかりまわして手がまわらぬ樣じや、アンタはムダばかりしてござる」と言ひかへし

ました。此の案外な言に接した禪は、さすが後日・傑僧の名を得られた程のお方だけあつて、「ナルホドそうかもしれぬ、衲のすることにムダがあらう、よい忠告をいだゝいた、反省せねばならぬ」と深く感激して省察（善く事を制するものは事の外に立つて事の内に屈せず）しますと、臺所より干し物を持出す時に空手で返へり、屋外へ薪を取りに往くのに空手で出て居り、往・返いづれかを「ムダ」に費して居たが、之を改めて干し物を持出して返る序に薪を運んで來れば、時間は半分ですむ譯だ。道具の置場所が一定すれば探がす時間が省ける、立ち仕事の場合は足の位置をかへ、坐業の時は姿勢を變化させ、起立と着座とを適宜に交代させるなど、姿勢や手足の運びが合理的になれば勞力を浪費しないで疲れが減る。アレにもそうコレにもそうと氣がついて見れば、炊事のみならず修行の上にも大變な利益で、「波羅・羯諦」の意がこゝにも伺はれ。他日師家となつて幾多の俊秀を諭さるゝにも、「ムダをするな〳〵」と云はれました。如何に多忙と思はるゝ仕事でも、其の順序・配列其他に的ける不斷の工夫次第で、隨分簡易化もされ・時間の節約も出來ませう。よく「甍中で働く」など申しますが、「夢中」では改良も進歩も安全性も無く、唯だ心が仕事に奪はれてをるので、唯自・唯他・不二の境界、即ち隨處に主と爲るのとは雲泥の差であります。譬で申せば箱一パイに詰め込んだ石コロの間へも豆粒が入いり、尙ほその隙間に小砂が入いり、水が入いり而かも石も豆も砂も水も皆悉く落着き、「唯一物」となつて居る樣でなくてはならぬ。西洋の諺に「偉人の事業は他人の眠つて（目を明けて）居る間に爲さるゝものだ」とあり、佛敎では「間は魔なり。」「覿面の今を失ふな。」（今といふ今の今こそ大事なれ勤むる身には今が限りぞ）と親切に敎へられて居ります。斯くなれば「生滅々已」の境に入りつゝあるのです。疲勞は身體の働いた部分に特殊老廢物が積つた爲めだと申しますが、白隱禪師は、腦の疲勞を回復すると同時に、呼吸・血行・榮養・の諸機能全部を整調する內觀法により、最も充實した心身健康法を唱へ、廿七歲にして醫者に見放されながら八十三歲までも大活動を續け模範を示されました。（拙著心經講話坐禪參照）。

彼の學生が試驗勉强のために腦を傷ふことの有るのは、學科の會得のために心身合せ打込む平素不斷の訓練を缺いて、唯だ成功を急ぎ・試驗問題を想像し・或は落第を恐れ、若くは席次を爭ふなどをして、本當に學問に必要な推理・記憶・等の以外に徒らに精神を左視右顧・紛然ならしめるため、即ち純一無雜の眞面目さを缺いたゝめであります。

劍道に於て氣劍體の一致を要諦とする樣に、日常何事を爲すにも第一に姿勢を正しくし餘念無からしめること。第二は臍下丹田（下腹）に滿身の氣を込めること。第三に精神と身體と仕事との三者を渾然合致せしめ、體當り式ならしめること。第四に以上調ひたる上は機（精神）法（事物）一體、即ち鞍上無ノ人鞍下無ノ馬と申す如く、自己が仕事か・仕事が自己かと申す如く、純一無雜

の境に入る様、猛訓練に努めねばなりませぬ。松下烏石が其の師細井廣澤に三ケ年間、明けても暮れても「一」の字ばかり習はされ。觀世二世が師の一世から七ケ年の間、「高砂や」の一曲だけを謠はされた。又曾てゴルフ界のナンバーワンといはれたサラゼン選手は、バンカーショットの練習を毎日二時間づゝ二ケ年續けて、ゴルファーの最も怖れる該技をノーミスの域まで漕ぎつけました。斯る事實を聞きますと如何にも迂遠なやり方の様に考へられますが、三年にして書道の白眉となり、七年にして謠曲界第一流の達人となり、二ケ年にしてゴルフの世界的選手となり得た結果から考へると、却つて速成と申す外はありませぬ。是れ全く彼等の徹底的な・不撓不屈な・勇猛精進の齎らせる賜ものと信じられます。

古人がよく神社佛閣に參籠したのは神佛の精神を體得せんがためです。「理を知るは易し、心魂に徹せんには參籠して心身體得するに如かず、基弱ければ目的莊重なりと雖も中途にして止まんのみ」とあります。又偉勳を樹てられた飛行將士がたのお話によりますと、「空中戰鬪中は澄切つた水の様な心境になる、實際その刹那はもう人間でないかも知れぬ。何かかう超越した存在になつた様だ」と申しますが、如何なる技術でもその妙境は同一でありませう。（禪は技術に力と生命とを與ふ）

世間では「健全な精神は健全な身體に宿る」と申しますが、今日の一部體育界の様に、身體の運動のみに熱中して精神を忘れますと、「米の穫れない藁ばかりの稻」となりますまいか。主なしの空家が出來ますまいか。鬼をも拉しく屈强の選手達が、身心一如の修行を缺くため僅か數時間位の連續の聽講や研究にだに專心なる能はず、直ちに疲勞倦怠を來たす様な精神薄弱さでは有りますまいか、又之とは反對に腦力の效能を過信するの餘り、腦が身體の單なる一小部分なるを忘れて、幾分逆上氣分で學問し、姿勢は屈み・呼吸は淺く・下腹は氣拔けとなり・蒼白い顏をして、僅かな勞働にも直ぐに息がはづみ、心臟の鼓動が激しくなるものも多い様で、「藁の萎んだ稻」と同じく、精神は無宿の浪人の様で落着きやうがなくなり、從つて精微・確實な推理判斷や、永年繼續的な研究は不可能となりませう。何といつても、健康で長命で辛抱强い人が、生き甲斐のある最も良いゴールインが出來ます。誤つて武道を體育のみと心得て居るならば、それは稻作を藁目的と考へる と同樣であります。昔時・南嶽禪師は、「牛に車を駕するが如し、車若し行かずんば車を打するが卽ち是か、牛を打するが卽ち是か」と申されました。大東亞新建設・東亞共榮圈確立と云ふ大使命達成の任務を双肩に擔つて居る我々皇民は、「剛」にして常に萬事萬物の上に伸び、「健」にして克く勇往邁進・自彊息まざる底の國民精神を、いよ〳〵涵養し・ます〳〵振作して國家興隆の本を固くせねばなりませぬ。單なる體育で剛健の氣象を養はうなどは見當違ひであります。孟子の所謂「天下の廣居に居り、天下の正位に立ち、天下の大道を行ふ、富貴も淫す

ること能はず、貧賤も移す能はず、威武も屈する能はず」と云ふ、生滅の滅已した剛健の德を體育や智育ばかりで養はうとするのは無謀であります。

某將軍は言ふ、「今次の歐洲戰爭は、食ふものも食はずして營々と國防國家を育成して來たドイツと、老狡な算盤を彈いて手先と口先で世界中を甜めてゐた國との勝敗だ。ドイツにはこの人ならと思ふ者は、實役年限だの階級だのを無視して拔擢進級させる。從つて指導者たちの考へることも實行することも、常に國民の志向より一歩前にある。だから國民は駈け足でついてゆくのだ聯合國の方にはそれが少ない。この事實が今後の戰況を決定する要素だと思ふと」。東ソ・西米の虎視眈々たる今日、我々は一層反省奮勵しなければなりませぬ。

特派員がたの報告を見るにつけても、先づ感激の涙を禁じ得ないのは我が將兵特に荒鷲諸君の眞の日本人たる貴いお姿です。今事變の前年、米人で支那航空の育ての親ジョン・ジュエット大佐が、「空中戰に關する限り勝利は支那のものだ、日本は自國製の飛行機で我流の訓練をやつてゐる。それに引かへ、支那の空軍は歐米の優秀機を配備し、多勢の優秀な教官が訓練に當つて居る」と傲語し、我が邦人中にも杞憂を懷くものが少なくありませぬでしたが、今や日本製の飛行機は大佐の謂ゆる「我流の訓練」によつて徹底的に支那空軍を叩きつけたのだ。世界の耳目を震撼させた海軍渡洋爆擊の壯擧も最近の連續的重慶爆擊も全市を瓦礫の巷と化せしめたのも「日本製飛行機」と「我流飛行術」の所產なのだ。卽ち機械の上に・技術の上に・現はれた日本人獨特の不撓不屈の精神（うるのおくやまけふこえて）が、鄙かしいこの制空權を得たのである。由來・急降下訓練を三ヶ月も連續すると、如何に健康な人でも極度の神經衰弱で廢人同樣になるといはれて居ますが、今事變では外國權益を避けるためにしば〳〵急降下爆擊を餘儀なくされ、血と汗との超人的苦勞をされたのであります。支那は四億の民を有し、至る處資源豐富で自給自足が出來る、從つて現に重慶の山奥に退避してもなほ抗戰を續けてゐるのであり、我が軍は數百海里の支那海を越えて戰ふので、補給輸送等にも莫大なる船舶と諸物資を要する等、唯だ皇軍のみの知り得る苦心と複雜さ。獨軍が猫額大の地域而かも四通八達せる交通網を利用するのとは素より同日の論でなく、彼我の戰線を考へても、獨軍がその戰線を最も擴大せる時でも約九百キロであるのに、皇軍は蜿蜒三千キロに及ぶ大陸戰線でありますから、單に彼等の模倣でなく、東亞の戰場に適したものを而かも澤山に作らねばならぬとの當局の御苦心談。國民も認識を一入深くせねばなりませぬ。

私は好んで刑務所を訪づれて囚人の作業振りを參觀し、又絕えず低能兒童の教養に關係して來ましたが、夫れ等人々の相貌及び働きぶり等に於いて、スタイルは違つて居ても、前記三業（身・所作・心）の一致せぬ點と注意の持續せぬ點とは共通でありました。從つて不良少青年の感化、低

能兒の能力增進には勿論、神經が過敏で身體の虛弱なもの、身體健康なるも注意散漫の癖あるもの、等には是非・技能科を授け、上述第一乃至第四の要領により教義すべきものと確信して居ます。彼等は、指導者が口から耳へ傳へ・紙から目に傳へる訓示・には表面・殊勝氣に見えても、內心はトックニもぬけのからとなり、「マタカ」の嫌忌心が募るばかりですから、「智慧ある方便」と「方便ある智慧」とで、彼等の心を集注・保持せしめることが最大緊要であります。而かもこの場合には、體育のために訓練的體操を課すると同樣に、第一乃至第四の條件を滿足せしめるのが目的で、教科は單にその滿足を得るための方便との考ひが必要です。又幼兒の遊戲に於いて、轉がり易い球を平板に載せて落さぬ樣に運び歩き、或は淺い盆に水を滿たして、こぼれぬ樣に姿勢を正しくして運ぶことの反覆練習などは頗る有效でありませう。いつても指名に應じて直立不動の姿勢で答辯する訓練が殊に重要です。ドイツでは、子供は國家のものだと云ふ觀念が强いから、一人でも多く良い子・しつかりした人・をつくりあげるために、總べての人が自分の子供ばかりでなく、吾が子同樣叱つたり勵ましたりして育てつゝゆき居ります。

「ナンダ子供の着物位」とはよく聞く言葉ですが、さて吾々の最大重寶として、吾々のヨリ良き後繼者として此上ない大切な子供の、智・德・體・三育上の被服に對する必要考慮條件はと自問すると、一寸行詰るのが普通でせうから、思出てのまゝ申述べて御參考に供しませう。實際・思春期の子供が不良になる徑路は服裝がその第一歩です。例へば男子なら帽子のツバを短く切り、平常洋服のボタンを下の二つ三つはづす、ズボンを短くして靴下の模樣柄をみせる、頭髮をテカ〳〵光らせる。少女なら餘りにも華美な身裝をする、頭髮を目だつて異樣にするなどをすると、不良は自分の仲間だと思つて誘惑するとのことです。」(少年審判官談)。

(一)、動作に便利なる樣作れ。子供はお人形でも大人の玩具でも小形の大人でもありませぬ。畢竟は國家の柱石と大成すべくその發程途上に立つて、即今・當さに健全な發育を要求しつゝある生き寶ですから、子供服には活動の便否を第一に考へねばなりませぬ。

(二)、衣服のために子供が本當に立派になる樣作れ。子供よりも衣裳が勝つと、子供が位負けして衣桁に墮落します(大人でも)。この子を單なる見掛倒しでなく本當に立派に育てたい、それにはどんな衣服が良いかとの考が第一です。若しも「立派に見せたいが主となりますと、孟子の所謂「助長」となつて、「十で神童十五で才子二十過ぐればたゞの人」の「芯どまり」位では濟みませぬ、虛榮・奢侈の癖が病みついて困りものとなりませう。近頃は多くの方々が、「助長」と云ふ語を平氣寧ろ必要視して居らるゝ樣ですが、元來この語は、愚者が我が田の苗が隣人のそれよりも低いのを憂ひ苗の節を引拔いて背丈を揃へた、即ち助長して得意がつて居つたが、翌日の見巡りの際には、苗が皆枯れて驚き悲んだとの孟子の戒めの譬から出たのであります。建築も服

裝も教育も産業も慈善其他の社會事業も、萬事萬端、內容はドウでも、途中の手段はドウでも、脊丈を揃える、表面を美にする、報告面を立派にする、美名を賣る、等に苦心して助長に力めた。卽ち「見せたい」の結果が東亞新建設上特に復興の絕叫を必要とする現況を產んだのではありますまいか。「日本人は結果(見榮)だけ欲しがる人間だ」と外人が冷評するさうであります。

(三)、場合と場所とを考へて作れ。　學校は晴衣常用の場所でなく、運動會や修學旅行は美裝行列であつてはなりませぬ。どこ〳〵までも教育の道場であります。若しも學校で美裝の競爭心などが少しでも萠したら、それこそ一大不祥事であります。眞・善・美・の眞理に向つての競爭は是非必要ですが、若しも過つて「見せたい」ために美裝、優勝旗を得たいために運動を奬勵し、席次を爭ふがために試驗勉强をする樣では、目標が已でに間違つて居るから、結果の良からう筈は有りませぬ。此の誤つた目標に於て他に勝たうとすることは、最高人格を目的とする佛敎では、「勝他の念」(優他にあらず)として卑しめ戒めて居ります、劍道でも柔道でも其他の競技でも、少しも征服的思想を含まぬ最高人格達成の道に於てこそ爭ふべきもので、一念でも排他的感情に馳せ他人そのものを敵としたならば、そは旣に卑しむべき勝他の魔窟に墮落したのであります。唯だ〳〵最終目標を、大慈悲心の究竟たる天上天下唯我獨尊に置きたいものであります。

(四)、着心地に注意せよ。　窮屈ではいけないが、締りがなければ子供の心までも放縱になる虞れが有ります。

(五)、なるべくアツサリと作れ。　不用部分の多いほど下品に見え、線が多いほど身體が小さく見えます。帽子とコート、靴と靴下を、同じ系統內の同色調和か、或は黑と白との異色調和(中性色)かにすれば、アツサリと上品に見えませう。西洋かぶれの方々には、東洋流のアツサリ或はシブイと云ふ意味は分り惡い樣です。

(六)、形と長さとに注意せよ。　幼兒は幼兒らしく、容貌と釣合ふ樣に丈けを短くして坐作進退に便利な樣に、較々長じては作法・容儀に缺けぬ樣に、所謂「らしく」作るのが結構でせう。

(七)、カクシを適當數附けよ。　忘れ物・落し物の無い樣に、必要品を携帶し得る樣に、洋服には勿論・和服にも適宜の個處(或は胴卷中に)に幾つかを附ける必要が有りませう。袂のブラ〳〵するのは不都合でせう。

(八)、兒童の自尊心を傷くるな。　色の餘りに褪げたもの・破れたまゝのもの・などを着せてはいけませぬ。又古着利用のものは、その眞意義を解し得るまでは避けたいと存じます。若しも誤解して自尊心を傷つけ又は物を亂暴に取扱ふ惡癖がついたら取返へしが出來ませぬ。併し之が刺戟・奮發の資料となる樣ならば勿論・結構であります。敎養上最も恐るべきは、「自ら甘んじて下劣漢となる」ことでありまして、師たり親たるものは、子供の此の卑屈心を根絕することに最善

の注意と努力とをなさなければなりませぬ。古來の大家・名流の史跡を見ますに、加賀・松任の俳人千代女史は、その藩侯から、「その方は賤しい素町人の小娘でありながら實にウィヤツじや」とのお褒め詞に對して、「瓜蔓をまくれば元は一つなり」と申しました。斯る自尊心あつてこそ、性や身分を超越して本來の面目に逢着し、世界有數の大詩人として尊敬される樣になり得たのでありませう。藤堂高虎侯は、諸侯の系圖自慢話しの席で、「我も亦神皇產靈神の裔なるぞその餘の事は兎にも角にも」と答へ、「成り上り者」だとは卑下しなかつたと申します。併し天上天下唯我獨尊てふ釋尊の絕對自尊に及ぶものはありませぬ。古今・東西を通じての第一人者たり得た理由もこゝに在りませうか。佛敎では、人間悉くが本具の如來藏、卽ち神とも佛とも世界の大救濟主とも成り得る種子が貯へられてゐる無盡の倉庫を持つて居るものとして、我々は未成の佛。衆生＝菩薩＝佛＝如來で。佛は小乘（志の小さな）（榮達主義は小乘）の弟子をつくらず。初發心の時から大乘（大慈悲心を究竟とする）の徒として化導するのであります。（八紘一宇完遂翼賛の一大代表者を作るべく敎養す）。我が豐太閤にも似通ふた英傑ナポレオン・ボナパートは、矮小で・オデコで・金ツボ眼で・有りましたが、或る歷史家が評して、「彼にして若し數吋高からしめなば、帝位を得ざりしならん」と申しました。世人の輕侮に對する絕えざる悲憤の力の偉大さを稱讃したのでせう。人を育てるには、古人の事跡を語るにも、外人の實例を引くにも、推挽・奬勵の心得、卽ち

「智慧有る方便」と「方便有る智慧」と「愛兒に陷らぬ慈悲」とが具備せねばなりませぬ。私が非常に御親切を蒙つた某專門學校の初代校長が、敎職員採用に際し必ず銀時計の榮譽に漏れた方のみを選ばれ、殊に甚しかつたのは東大ビリ卒業者某をば、その優れたる忍耐家・勉强家たるの故を以て懇望され、而かも毎朝かゝさず、「君はビリだつたがそれを忘れずに、イの一番に博士になる樣、勉强を續けて呉れ」云々と奬勵されましたが、果せるかな、某は世界未曾有の紋織物を發明して、畏くも皇后陛下の公式御召用として御採用の榮を賜はり、同校長より私は特に右布片を拜見させて戴けました。又勿論豫期に違はず同期生中第一番に學位を得られましたし、校長退職の節は第二代校長に推薦されました。初代校長の御親切さと某氏の御忍耐とには、思出の度毎に眼頭の熱するのを三十數年後の今日尙ほ禁じ得ませぬです。親や敎師の心なき輕侮が子供の自尊心を傷つけ、子供が自ら侮る樣になつたら、その大罪過は、その子供に對しても國家に對しても決して償ふことは出來ますまい。子供の成績を云々するよりも、合理的な勉强と辛抱力とに注意して、日に月に少しづゝなりともガンバリを增す樣、御奬勵が第一と存じます。たとへ落第しても失敗しても、其の時に責め叱つて落膽させたり自暴自棄に陷らせてはなりませぬ。文章の技巧については古今稀有の稱ある韓退之は、登用試驗の作文に續けさまに實に廿數回も落第した筈です。如何なる成功をしても自慢させぬ樣、どんな悲劇に出遭つても却つてそれを發憤の動機

として心機一轉せしめることが、教養の第一義諦であります。エヂソンの母、ヘレン・ケラーのトムソン秘書こそ、その好模範でありませう。（波羅・羯諦）。種々の已むなき事で初等教育だけで終らせる子供にも、「下學して上達する」・「斷えざる期待と努力の大切」・の眞意義を十二分に納得・肝銘せしめたいものと切望に耐えませぬ。實際・今日の如く學歴偏重の時勢でも、「イザ鎌倉」となると、主として役立つものは、實務中に練りに練つた深き事實の認識・思索・技術・訓練・體得であつて、眞の指導者も亦斯る人達の中から出て居ることはヒトラー總統を見ても明かです。又佛教を嫌忌する學者達もなか〳〵多い樣ですが、上長の御方々は、和氣淸麿・北條時宗・楠正成・等々・國家の一大事變に際し一切の責任を双肩に擔はれた大忠臣は、皆是れ熱烈なる佛教徒たりし事と、佛教が如何に久しき年代に亘つての皇室教・引いては國教たりし史跡とを參照して教養の任に當られたく、僧侶のお方々には、佛教本來の眞面目を發揮すべく積極的方面にも、今一層の御盡力を切に〳〵お願申上げます。印度の現狀は、同國內に大乘佛教の絶えたのが主なる原因で、ヤソ教を手先に使つた植民政策が緣となつた結果です。

（九）、衣服の代價を子供に知らすな。　若しそれを知らすと、その價格が高ければ虛榮心を養ひ、低ければ自尊心を傷つけます。唯だ父母の慈悲と勞力のこもれるを知らしめ、喜んで着、大切に保管する樣導くことが大切であります。或る富豪家の母堂が、家族及び出入人に自ら織つた綿服を與へるのを老後の樂みとし、戴いた人達は大に喜び且つ勵され、綾錦よりも大事にして、外出の節は誘惑に對する「護符」として着用しました。

（十）、常の服は地質と染色との堅牢なものを選べ。　蒙古へ輸入する色染織物は褪げ易いものが喜ばれるそうで、餘り馬鹿げた話のやうに聞えますが、實は時々晴着の模樣を洗ひ落し、母の工夫に成る新たな模樣を草木の汁で染めかへるためだそうで、頗る面白い事と存じます。我國の晴着は實よりも寧ろ華に近く、地質の强弱は第二になつても差支ないが、不斷着は地質が丈夫で作業に耐え、染色に洗濯にも耐え、且つ染直しのきくのが理想です。床飾り其他の裝飾專用品を堅牢に、日用品を脆弱にするのは古來の習慣の樣ですが、大なる錯誤でありませう。それについても實に馬鹿らしく思はるゝものは、嫁入り支度の仰々しい事です。夏買つた冬着は薄きに失しがちで、冬求めた夏衣は厚きに過ぐる傾きの有る如く、我々の考は兎角・現在の環境に左右されがちであるのに、白衣ならいざ知らず。流行の變遷はげしい被服・裝身具を、而かも一入環境の支配を免がれ難い・人目に氣のかゝる嫁入り時期に於いて、式用以外の物を一時に買入れて後悔を來さぬ樣にする事は、如何に物慣れたお方でも決して出來得べき事でないのに、單に習慣に縛ばられて知りつゝ後悔の種を蒔くのは實につまらぬ事と存じます。從つて此の惡習慣は新婦を迎へらるゝ婿君方の御盡力で改革さるゝ樣願ひたいものです。又式用のものも歐米普通人の間では、

通常服の上に白衣一枚を被ふる國が多い樣ですが、御身分上・是非立派なものを要すとならば、十分に心血を注いだ家寶ともなるべき式用裝束を作つて世襲とし、流行の支配を受けぬ一種の王冠の如く見るやうにし、それを婿君の方で拵らへる樣にしては如何でありませうか。我國の結婚は夫婦となると云ふ外に尙ほ親に繼ぎ・子に傳ふる・重大なる任務をも繼承するのですから、斯る世襲禮裝は餘程有意義だらうと存じます。（共用調度の一として立派に設備せる村落あり）。

（十一）肌着は上着よりも一層注意せよ。　肌着はいかに御身分のお方でも晒木綿（日光に曝射して、着れば日光浴の代用となる）が理想だと考へます。昔時・幼兒の肌着に黃・赤を用ひた例も有りますが、其頃の色は植物性天然染料で身體に何等の害も有りませぬでしたが、今日では靑・黃・赤・紫・等美麗な染料は盡く人造で、その多くは毒性物質を伴ひ易いから、色染肌着は頗る吟味を要します。世に謂ゆる胎毒の殆んど全くが生後の不注意によつて細菌若くは病毒を感染せしめた結果だと申します。汗の成分は尿に類似のもので、皮膚はその排泄場ですから、肌着は汚れの目立つもの・洗濯し易いもの・卽ち晒木綿を用ひ、自然と洗濯期間を早める樣に仕向ける必要が有ります。肌着の汚れは、肺にも腎にも又胃・腸・腦髓・にまでも惡影響を及ぼすのであります。上衣の汚れよりも肌着の汚れを恥づる外人の習慣は、健康第一の主義上・至當の事と存じます。兒童の肌着の下に手を入れて肌に汗バミを感ずるのは厚着過度の證ですから、御注意を願ひます。或る奥樣は子供衆に單衣ばかりを與へ、極寒には九枚もの重着をさせ、僅かな溫度の差にも汚損にも無理なく加除自在な樣に工夫され、男八・女二のお寶を殘らず健全に育てられました。晒木綿の肌着は汗垢の吸着もよろしく、皮膚に適度の刺戟を與へて丈夫にします。毛織にも刺戟があり尙ほ汗を溜めぬから結構ですが、その品質によつては肌を刺し、瘡をさへ生ずることがありますから注意を要します。又絹はこの反對に滑かすぎていけませぬ。平素餘り滑かな軟觸感を肌に與へますと、性的早熟を來たす虞れが有ります。近來上流の子女方に性の墮落が可なり多數なのは、このためとは斷定もできませぬが、多少の關係の有るのは事實だとのことですから、虛榮心と併せて御注意を願ひます。汗が肌に出る時には調節的に體溫を減ずるので頗る必要ですが、肌着に浸みた汗を着干しにすると、過度の冷却を來たして往々感冒にかゝります。之を防ぐには、豫め肌着の下にタオルを廣く當てゝ汗を吸はしめ、發汗止んでから襟頸又は腋下から拔取る樣に細工します。或は網シャツを着て空隙を作り、汗の出るにつれて空中に發散して肌着に殘らぬ樣にするのも良しく、網シャツは皮膚を常に空氣に觸れしめ丈夫ならしめる效も有ります。又白肌着をよく日光に曝すと、紫外線を吸收してビタミンDを肌に生ぜしめると申します。

（十二）學校兒童の服に富貴を表はさうとするな。　立派な服裝をさせますと、本人には虛榮となつて他を卑しめる虞れが有り、又他の兒童には羨望の情を起さしめて、その親達の慈悲心の多

少を疑はしめる危險が有りますから、富裕なお方へは特に深き御注意を願ひたく存じます。子供の時に親の力や金の力を自己の力と誤認させますと、その禍根は終生拔けず、他人を侮り・自己の修養を怠る樣な、始末に了へぬ子女となり易いもので、いつの世でも、時めくお方の子弟から不良少年がなか〳〵多く出ることは御存じの通りであります。されば「豪傑たらんと欲するものは自ら豪傑なりと思ふこと勿れ」と傲慢な青年を誡めた辭もあり、兒童の面前では下僚との應接は一切されなかつた御方を幾人となく存じて居ります。

男子は實際よりもなるたけエラク見えたく、女子は實際よりもヨリ以上にキレイに見えたい。之は人情の常で非難するには當りませぬが、その誰でもが「見エタイ」に夢中になるほどの熱心さを、「アルコト」即ち實際に偉らくあること・本當にうつくしくあること・の工夫に骨折りましたら、その外面のお化粧がはげるほど・素地が露はれるほど・結構でせう。大慧語錄に「兒は母の醜きを嫌はず」とある如く、幼兒はすべて其の母がオデコでも・ソッバでも・黑くも・白くも・容貌の如何に迷はず、世人が習慣的に勝手につけた相對的美醜感を超越した絕對眞正の美人として、母をば尊敬し愛慕します。このため、長じて婦を貰ふのにも、知らず識らず我が母に似た娘さんを選ぶ傾きが有ると申します。御婦人方には、是非その鄕土の人達を子の如く思ひ、そこの人達からは慈母と仰がれる樣有つて戴きたいものです。私が非常にお世話を蒙つた某令夫人が、目立たぬお化粧・地味なお服裝のために、未知の方には往々上女中と見誤まられまして、私に「某樣の上女中は丁寧な親切な注意周到な、自づと頭の下る樣な方ですな」と話し、私から其の實を聞いて一方ならず恐縮した有樣が、今も尙ほ眼に見える樣ですが、家に在つては家族・家來・出入りの人達の母上、外に出てゝは下僚夫妻・其の他・行く先き〳〵の母上樣となられ。誰云ふとなく一縣下の母上樣となり。美醜を超越した絕對的美人となられました。故・乃木夫人など勿論この例であります。(道宣云・聖賢は密行にして、內・智に、外・愚なり)。

昔齊の閔王の后に頸に大瘤が有るために宿瘤(コブ)とよばれたお方がゐましたその初め王が郊外散步において居りますので王は怪んで「少(ワカ)きも大人も皆が拜觀に來て居るのに汝は一目視ようともしないのはどうしたことか。」答へて曰く「妾(ワタクシ)は父母の命で桑葉を採りますので王樣をおがめとの命を受けては居りませぬからでございます。」王は「これは珍らしい賢女だ併し惜いかなコブが有る玉に瑕じや。」女曰く、「婦人たるものゝ天職は、二心なく一生懸命に敎へを守り、本を忘れぬことでありまして、容貌などはどうあらうと少しも氣にいたしませぬ」。王は、これは賢女だと大いに悅んで、後列の乘物に載せやうとされたら、女は「父母が居ますのに、無斷で御仰せに隨ひましたら不義ィタヅラ女となり、王樣の御落度ともなりませう」と申上げました。王は大にその道理有

る言行に恥ぢて一先づ女を歸宅せしめ、更めて使者を遣はし多額の結納金を贈りました。兩親は非常に驚いて入浴・化粧・美服・せしめやうとしますと、女は、「この姿で王様に御目通り致します、お化粧したり美服したりすると、誰だか分らぬ様になりますから」と、そのまゝの姿で使者について參りました。王は后といたされました。お布令が出て后のお部屋の虚飾を去り、泉水を埋めて菜園とし、膳部を質素にし、娯樂機關を減じ、御殿女中の重ね衣も禁じました。斯くて一年も經たぬ間にその感化が隣國にまでも及び、諸侯が歸伏する様になり、強國の秦・楚までが齊を懼れる様になりましたが、宿痼の內助が關つて大に力有あつたのであります。（その證據には、後の戎後國亡び王は弑せられた）。國民が沈着に各自の業務にいそしめば、そこに國の全力が發揮され、總力が集約されます。雜音は注意を要します。

以上はいづれも身分の上下にはよらぬもので、在富時分・私の女中に、家族の敬愛が一身に集まり更に附近の子供にまで慈母の如く親しまれた稻垣チヨと云ふ老婆を雇ひ得た事がありました。

「人は見かけによらぬもの」の諺もありますが、本當にその人の眞人格を認めた時の敬愛感は、終生衰へませぬ。下刻上でなく、下化上となり・上下和信となります。よく吾々は兒童に對して、「イクラ隱いてもお前の顏に書いてある」と申しますが、子供ならぬ吾々大人も、如何に隱さうとしても心身健否の實際を明白に顏に書き、聲に現はし、又自己の修養や趣味の內容までをも表示する・僞りの無い看版を下げて居るのであります。之は目さきを迷はす色眼鏡をはづして（生滅々已して）見ると直ぐ解ります。上流御身分のお方の一擧一動の影響はなか〳〵大なるものであります。「以身說法」といふ語がありますが、吾々の行動は總べて一種の說法・宣傳であります。その證據には、「富者が奢侈になると、直ぐ貧者に萬引が殖える」さうです。現下のドイツ婦人は外出時のお化粧を銃後の恥として居るさうですが、女性の有すべき根本的要素は「母性」で、物を生み育てる力の淵源を意味し、從つて智慧と・慈悲と・忍耐と・それ等を役立たせ得る健康と・を悉皆具備することが、女性特に現下の銃後の御婦人の必須條件ですが、外出のお化粧は、それと正反對な意思表示となるからであります。（ドイツ銃後婦人は成年以上のものは悉くその身分と特徴とが記錄されて各部署につき、一週六日間・一日十時間以上・產後も一ケ月だけの休養しか與へられぬ）・（情ないバリの女、敗戰の日になほ口紅）。

化粧學の大家のお話によりますと、容貌を美しくする根本は、不平なく・愉快に・いつも〳〵イキ〳〵・ニコ〳〵・で健康に立働くことが必要條件であつて、胃腸も惡く・夜分も平和な夢を結び得ない様なお方ならば、外面からの塗裝は案外役立たぬとの事で、彼の端麗・圓滿な觀音様を信仰厚く禮拜しますと、心身共に感應を受けることは理由あることです。從つて「礫像」の禮拜は殘忍性感應の虞れが有ります。

悲しいから泣くのか・泣くから悲しいのか・の問題に對し、實驗心理學者は、斷然・後者と決定して居りますが、若し腹が立つたり・悲しかつたら、鏡に對つて、觀音樣をお手本として、端麗・圓滿少しのわだかまりの無い、生キ〳〵・ニコ〳〵した御自分のお顏を、精一ぱい、數分間映してご覽なさい。怒りも悲しみも吹飛んでしまいます。これも生滅々己の一手段です。化粧は直接身體のためと云ふよりも寧ろ「見エタイ」が主となるため、隨分多くの非衞生な事が習俗となつて看過されて居る樣で、婦人衞生を喧しく唱へる外人間に、今尙ほ「コルセット」で蜂腰を擬して居る者が絶えず、或る西洋婦人が支那婦人に向つて無遠慮に、「アナタ方の纏足は頗る不自然で、他人の私共からもお氣の毒に見えます」と嘲り氣味に申しましたら、言下に、「さやうです、アナタ方のコルセット同樣の環境支配で、實に困りものです」と、支那婦人が答へたとの事です。兩方とも他人の事を憐みながら自分には反省しないでやつて居ります。それにモー一つ歐米（寧ろアフリカ土人）の曖昧女を模型とされた「雀の巢型」頭髮のお方を加へますと、押しも押されもせぬ三幅對が出來上ります。東亞新秩序建設の大使命達成に晝夜汲々たる今日、まだ〳〵婦人の虛榮は銀座街頭以外にも間々見受ける樣ですが、私が昨年渡滿中、二三會社の重役との談話に、「日本婦人の美裝辯は確かに滿洲開發上の癌である」との嘆聲を耳にしました。

さらば絶對美人のお方の服裝は如何にすべきで有りませうか、商品でもイカサマモノは包裝で客をごまかしますが、優良品の包裝は品質を生かして見せる樣に注意をいたします。「藝者風と奥樣風」此の七字でお服裝の說明を了はれますが、餘り簡單すぎると思召さば、「社會を柔和に・穩健に・世人をして眞美の觀念を養はしめる樣に、奥樣の御服裝を」と申上げます。藤原時代の女性は、圓滿具の理想美を佛菩薩に求めたのです。圖案・意匠に於て上品にと工夫するのには、不用分子をなるべく省く樣、線や色の種類と數とを出來るだけ減らす樣・吟呼すると同じく、服裝もペンキ屋の看版の樣なのや、ウインドウの人形の樣なのは上品とは申されますまい。世界的に流行の魁と知られて居る生粹の巴里婦人の中でも、高貴の方々の服裝は白と黑との案外地味な配合で、我が御婦人方の白襟紋附風であります。眞の美は人種や習慣には捉はれぬものと見えます。又文化婦人は「自分の身なりを旨くこしらへる美術」と心得、決して人まねをせぬと申します。其筋のお方の秘話を漏れ聞きますに、奥樣が藝者風をなさる御宅の櫃那樣方の中に、特に藝者遊びが多いと申します。內の弟子よりも外の師匠が好きになるのは當然でせう。日本婦人の衣類のガラの變ることは世界第一ださうで、子供の時から六七十の老年までに九度位變るとのことですが、それを箪笥に藏ひこんで虫に食はれ、秋に虫干・引越には荷厄介になるばかりです。而かも國家としては物資不足に困つて居る有樣です。洋傘の色にしても、夏の日ヨケなら、成るべく日光を透さぬ黑が最良で、白色は日光を透すから目的にかなひませぬ。他の色傘で日光を多少

でも透すときは、その色が映つて顔や衣服の色が變つて見えます。綠色の傘なら、白いお姿は蒼白(アホザメ)となり、折角のオメカシが臺なしになります。總べてお作りも携帶品も人まねでなく、御自分を觀音樣のやうに、心と共に高尙に優美にすることが第一と存じます。總べて產出の少ない物資の浪費は、結局、虛榮滿足のために國內の工業振作の妨害をすることになるのですから、御注意を願ひます。不用品(贅澤品)がはやれば必需品が高價になつて、一般國民の苦痛を增すことは經濟上の定論であります。皆樣の御裝飾品は、寧ろ成るべく平凡の材料に技術的加工を施し、而かも美術工藝の奬勵になる樣なものをお求めなる樣、國家のため斯道のためにお願ひ申します。苟くも裝飾に用ふる品が技術を拔きにし、金銀其の他材料の價格によつて品評さるゝ樣では、工業立國の覺悟を要する國民としては餘りにも物足らず、我が美術國たる「面子」にもかゝはります。餘談に涉りますが、峩山禪師は常に紙撚子を時計の紐として居られましたが、信者がその高風を仰ぐの餘り、記念のために自分の金鎖と陰かに取代へて置きますと、禪師は、「又金に化けオッタ」と笑ひながら、貧民長屋に飲料水の井を掘り與へ、下水路を修繕するなど喜捨に當てられました。心に錦を飾るお方のお心づかひは又格別です。金は政府の手に渡り國際貨となつてこそ、本來の價値を發揮するので、金や金製品を死藏若くは虛飾に使ふのは、戰時下日本國民の一大恥辱であります。

「化けオッタ」で思ひ出しましたが、賣米を再精籤した第一章例話の農婦の長女が、その嫁ぎ先きで一生懸命働いても、姑は人一倍やり手でしたから、弱年者の及ぶ筈もなく、姑の滿足を得難い事が多くて、人知れず袖を濡らした事も有つた樣でしたが、たま〳〵義弟の一人が平素の好人物にも似ず、若氣の至り多額の遊興費に窮し、嫂の箪笥を空にして家出しました、嫁は自分の重寶たる晴着も裝身具も何に化けたか影さへ見えぬのに驚きましたが、家人には勿論生みの母にさへ話さずに、翌年の土用干・時季而かも姑の發見するまで平然として居りました。實を知つた姑は非常に驚き且つ當惑の體でありましたが、嫁は姑に對して、「不斷着は皆な衣桁に殘つて居りますから少しも不自由は有りませぬ、これが外へ知れると家の恥ともなり、弟さんも歸省しにくゝなりますから、ドウゾ全くの秘密にして誰にも漏さぬ樣にして下さい。私は最初からその積りで嚴重に錠をおろして置いた譯ですから」と申しましたら、姑は嫁の意氣に感激し、一變して生母にも勝る慈悲の姑となり、義弟も他の兄弟と共に嫂を實姉にもまして尊敬し、大切にしました。之は衣裳が化けて一家並に自己の幸福となつたのでありますが、時とすると虛榮に化けたり、墮落に化けたり、凌辱事件に化けたり、美を欲して醜を獲得する不幸なお方もまゝあられると申します。由來・おめかし用のものはお化けに變じ易くありますから、お襟卷の銀狐にもだまされぬ樣御用心が肝要であります(美人薄命)。

箪笥といへば直ぐ桐を思ひ出す程に桐箪笥が重んじられますが、併しそれは美的價値から品評されたもので、決して衣物の安全保管を主としたものでありませぬから、次の方法をお勸めいたします、即ち便宜の木箱にブリキの裏貼をなし、或る時季までの不用衣物を納め蓋の合せ目はテープで密封します。勿論・納める衣物は充分に風乾し、刷毛をかけ、アイデアル・ドライヤーを同封いたします。（御相談に應じます）。衣物の害虫で樟腦・ナフタリン等の有る器内で孵化したものには、藥效が殆んどありませぬから、上述の乾燥保管に限ります。斯くすれば卵以外の虫は死し、無論・カビは生じませぬ。衣物の時々出納の必要ある常着、若くは時節の外出着などは箪笥に整理します。旅行の際に扇子一本忘れても難儀しますから、カードを備へて一々着用順に列記し、尙ほ携帶必需品の名をも列記して置きます。何事も單に記憶や氣附のみに依賴しますと、ムダな氣苦勞が多くてつまらぬから、小黑板を分用します。容器に納める前にはボタン・ポケット・綻び・シミ・等の檢査を行ひ、完全な分のみ納あます。御存じの「茶の湯」に於て、始めと終りの道具調べにより安全第一を期すること、その所作に於てスキ（手落ち・油斷）無く・ムダ（徒勞・浪費）無く・無理（自然に背く）無き・を期すること等は、日常の行持にも移す樣修養したいものと存じます（杓底に湯を殘す）。

衣食は如何に贅澤に見えても自ら制限が有りますが、書畫・骨董品等に至つては其の價格殆んど無限であります。從つて之が眞贋・良否の鑑定は容易でなく、富豪・御大名等の什寶に、イカサマ物の多かつたことは公然の秘密であります。さは云へ眞に美を愛し・藝術を保護すること・或は隱れたる重寶を掘出して世に公開すること等は、富豪家の社會奉仕としておつとめを願ひたく存じます。秘藏は商品としての價値に關係なく、自己の主人・尊族・師匠・若くは恩人の記念として、何物にも換へ難い個人的事由の存する時に用ふべき語で、苟くも世を益し得べき藝術品を秘藏するのは、その作者の苦辛に對しても相濟まぬことです。外國の富豪家が、自己の重寶を博物館に出陳して公衆を利するを以て最大の滿足とする習慣は我國にもありたいものと存じます。謂ゆる「寶」とは、如何なるものをいふのでせうか、恐らくその意義とする所は、物自身でなくて夫れを生かして使ふ時の效用でありませう。既に買つたものは生かして使ひ、將さに買はんとする物は、國のため・家のため・自己のため・如何にすべきかを考へて、效能の最大なる物を買ふべきものと存じます。小を欲するものは小人で、大を欲するものは大人であります。宮內省調度寮のお方に承はりますと、皇室御歷代の御買上は必ず生存者の作品に限られ、工業御奬勵の御思召と拜承いたしました。此の畏こき有難き聖旨を奉戴して、何物を買ふにも自己の必要を充たすと同時に、國家產業の發達に資せんとする考が無くてはなりませぬ。國際觀念を忘れて舶來品を買つてはなりませぬ。

机の規格に關する發表文を拜借しますと、「年々ふえるばかりの近視は尋常四五年頃より急にふえてゐます。（ヒットラー・ユーゲントは一人も眼鏡をかけて居ない）近視を豫防するのに最も大切な方法の一つは、勉强時の姿勢を正しくすることにあります。勉强時の姿勢を正しくするためには、机・椅子がこれを使用する人の身體の條件にピッタリ合つたものでなければなりませぬ。厚生・文部・兩省肝煎りで誕生した視力保健聯盟では、右の見地から豫て小學兒童用の机・椅子の規格について調査研究を續けて居ましたが、この程尋常一年生より六年生まで十二種の机椅子に關する寸法を決定してこれを發表しました。決定された規格の一ばんの要點は、差尺（机の上端と椅子坐面との高さの差）が坐高（椅子にかけた時の頭の頂上から臀部の下端までの距離）の三分の一にきめられたことです。新らしく机・椅子を求めらるゝ向は、この條件にかなつたものを求めらるゝがよく、また御使用のもので改造できるものはお直しになるのがよいでせう」と、寫眞まで添えての結構な御發表ですが、私は僭越ながら、椅子の凭りかゝり部の前面に横棧を取附けて、腰の背面「褌のヨツキ」部を棧で少しく前方に押す樣にしたいと、心ひそかに願つて居ます。これは米國にもその實例があります。今試みに柱にピッタリ背を寄せてから、柱とヨツキとの間に拳をさしこんで下さい。この姿勢が吾々の行・住・坐・臥・常に支持すべき姿勢と確信し、兒童の椅子には是非その用意が必要と痛感して居る次第であります。その姿勢だと、兩肩が自然と少し後ろに開き、胸腔が擴がり、下腹に力が入り易くなります。從つて呼吸にも血行にも榮養にも好結果を來たします。腰は文字の組立が示す如く月（肉づき・身體の義）の要（カナメ）（扇の要の如く）で、要の締らぬ「ヘッピリ腰」では「萬事休す」でありませう。下腹に力を入れる稽古には、臍の周りを兩掌で圍む樣に當てゝ、吸息時の腹部膨脹と戰ふ樣に押へて深呼吸をすると、そのコツが直ぐ分ります。廿歳まではムツカシイと幾人もの醫師に宣告された私が、七十三歳の今日・風一つひかず元氣で活動して居れますのも、大部分はこのおかげかと喜んで居ります。どなた樣にも悅んで御相談に應じます。

第四章（あさきゆめみしゑひもせす）

「あさまゆめみしゑひもせす」を眞名で、淺夢見志不醉、」又は「不見淺夢醉毛不爲」と譯し。涅槃經の第四句「寂滅爲樂」に當ります。「あさきゆめみじ」とは、世間虛假の法は盡く麁淺にて、夢中にさま〴〵の境界を見て生滅・取捨・憎愛の相對境に苦惱したれども、一たびさめて、これ皆有爲の夢なりと知つた以上は、今更に斯る夢など見ないと云ふ義。「ゑひもせず」、これ「此の一句を建てゝ佛法の玄極を示す」との古評もありますが、凡夫無明の酒を被つて無始以來、生死の曠野にさまようて、「那一物」（採れば則ち存し舍れば則ち亡す・出入時無く其の鄕を知ること無し）を翫ん

て來たが、こゝに醉醒めて從來の翫具、即ち無價の至寶なりと知つた上は、受用無盡の如來藏だとの意であります。

世俗には「寂滅」を「死」と思ふ方が少なからぬ樣ですが、こは全くの誤解で、寧ろその反對の無爲常住です。生滅の沙汰がスツカリなくなつてから即ち「生滅々已」してからの境界ですから、「死」の有らう筈がありませぬ。勿論・「生」も有りませぬ。無爲の境地です。無爲をば學者の言葉を借つて申しますと、「無爲とは爲作造作なきなり」・「無爲は生滅變化無き眞理・諸法の眞實體なり」。「無爲法は常住不變の眞理にして一切法の性體なるが故に之を法性と呼び、又此の法・虛妄を離れ變易なきが故に之を眞如と稱す、畢竟するに無爲は一切法所依の性體として遍在し、而かも凝寂湛然として全然一切法と伴たらざるものなり。是の如き無爲法の實際は言詮思議の及ぶ能はざる絶對の存在なり」など申し佛の境界（休歇なる悟迹を跳出ならしむる）です。白隱禪師は達磨夕涼の畫讃に、「よしあしの葉をひつ敷いて夕涼み」と詠まれましたが、大乘佛敎では、ヨシアシの世俗を遠離し超然として獨り己を潔ふするを本旨とせず、勿論・懷手をしながら偉大な歷史的事業を完成しやうなどゝは思ひませぬ。ヨシアシ即ち一切の差別も變化も有りのまゝに觀ながら、之に執着せず、終始・生死を超越し寂然として其の上に安坐して、（如來法身不レ離二煩惱藏一名二如來藏一）、

而も平等無差別の無爲境を失はぬのであつて、差別なき平等も平等なき差別も共に佛法にかなはず。佛法は有爲・無爲をたがひに（寧ろ同時に）用ひつゝ、敢然歷史の奔流に棹し、而かも之を超越する中道を重んじます。從つて中道を行くには、たよるべき道標を要します、外國の樣に眞正の道義心と國策（打算主義・弱肉强食思想に依る）と合致し得ぬ所では恰も天に二個の月が有る樣で、國民は常に目標を誤り易い筈ですが、至幸にも我が皇國では、「正しきみちを養ひて然て後に八紘を掩ふて宇と爲さむ」との聖謨が進路の一大燈明、即ち「わけ登るふもとの道は多けれど同じ高嶺の月をながめむ」の高嶺上の明月（聖謨・最高道德・佛智）が、時・處・位・を問はず、一億同胞の先途の目標とも進路を照す燈明ともなつて居り、古來の國敎（神道が外面となり、佛道が內面となる盾の如き敎）たり・萬化の極宗たる・佛敎が嚴存して居ますから、勝手に眼を閉ぢて淺い夢を視たり、邪敎の酒に醉はぬ限りは、皇民の傳統的に有する本具の明き、淸き、直き、菩提心を因とし、八紘一宇といふ廣大無邊の大慈悲（聖慮）を根本とし、上下合致・一億一體の總動員により、聖謨を翼贊（衆生を調じて悉く阿耨多羅三藐三菩提に趣向せしむ、大集經）奉り、天壤無窮の皇運を扶翼し奉る上に於て、十分なる資格（菩薩）を有し、若くは有すべく敎育し、修養し得るので、從つて苟安の日暮しは寸時たりとも許し得ないことは明瞭であります。陶淵明が、「形を宇內に寓すること復た幾時ぞ、曷んぞ心を委して去留に任せざる」と、如何にも達觀氣取りをして居りますが、大乘佛

致としては甚しく之を彈呵して居ります。又我が皇民は、「隱居」・「恩給者」も其の功にほこらず、多年持ち慣れた杵づかにより、陰然・一意專念に研究・鍛練を續け、生涯奉公心に燃え困苦缺乏を意とせず戰時犧牲を負擔する覺悟で居られませう。（イタリーの新國民徴用法は五十六歳から七十歳までの男子、十四歳から六十歳に至る婦女子をも徴用して特殊任務に就かしむ）。釋尊は、天上天下唯我獨尊（大慈悲心・最高道德に於て）を目標として修養し・體達されたのですが、我が青壯年者は、神樣の肇め給ひし皇民の選手として、世界のコーチ（中庸・君子は動いて世々天下の道たり、行ひて世々天下の法たり、言ひて世々天下の則たり）として立つべく一大自信が必要で、この自尊自信の心に目覺むれば、「一切唯心造」とさとつて何事にも驚きませぬ。「七難を祈る」・「憂きことのなほこの上につもれがし捨てし心の誠をや見む」・「君のため世のため何か惜しからむすてゝ甲斐ある命なりせば」と、「大死一番」後の「大用現前」となつてまゐります。最早煩惱に捉はれませぬ、「日々是れ好日」と、力强く生き甲斐有る生活が營まれます。萬境を超越的に透破して、「波羅・僧・羯諦」（彼岸・總・度）・「いかなる境も皆越えて」となり得ます。今・その消息を左に述べませう。（有佛處不ノ用ニ遨遊ニ、無佛處急須ニ走過ニ）。

中道（萬有を支配す・中道卽法界・法界卽止觀・止の體は靜也・觀の體は明也）に悟入すれば、變化極なき眼前の事物にも、其の生滅現象中を一貫して永久に不變なる眞理の存することを知り、全く心を動かしませぬ。我に執せず境に捕はれぬから心は常に平靜です。迷悟に頓着なく目標に向つて一路邁進すれば、やがて迷ひも悟となるから迷悟不二です。煩惱が生じても却つて解脫の緣とします。親疎・遠近・利害・得失・等の差別を超越するから心はいつも平和です。小乘を學んでも、やがて大乘に入るの階梯といたします。不善に出逢へば是れを善の不足と見て敎化に努力します。執着が多ければ罪を造り、執着を去れば福を生じますから、心を方向變換せしめて、畢竟一に歸せしめます。心が能く道理と合致するから煩惱に役せられず、差別の外に立つことが出來ます。修養を怠らないから、いつかは有爲（自他を分つ心）から無爲（自他を一にする心）に入いられます。心の持方が中道にかなうかち世間（俗）に在りながら出世間（菩薩）の人となり得ます。人生に於ける有ゆる變化中に在つても、其の變化の中を一貫する不變の理を觀じ得て居るから、心には出離があります。（證上に萬法あらしめ、出路に一如を行す）・（小離は憒鬧を離れ、大離は身心盡く、菩薩は大離を樂ふと雖も而も依持せず）修行を續けて怠らないから、遂には一切の惑を盡すことが出來ます。吾々の本性には大慈悲心を發すべき力が潛在（如來藏）して居るのですから、その力が「中道」をたどつて發揮すれば無我（大我）となり得ます。同じく本具の智性が發揮されて無我となり得るのです。色・受・想・行・識・等外界の刺戟に應じて生じて來る吾等の身心內外一切の作用が、畢竟一に歸するとの觀念（空觀）が體得さるゝから、色も識もそのまゝ空で、其の中に於て色・識・空と通達する

ことができます。空と色とは共存であること、萬物の存在は無始・無終で中間（現在）も無い（三世不可得）ことが分ります。五官そのものは五識が有るだけだから、意性の法に於てさへ貪（享樂を恣にせんとす・名利・貪吝・偏愛）瞋（世の享樂者に對する不平）癡（氣樂に一生を過ごしたい無目的無意義の生活）が起らなければ之を「寂滅」と名づけ、其の中に在住するのを不二の中道に入ると申します。布施（慈善）は慈悲心の形に現はれたものであるが、之を單獨な一善行とせずに總べての言行に其の意を含ませて、慈悲心の廣大無邊なる佛境界（八紘一宇）に入る行程として修行するのが中道の行き方です。一切の差別の中を一貫する無差別平等の理即ち「空」を知ると一切の差別を超越する心即ち「無相」となり、無相となれば世に立ち人に對するに當つても、常に平等の慈悲心を以て之に接し「無作」となるが、此の關聯せる三者は差別に執ずる心の無くなつた中道であります。佛は法を衆生に說き、衆生は法によつて佛になるので、畢竟は一に歸すべく三寶（佛・法・僧）皆な無爲の相にして虛空に等しとの心を以て、世に立ち事を處するのが中道であります。（官・民・師・弟）身の實相を達觀すると、身と涅槃との差別見が無くなり、煩惱の身ながらに涅槃を得べき道が見出され、人生に如何なる變化例へば「死」に臨んでも少しも心が動きませぬ。（正成の七生滅賊・大慧の法界に分身して普ねく衆生を度せん・軍人の死しては護國の鬼たらん等）中道に入れるものは、身業にも口業にも意業にも總べて作相が無くて能く無作の慧に隨ふ。福行（樂を受くべき）も罪行（苦を受くべき）も不動行（佛心と一致する）も全く異つたものとの考を起さず、何れをも緣として佛道に勵み、自他の對立意識がないから他人の惱みを我が惱みとして他人の喜びを我が喜びとする。經驗・學識・財產・名譽・等に對し所得心が無い、即ちお臀をおろさぬから、心は常に謙虛・無所得で利害・得失・其他の計校心が無い。心が決定して受（外界から受くる刺戟）想（刺戟によつて起る念想）のために動搖せざること、譬へば月が雲上に在るが如く、月自身（心）には明闇なきが如く、心能く絕對の理と合致して差別の外に超越出來る。煩惱の縛が無いから解も無い、已でに縛がなく解も無いから涅槃を樂み生死を厭ふことは無い。即ち好く底の法もなく嫌ふ底の法もなく、唯だ唯だ上求菩提・下化衆生（大使命の達成）に勇往邁進（大活現前）するのみであります。中道に住するものは邪道を行ずるものに對すること、猶ほ嚴父慈母のその子に對する如き親心を以てその不足せる眞智慧を發達せしめ、其の非を自覺せしめます。萬有が實相であるか非實相であるかを知ることは肉眼によらず、慧眼を具して初めて能く見えます。中道に於けるこの慧眼は「見ること無く、見ざること無し」で、「隻手の音聲」同樣です。切に實參實究を願ひます。又「三藏法數」には、「一實の相にして中道の理なり、虛妄あることなく顚倒あること無し」・「往生要集」には「此の一實の境界は即ち是れ如來の法身なり、」占察經には「一實の境界とは、謂く衆生の心體本より以來不生不滅・自性淸淨にして無障無礙なること猶ほ虛空の如し」とありますが、この深遠なる

不二中道の意義は限り有る言語や文字では盡し得ないので、（紅爐焰上爭容レ雪・到レ此方能合二祖宗一）其の心の持合を孟子は「浩然の氣」と申しました。其の弟子・公孫丑の質問に對しても、「言ひ難し、其の氣たるや至大至剛・直を以てし害すること無ければ天地の間に塞がる」とのみ答へて、「浩然の氣」の本性については何も云ひませんでしたが、吾々には「八紘一宇」の聖謨翼贊の大和魂と解してよいと思ひます。古來・日本民族は神樣をば、たゞ空漠に萬能なお方と信ずるのでなく、常に人々を守り導き給ふことに一所懸命におなり遊ばすことの可能な御方と心得て居ます。（彌榮の精神）。從つてそのあとを繼げる我々神の子達に對しては、「男兒やも空しかるべき萬世に語り繼ぐべき名は立たずして」（萬葉・山上憶良）の激勵があつた譯であります。

惟神（カミナガラ）は「タヾ神ノミ」。「コレ神ノミ」の意で、筧古彦氏は、此の神ながらの意を敷衍して左の如く申して居ります。

一、各も各もの上に神のましますことを忘れざること。
一、常に有難くなつかしみ思ふ心を以てものごとに對ふこと。
一、己が受持を通じて世の中を提げ追ひ進むこと。
一、清明心を以て汚を祓ひ、其が中よりウルハシキ（善・美・愛）ことを生ぜしむること。
一、道と事とを明らかにし、天皇（スメラミコト）をして彌々スメラミコト（最も善く・美しき・有難き・懷かしきミコト）たらしめまつり、其の御光を仰ぎつゝ相扶けてミコトとなし合ふこと。

「ミコト」はマコトの淵源にしてマコトの包藏者（如來藏）として居ります誠（眞實）無ければ物無し（鶏鳴けば則ち子和す、誠を修むれば則ち物應ず）と云ひ。マコトは必ず事實と離れず事實中に存在し、事實を通じて認めらるゝもので、我國では眞・善・美・の上に更に「有難く」（感謝）・「懷かしき」（憧憬）を加へて、マコトとし、そのマコトを內容としながら之に超越し・絕えずマコトの淵源となりつゝある人格者をミコトと申上げます。從つて神・尊・命・は同意義であります。又神の子孫たる吾々は、天然自然の大なる力（如來藏）卽ち普遍的大生命（神樣）が宇宙の有りと有らゆるものを土臺として生れ來り、世の中の一切の事物を前提として活きて居るものと信ずるのでありまし。前に申した「中道」は、「惟神の道」であり、「浩然の氣」は「惟神の心」であります。

聖德太子は、熱心なる隋唐文化の讃美者で在しながら、而かも之がために聊かも皇國の尊嚴を失はず。又能く國民的自主觀念により神・儒・佛の三道を調整統一し、十七條憲法を制して大化革進（皇室中心主義の新日本建設）のために思想的根據を作り、比類なき感化を日本史上に殘されましたが、その尊重すべき憲法（後代立法の精神）を左に揭げます。官民共に敬承を要すべき千古の金言と存じます。（十七は九と八との合數・九は天道を制する數にして陽數の極・八は地理を制するの數にして陰數の極・天地の道に協ひ陰陽を統ぶるを示す）。

一に曰く。和を以て貴しとし（論語・禮之用和爲貴）忤ふことなきを宗とす。人皆な黨あり、亦達れる者少れなり。是を以て或は君に順はず、乍ち鄰里に違ふ。然れども上和下睦（孝經・民用和睦上下無怨）して、事を論ずるに諧ふときは、創ち事理自ら通ず何事か成らざらん。

二に曰く。篤く三寶を敬へ、三寶は即ち四生の終歸・萬化の極宗なり。何の世・誰人か是の法を貴ばざる。人尤惡きもの鮮し、能く教ふれば之に從ふ。それ三寶に歸せずんば何を以てか枉れるを直さん。

三に曰く。詔を承けては必ず謹め、君は則ち天・臣は則ち地とす（管子・君臣者天地之位也）、天覆ひ地載せて（中庸・天之所覆地之所載）四時順行し萬氣通ずるを得。地・天を覆さんと欲すれば則ち壞るゝを致さんのみ。是を以て君言へば臣承はり上行へば下靡く、故に詔を承けては必ず謹め、謹まざれば自ら敗れん。

四に曰く。群卿百僚・禮を以て本とせよ。其れ民を治むる本は要禮に在り。上・禮ならざれば下齊はず。（韓詩外傳・上無レ禮則不レ免二乎患一下無レ禮則不レ免二乎刑一）下・禮なければ必ず罪あり。是を以て君臣禮あれば位次亂れず。百姓禮あれば國家自ら治まる。

五に曰く。餐を斷ち欲を棄て、明かに訴訟を辨ぜよ。其れ百姓の訟は一日千事、一日尚然り況んや累歲をや。このごろ訟を治むる者・利を得るを常となし、賄を見て讞を聽く、便ち有財の訟は石を水に投ずるが如く、乏者の訴は水を石に投ずるに似なり。是を以て貧民は則ち由る所を知らず、臣道も亦焉に於て闕く。（文選・其言也如二以レ水投一レ石莫二之受一也其言也如二以レ石投一レ水莫二之逆一也）

六に曰く。惡を懲らし善を勸む（左傳成公・微惡而勸善）るは古の良典なり。是を以て人の善を匿すことなく、惡を見ては必ず匡せ。其れ諂詐は即ち國家を覆へすの利器・人民を絶つ鋒劍なり、また佞媚の者上に對しては則ち好みて下の過を說き、下に逢へば則ち上の失を誹謗す。其れ此の如き人は皆君に忠なく民に仁みなし。是れ大亂の本なり。

七に曰く。人各々任あり。掌ること宜しく濫れざるべし。其れ賢哲・官に任ずれば頌音則ち起り奸者・官に在れば禍亂則ち繁し。世に生れながら知るもの少なり。尅く念ひて聖と作る。（書經多方・惟聖罔念作狂、惟狂克念作聖）事・大小となく人を得れば必ず治まり、時・緩急となく賢に遇へば自ら寬なり。此に因りて國家永久にして社稷危きことなし。故に古の聖世は官の爲めに以て人を求め人の爲めに官を求めず。

八に曰く。群卿百僚早く朝し晏く退け。王事・盬きことなく（詩經唐風・王事靡盬）、終日盡き難し。是を以て遲く朝ねらば急に逮ばず、早く退かば必ず事盡きじ。

九に曰く。信は是れ義の本なり。事ことに信あれ。其れ善惡・成・敗の要は信に在り。群臣共に信あるときは何事か成らざらん。群臣信なければ萬事悉く敗れん。

十に曰く。忿を絶ち瞋を棄て人の違ふを怒らざれ。人皆な心あり。心各々執あり。彼是ならば則ち我非なり（莊子齊物論・是其所非、非其所是）。我れ是ならば則ち彼れ非なり。我れ必ずしも聖に非ず、彼れ必ずしも愚に非ず、共に凡夫なるのみ。是非の理・誰か能く定むべき、相共に賢にして愚なること環の端なきが如し（史記田單傳讃・奇正還相生、如環之無端）。是を以て彼人は瞋るとも還つて我が失を恐れ、我獨り得るとも衆に從つて同じく擧へ。

十一に曰く。功過を明察して賞罰必ず當てよ。このごろ賞は功に在りてせず、罰は罪に在りてせず。執事・群卿・宜しく賞罰を明にすべし。

十二に曰く。國司・國造、百姓に斂ること勿れ。國に二君なく民に兩主なし（禮記曾子問・天無二日、土無二王）。率土の兆民・王を以て主となす。任ずる所の官司は皆是れ王臣なり。何ぞ敢て王と與に百姓に賦斂せんや。

十三に曰く。諸々の任官者同じく職掌を知れ。或は病み或は使して事に闕くることあり、然れども知るを得る日は、利すること曾てより識れるが如くせよ。其の與かり聞かざるを以て公務を妨ぐること勿れ。

十四に曰く。群卿・百僚・嫉妬あること勿れ。我れ既に人を嫉まば人もまた我れを嫉まん。嫉妬の患は其極を知らず。所以に智・己れに勝れば悅ばず、才・己れに優れば則ち嫉妬す。是を以て

今・五百歳の後乃ち賢に遇はるれども（孟子公孫丑下・五百載而有王者興）、千歳を以て一聖を待ち難し（文選三國名臣傳序讃・千載一遇賢智之嘉會）、其れ聖賢を得ずんば何を以て國を治めん。

十五に曰く。私に背き公に向ふは是れ臣道なり。凡そ人私あれば必ず恨あり、恨あれば必ず同ぜず、同ぜざれば則ち私を以て公を妨げ、恨起れば則ち制に違ひ法を害す。故に初章に云ふ上和下睦とは其れ亦是の情か。

十六に曰く。民を使ふに時を以てするは古の良典なり（論語學而篇・節用愛人使民以時）。故に冬月・間あらば以て民を使ふべし。春より秋に至るまでは農桑の節なり民を使ふ可からず。其れ農せず桑せずば何をか食し何をか服せん。

十七に曰く。大事は獨斷すべからず必ず衆と論ずべし。小事は是れ輕し必ずしも衆と共にす可からず。唯だ大事を論ずるに逮びては若し失あらんことを疑ふ。故に衆と相辯ぜよ、辭則ち理を得ん。

十七ヶ條の綱領は、一に和、二に佛敎奬勵、三に皇室中心主義、四に政治の公正、に要約されます。「國民文化の史的發展は背後に偉人天才の努力と指導と有り」と申しますか、我が國では一千二百六十四年前、既に聖德太子の如き、眞に苦惱濁亂の人生に徹し、人間の共に歸趣すべき大道を體得して、之を實生活の複雜關聯と不斷轉化の裡に實現せられたる綜合的指導精神の權化が、八紘一宇の聖謨のもとに三敎を調整統一して渾然たる國敎と爲し、世界的日本の進むべき方針と、

皇民個人的修養の規範（法華經・維摩經・勝鬘經の義疏）とをお示しになつて居るのですから、日・滿・支の同盟による東亞新秩序建設は、我々の先天的任務であります。よく人の弓矢八幡と申す八幡神樣は海近く御鎭座あり、我々に八正道の幡を押立てゝ海外までも邁進すべきことをお示しになつて居ます。（佛印・蘭印・泰國は我等の祖先と深甚密接の關係が有ります）。

中庸に「君子の道は端を夫婦に造す、其の至れるに及びては天地に察かなり」とありますが、萬葉集には、妻が「……山城路を他人の馬より行くに、己夫の步より行けば、見ることに哭のみし泣かゆ、其思ふに心し痛し、たらちねの母が形見と吾が持てるまそみ鏡に、蜻蛉領布負ひ並め持ちて、馬かへ吾背」と云へば、夫はそれに對し、「馬買はゞ妹步行ならむ、よしゑやし石は履むとも吾は二人行かむ」と答へてゐる程、夫婦の愛は純樸で徹底して居り、男尊女卑とか女尊男卑とか云ふやうな、水くさい相對意識は無かつた。夫に對して妻は、「吾背子は物な念ほし事あらば火にも水にも吾がなげなくに」と、夫の爲めには水火をも辭せざる貞烈な偉大愛を有すると共に、「稻舂けば皸る我が手を今宵もか殿の稚子が取りて嘆かむ」と、手のヒビを氣にするやさしさも有して居りました。又「旅人の宿りせむ野に霜降らば吾が子羽ぐゝめ天の鶴群」と母が子を念へば、父は子を、「銀も金も玉も何せむにまされる寶子に如かめやも」と世界に類ひなき親心を詠み、之に對して子は、「垂乳爲の母が目見ずて鬱しく何方向きてか吾が別るらむ」・「出でゝ行きし日を數へつゝ今日今日と吾を待たすらむ父母らはも」とうたつて無比の孝心を現はし、斯くして夫婦の愛は親子の愛へ、兄弟姉妹の愛へ隣人の愛へと擴がり、遂には「今日よりは顧みなくて大君の醜の御楯と出で立つ吾は」と大死一番して、國家愛へと昂つてゆく、家族國家としての我が國の强味と有難さとを、永久にいや增しに增して、世界の敎化・德化に察らかならしめねばなりませぬ。

序ながら、厚生省優生課長の發表された「結婚十訓」を御紹介申上げます。

（一）、一生の侶伴として信賴出來る人を選べ。（二）、心身共に健康な人を選べ。（三）、惡い遺傳の無い人を選べ。（四）、お互に健康證明書を交換せよ。（五）、近親結婚はなるべく避けよ。（六）、晩婚を避けよ。（七）、迷信や因襲に捉はれるな。（八）、父母目上の指導を受けて熟慮斷行せよ。（九）、式は質素に屆は當日。（十）生めよ育てよ國のため。

さらば如上の大使命を果すべく大活現前の我々には、如何なる態度が必要條件であるか、以下古語を拾つて檢討いたしませう。

「佛法の大意如何」の問に對して、「鑊湯に冷處無し」の名答があります。沸騰最中の湯釜の中はドコモカシコモすべて熱湯で充滿し、冷處とては少しも殘つて居らぬ。是れが佛法だと申すのです。非常時局下の吾々各個人は、大使命達成のために卽今「通身打成一片」・「苦瓠は根に連な

つて苦く、甜瓜は蔕に徹して甜し」と申す如く、熱烈渾然たる一個の忠魂そのものに成り切つて居りませうか。冷處が潜在しますまいか。熱し易く冷め易い薬鑵心でありますまいか。頭だけが熱して下ッ腹の力が抜け、脚下がお留守になつて居りますまいか。「獅子吼の諸相」を充分に具備して居りませうか。更に鑊湯を國家として觀察しますとき、官民・前線銃後完全なる統一體としての精神總動員の内容に、冷處卽ち熱の到徹せぬ部分が殘されて居りますまいか。冷處が有つたら神州とも佛教國とも申されますまい。神州と申すは、國民悉くが、「自身是れ神なり」の自覺を有する國家と云ふ意義に外ならないのでありませう。「龍と作つては天に上り、蛇と作つては草に入る」と申す如く、朝に立ちて政治に與かるものゝ大責任感(辭職後も永久に免除と思はぬ)は勿論のこと、草莽に潜んで居る無名人士でも、苟くも皇民たる以上は各自の立場・持場に於て盡すべき責任感が大切であります。大樹ほど深き廣き根を要し、高樓ほど基礎が大切でありませう。「無爲にして治むるものは其れ舜か、夫れ何をか爲さんや、己を恭しくして正しく南面するのみ」と申すと、如何にもノンキそうに聞えますが、舜帝は恰かも裝備・指導・技術・整理・外交・等々・十二分に完備した大會社の社長さんが、末梢事には手を出さず、只管遠謀を運らしつゝ泰然として居らるゝのと同樣な有樣を讃美したので、舜は決して眼を蔽ひ耳を塞いでその日暮しをされた政事家ではなく、超越的な無爲卽ち「爲されざる無し」・「行はれざる無し」(老子・無爲而無不爲)の效果の自から現はるゝ自然無爲(佛の境界)にまで到達したのであつて、朝に奉公精神作興の奬勵が唱道されたかと思へば、夕にははや・その奬勵の根本思想に正反對な射倖心挑發の制度を設けたり、罰則制定滿能に沒頭したりする如き作爲小策が全然必要なきまでに、發達させられた爲政者たる舜を讃歎したので、全國各機關が統一提携しつゝ各能力を充分に發揮し、全國民亦之に順應して奉公滅私的な大活動をした結果に外ならないのであります。又その大活動は、「鞍上無ㇾ人鞍下無ㇾ馬」・「水鳥の往くも返へるも跡たえてされども道は忘れざりけり」の如く、本當の無爲境に到達したいものですが、吾々には境界を他に求める必要なく、一歩も出でずそのまゝ無爲境となり得べく、各自に如來藏を本來具有して居ります。

「寸善尺魔」、一寸ほど善に進まうとすると一尺も後退させようとの大魔が起との諺で、吾々が大使命達成の途上には、種々の邪魔が出て進路を妨げますが、華嚴疏鈔には左の十魔を數へてあります。

一、蘊魔。　五蘊(五官)(眼耳鼻舌身)・本能からの欲望で、人生に缺くべからざる大切なもの、之が高尙に發達するのは實に望ましいことですが、墮落性が頗る旺盛ですから、衞生上・品性上・嚴密な注意が肝要です。

二、煩惱魔。　斯くすれば斯くなるものと知りながら横道にさまよつて苦悶する狀態。

三、業魔。　業卽ち自己の所行が進路の障碍となること多し。

四、心魔。　我が身可愛さ卽ち自己中心の考は奉公滅私に禁物。

五、死魔。　「生きては國家の干城となり死しては護國の鬼となる」の精神を失つて、「人生僅か五十年」を自暴自棄の言ひ草にする魔（短い命だ瞬時も怠つてはならぬと魔を退治）。

六、天魔。　人力で避け難い天變・地異（油斷は申譯とならぬ）。

七、善根魔。　「善いことをした」との良心滿足感は極めて必要な高尙な情緒ですが、そこにお臀を据えると、世の評判・待遇等に不平心が起きて、向上の阻害となります（廻向により魔を未生に防ぐ）「居らず故に去らず」と申す如く楠・東郷・乃木・其他の大忠臣は何れも毫も其の功に居りませぬでしたが、却つて永久に其の功を認めらる卽ち「去らず」に居られます。顏淵は「願くば善に伐ること無く、勞を施す（他に分贈）ことなからん」と申して居ります。

八、三昧魔。　自分の修し得た佳境に滿足して向上心が鈍り、他人を輕侮して修行が大慈悲心と一致せぬ樣になる、自分天狗は魔宿ものです。

九、善知識魔。　人に老師とか先生とか尊敬さるゝ樣になると進歩がとまる。大國强邦と自他共に許す樣になると、知らず識らず破綻を招來する。「勝つて兜の緒を締めよ」の古訓が有る譯です。衷心敬服する嚴師・益友を持たぬことは人生の一大不幸です。

十、菩提法智魔。修行がよほど進んだが今一歩の所で佛の境界に達せずして終る。「九仞の功を一簣に缺く」。きはどい魔です。我々には、釋尊が天上天下唯我獨尊と修養上の一大標準を示されてゐます。一生涯ゴール無き競馬馬の如き無限責任の覺悟を定め、尙ほも死しては護國の鬼となる決心が肝要であります。天壤無窮の皇運を扶翼し奉るには、我等の意氣も亦永久不變なきべきは自明の理でありませう。我々は大陸に渡り身に支那服を纏ひ口に洋食を食つても、彼等の文化に中毒されず、淸き・明き・正しき・眞・の心を以て生業にいそしんで、彼等を日本人の水準にまで引上げ、悅服させて、之と共に東亞の新秩序建設・大東亞共榮圈確立を完遂せねばなりませぬ。

謂ゆる「持てる國」・「持たざる國」の流行語は、專ら物資とか領土とかの有形物に限られて居りますが、ヒトラー總統は、獨逸には（一）發明研究に要する不撓不屈にして優秀な頭腦と。（二）發明を實地應用にまでタヽキ上げる不拔の技術と。（三）ドウゾ資金を出させて下さいと全資の提供を申出る金持の奉公心との三拍子揃つて居るから持てる國」（ドイツは今や戰略と武威聯合國の運命とを持つ）・（作戰用兵の縱橫無碍に應じて兵器と勇氣との完全なる合體）だと、傲然として英佛を向ふに廻はしましたが、我國では如何でせうか。(1)、國民の科學的素質は決して歐米人に劣らないのに實際は外國科學の追究にこれ日も足らぬ狀態で、我國の過去並に現在の科學者は、やれアインシユタインの創說・やれ重水素・やれナイロン・やれ石炭液化・等々・外人のやつた跡ばかりに騷

いて居るが、現代の軍事的能力は、過去の謂ゆる軍事的性能よりも一層廣汎な全國民的の科學的性能の發達を必要條件としますから、若し今にしてシッカリ足を地につけて、自己の眞の力を正視して將來を考慮しないと、遂には戰慄の來ないと保證が出來ないのではないか。(2)、この問題で最も物をいふものはその國の工業發達の程度であつて、金にも物にも惠まれてゐない我が工業界が、專ら外國品の輸入や外國の特許でもつて、外國以上の優秀な工業を興さうとしても、たとへいくら研究者が有つても出來る相談ではない、殊にその研究が獨創的である場合、その困難は實に想像以上である。（外人科學者の研究は或る一人の學者の研究が獨創なるを知れば周圍の全學者擧つて其の研究を完成させるために協力する）(3) 日本の研究者は、大部は荒地や石の上に放り出されて水も肥料も與へられぬ種子芋の窮狀に在ると申しますが、ドイツの(三)に對する條件が缺けてる樣にあるのは、國家としては勿論・金持自身のためにも遺憾至極です。我國には外人の目に映らぬ特殊第四條件として、大慈悲心が根柢となつて居るから、(三)さへ出來れば時を移さず「持てる國」となり得るのでありませう。併し「持たざる國」とは金錢や物資が無いと云ふことでなくて、慈悲心・犧牲心・氣慨心・の存在を失つた國だと云ふことは、今次大戰に於ける獨伊・英佛の狀態を見て容易に了解できます。（本を務め物の外に立ち得て初めて物動く）何事にも世界第一を誇る橫暴無禮な某黃金國にも、時としては失業者數世界第一と云ふ幻滅と飢餓の生地獄とに化したことも記憶新たなる事實です。我々は眼を全歐米に注ぐと同時に極東からも放つてはなりませぬ。今やソ聯は四百萬の大軍を動員し、全國力を擧げて國防强化に邁進し、中立を標榜しつゝ、今次の大戰を交戰國の消耗と困憊から內亂へと彼等の企圖する邪惡、社會主義の「最後的勝利」にまで導き得る場合の遠大なる計畫と、近くはこの大戰の間隙に乘じて着々その周邊に勢力を擴張し、國防的戰略的地位の强化を圖らんとする現實政策といふ二段構へを立てながら、大戰の推移と我が日本とを凝視しつゝあるやうです。

地獄・極樂といへばいかにも迷信の樣に聞えますが決して左樣なものでなく個人としても國家としても大いに參考すべき轉流の境界を示したものです今華嚴經の「十法界」につき說明を試みませう。

如來。　眞如の最高道德まで究竟した人格。如實の道に乘じて來れる現在の佛。

菩薩。　上は佛智の到達に邁進し、下は人心の救濟に專念して不退轉なる未來の佛。

緣覺。　因果律を信じ最高道德を研究して覺りを得ることに努力するも、未だ利他心の發達なき生活。

聲聞。　始めて最高道德を聞いて人生の不安の原因の端緒を知り、安心に進まんとする人。未だ救濟の念なし。

天上。　祖先・父母又は自己の善因により名聲・地位・財産等を有する惠まれた境遇の人である
が、極めて不安危險な人（惡因なればイッカ惡果を來す）・（英の現在・米の將來）・（要害を內から破る栗
のいが）。

人間。　一般民衆の境遇で向上も墮落もする。「我が世誰ぞ常ならむ」との極めて自在する人、極
めて貴き生き甲斐ある生活。

修羅。　利己主義により競爭し、不和不安の階級。

畜生。　貪・瞋・癡・に昧まされて道理を解し得ぬ階級。

餓鬼。　財を羨み、享樂欲求に專心な階級。

地獄。　墮落の極度で、有ゆる憤怒・怨恨・煩悶・病軀・貧賤の苦境。

「我が世誰か常ならむ」と申す如く、人間は實に上は如來より下は地獄にまで往來自由なもので
ありながら、千人中の九百九十九人までは天上の夢路・醉心地に憧憬を持つことは、古今東西を
論ぜぬ樣ですが、少しく檢討を加へますと、直ぐに天上必ずしも望ましくないことが分ります。
その故は、天上界の人は、自然的に其の運命を縮めつゝあるからです。即ち外部からは社會主
義・民主主義・反貴族主義・反資本主義・等の民衆思想反動思想に脅かされ。時としては政界或
は產業界の變動のためにガタオチする危險があり、內部からは怠惰・奢侈・傲慢・不遜・享樂・
不品行・不心得・等人間の品性に對する認識力を失ひ、外見は人に羨まれる身分で有りながら、
精神は修羅道以下に墮在する者が多く、自殺者も此の階級に最多數であります。個人主義に教養
され、利己主義的國家に住む人達には、修羅道を本當の人間界と誤認して、その睦匪海賊的行爲
に正義てふ僞名を附し、文明の假面を被ぶり、古往・今來、蠢動否な暴動しつゝありますが、彼
等の國家は興亡・常なくして「國亡びて山河在り」の嘆を反覆し、人民亦修羅道に彷徨する年所
の多きに拘はらず、醉夢今猶ほ醒覺せず、興亡の原因を專ら武備に歸し、殺人刀を振りまわす事
のみに熱中するは、憐愍又寒心に堪えざる所であります。我が紀元二千六百年を算するに反して、
彼等の間には建國最久を誇る英國さへ、僅かに二百二十七年で、我國の十分の一にだに及ばず。
「德ヲ樹ツルコト」の深厚（大慈悲心）と、淺薄（功利心）と、の永遠性に於ける比較效果・實に
證し得て明瞭であります。我々はイッデモ・ドコデモ・正見（正しき人生觀）。正語（穩健・中正・う
るはしい）。正定（三昧・止觀・坐禪）。正業（大死一番・大活現前）。正念（物の實相を觀じ慈悲の念を持續
す）。正思（怨親不二の思念）。正命（正しき經濟生活）。正精進（自他の向上・文化の進展・佛の作行）。の
八正道を象徵する「弓矢「八幡」の旗幟」を押立て、不脅威・不侵略の裝備を充實して居らねばな
りませぬ。次に家庭について觀察を試みませう。

門の起源は威嚇と防禦とにありましたから、亂世には極めてその必要が有つたてせうが、今日

の聖代に在つては、家の興亡は、「要害を内から破る栗のイガ」と申す如く、外患でなくて寧ろ家庭の内憂に在るのですから、輕く蕭洒な門が宜しうございませう。

初訪問の客に門よりも更に深い印象を與へるものは玄關だと申します。其の第一印象は、客間に通つてても尙ほ客の心に殘つて、色々の作用を起さすものだと申しますから、成るべく好感を印象する樣ありたいものです。或る前科者の慚愧談と申すところに據りますと、（一）下足の亂雜は戸締りの遺漏を示し。（二）夜ふかしの雜談は侵入時に於ける熟睡を豫期され。（三）屋内の終夜燈は内部の偵察に便なので、此の何れかに出逢ふと甚だしく盜心をそゝり、盜人のために安全第一のお得意筋であり、列車や寄席芝居等で口を開けて居る人の鞄や財布は、掏摸（スリ）の金庫だといふ事であります。

斯るお話でいつも思ひ浮びますのは、南隱先師の許に居りました時の失敗であります。入門の當初のことでありますが、夜分歸宅の途中で下駄の緒を切らし、明日手入をと思つて出入口の隅に放置して寢ますと、翌朝にいたり誰か知らぬ立派に緒をたてゝ呉れてある。これに刺戟され幾朝か特に早起をしましたが、ついぞ緒の故障の有る下駄を見附け得ませぬでした。又汚れ足袋を洗ば、日曜日に洗濯をと思つて押入れに置きましたら、いつの間にかキレイに洗はれてしまい、時には油斷して自室の掃除までもされ、今猶ほ慚愧に存じて居ります。

或るお方の玄關は敷居を廢して出入りに便にし、内部に水管を導いて幾度となく洒掃され、且つ夏季には傾斜緩き敷石の纖目が常に清水に濕ふ樣にし、更に目立たぬ樣コック附き手洗器を壁に取附けて客用に供へ、見るからに清涼の感に打たれました。實に家は生命財産の保護所・團欒慰安の樂園・仰事俯育の修養場・活動發展の策源所でありますから、成るたけ華を去り實に就き、本來の目的を達するやう生かして建て、勿論、震災・火難に無事なるべく最善の注意を拂はねばなりませぬ。

日本の應接間は、一般に如何にも窮屈の感じのするのが多い、何か微笑を促がす樣な上品な滑稽じみた掛け物・置き物・書冊類・並に輕快な感じのする盆栽等が今少し有つて欲しい、隅棚の設けも欲しいと申します。又應接間は立式が結構てせう但し立式の室はテーブルのため兎角實際よりも狹く見えますから、テーブルは上段の徑一尺内外位の重ネ山形式にして、上面には菓子器・煙草入・中棚には茶碗等、下棚には灰落シ等を置けば便利です。尙ほ支柱に團扇の掛金を附けることも出來ませう。廣い室ならばテーブルを幾つも用ひられませう。

壁紙・襖は室の背景となり、家具とも調和し、且つ成るべく室内の緩やかに見える樣注意が肝要でありませう。又模樣の大さは、室の廣さとの釣合が大切で、某劇場の幕の梅花が、徑一尺の時最もよく實物の樣に見えた例があります。動物は兎に角として植物は、實物より小さい模樣で

はその感じが出ませぬ。壁紙の横仕切りは室を低く感じさせますが、縦縞の紙で高く見せることができます。併し濃色の線が多いと室を狭く見せます。北向きの室は、黄色・淡黄色・セピヤ・其他の溫色系統のものを用ひ、南向きの室は藍色・灰色等の冷色系統のものを用ひ、東又は西向のは中間色を用ひ、暗きには明色・明るく過ぐるのは光を吸收する色の紙を用ひます。紙の貼方は光の入る方から貼り始めて順に進めると影ができず、從つて繼目が目立ちませぬ。下方から貼り始めると繼目に埃が溜らなくて結構です。洋間ならば、天井が一番白くて光線の反射强く、下に降るほど反射弱くすることが理想でありませう。

客間は從來最も心を込めて作つたもので、正式には床の間・床脇棚・附書院窓等を附け、更に次の間までも附設しますが、普通の家では大抵の親戚知人等は應接間か居間か書齋・茶の間等で濟み、客間を必要とするお客は極めて稀であります。

居間は南向きで日光の能く入いる暖い室が必要ですが、客間には冬季は必ず火鉢其の他の煖房器を入れますから北向でも差支なく、尙ほ北向ならば、庭の樹も木表が見え、敷物其他の變色も少ない等の利益があります。

床の間の裝飾について一言申しますと、大抵は掛物を中心として置物・花瓶・香爐・等は夫れと統一を保ち、且つ互に調和し、而かも重複の無い樣にすべきものと考へます。調和とは、形狀・色合・等に於て互に多少の共通點を有することゝ解する方が早解りであります。掛物も花瓶の模樣も卓の彫刻も共に山水花鳥若くは文字と云ふ樣なのは、重複でありますが、此等が異種相待つて裝飾美を完成するのは統一であります。生花用草花模樣に金銀の象嵌をすると花が見劣ります、これには松の小枝でも挿すと結構でせう。花瓶に草樣をつけますと生花と重複します。瓶の色は花に影響しますが、どんな花にも差支の無いのは、土に似通つた青黑の無地物であります。象嵌模樣等は、觀賞用として瓶自身を主役とすべきものでありませう。

餘談でありますが、上品或は下品といふは隨分困難な言葉で、「ドコガ」・「ナゼ」・「ドウスレバ直るか」・等の反問をしますと、なか〳〵明瞭な答が得難いものですが、美術に素人な私の考としては、色ならばケバ〳〵せず、錦の上に薄絹を被ふた樣な含蓄あるもの。形ならば餘り角立たずに、人物にたとへて溫厚玉の如しと評すべき樣子の有るもの、數の上では少しも餘計な部分無く、寧ろ極少しく物足らぬ位で、謂ゆる言外に意ありの趣き有るものを上品といふ樣に存じます。櫻花讃美の語に、「一目千本」とか「咲きも殘らず散りも始めず」とか申しますが、こは餘り上品とは思はれませぬ。寧ろ二三分の蕾を殘した餘裕有る所、靑松など混ざつた所に眞の美の存することゝ存じます。掃淨めた靑苔の庭に、多少の色落葉の撒布された風情も同樣でありませう。

商賣繁昌を望まない店の有る筈はありませぬが、小賣店は、お客が（一）入り易く。（二）快く。（三）買ひ易く。（四）又來たいと思ふ樣にすべきもの。（五）商賣は正直・親切を第一の主義とすべきものと申します。今それを具體的に申しますと。（一）いかに田舍でも入口に跨ぎ溝や敷居が有り、殊に上り段が有ると自然と客がおつくうがります。又入口が正面にあつて街頭から店内が見すかされると、商品の種類によつては入りにくいことが有るさうですが、呉服ならば納簾を吊り「ウインドウ」の隅を圓くして、お客がそれ等に見とれながら知らず〳〵店内に入る樣にし、尙ほ入口と出口とを別にして混雜を防ぐと同時に、「ヒヤカシ」客も入り易い樣にする。ヒヤカシ客は將來の顧客で、料金なしの廣告ですから、なか〳〵大切なお客とも考へらませう。「ドラック」が辻路の角の家（表通りで見て横小路から出入する）を選び、一六銀行が通りぬけの近道を用意するのも、入易くするためでせう。店内で一番快く感ずる電燈は、溫和な晝の樣な明るさでありませう。電燈の光が少しも眼の邪魔にならず、寧ろ電球も見えぬ樣にし、反射光で商品ばかりを晝の樣に「デーライトランプ」で照しますと、商品の色合も正直に見え、何となく客の購買心をそゝりませう。勿論・店内は清潔・整頓に注意し、見るからに心地のよい樣にありたく、（但しお客がワラジばきのまゝ入いる田舍の店では手加減して遠慮なくお客の入る樣に工夫します）。又夏はいかにも清涼に感ずる樣に、地床に適當量の水を打ち、冬は愉快な暖さも必要でありませう。店の見張りはなるべく目立たぬ樣にいたしたいもので、監視風の見ゆるのは、客に取つて實に不愉快であります。（三）店内は總べてを土間式として、お客も店員も腰掛式で、店内どこまでも心安く入いれる樣にし、勘定や釣錢渡しを迅速にし、商品は携帶に便利な樣體裁よく處理したいものです。（四）なか〳〵繁昌して居る知人の店に、（イ）店の繁昌よりもお客の便利を圖れ、（ロ）店の利益よりも信用を大切にせよ、（ハ）賣り手の心にならず買手の心になれ、（ニ）商品は賣らずとも親切を賣れ。の四ヶ條を店則として店員に訓へて居ります。

外國巡視歸りの友人から聞いた、ロンドン商人の話を二三御紹介申上げませう（大正の初頃のこと）（政事家の遣り口とは非常に違ひますが）。

(1) ロンドンへ到着の節、驛で汽車の時間表を買はうとすると、賣子「アナタは今日お立ちですか」。友「イーエ今着いたばかりで、ホテルへ行く所です」。賣子「ソレナラ差上げませぬ。どのホテルでも時間表は室に有りますから、アナタのお買求めは全くムダなことです」。友「それでも參考に欲しいから」。賣「此の時間表は今日は確かですが、明日も此の通りか否かは驛長ならぬ私には分りませぬ。若しアナタがお買ひになりそれが先入主となつて、明日でもフト發着時間のお考違でも出來ると、アナタに對して相濟まず。私も商賣の道に背きますから、尙更ら差上げられませぬ」と言ひ切つて立去つたとのこと。

(2)或る服裝店で夏服の素地を選んだのに、番頭「アナタはコチラに御在住ですか」。友「イーエ旅行先なので一二ヶ月の後には日本へ歸る豫定です」。番「それなら御註文に應じられませぬ。御國には此の品よりも良くて安い夏服適當の絹織が有りますから、御指定のこれで仕立てますと、御歸朝後必ず後悔なさいます」。友は別に他のキレを選びましたら、番「それならよろしい仕立てませう。それは當地製ですから、御國では當地からの運賃・關稅・手數料が加はり高價となりますから、當方で仕立てましたら、御歸朝後必ずアナタはよいことをしたとお感じになりませう。此の店ではお客樣の後日のお喜びを樂んで商賣をして居ります。併し「期限は・御宿は」と訂し、友は代價を支拂つて歸らうとしました。番「モシ〳〵御散歩の御序にでもお立寄り下さいませぬか」。友「よろしい期限の時日にまいりませう」。番「申上げた價格は配達賃をも合せての見積でしたから、それなら配達賃を差引きます」云々。後日定刻に店で受取つたとのこと。

(3)或る取引先きの店で番頭との談議中に、百萬圓程の仕入れ商談が將さに成立しやうとした時主人が見えて、久濶の挨拶の後、主「お話は決定しましたか」。番「イーエ 雙方の意見が一致して今將さに決しやうとしてゐる所です」。主人は友に向ひ、「ソレデ安心しました。諸外國からの電報が今やうやく揃つたところです。調べの結果、其の品は今や下落の傾向が見えて來ました。從來の例によりますと、モ一二三週間もすればロンドンでは必ず下値になります。從つて御國でも此の大勢に漏れますまい。商談決定前でアナタに御損をかけなくて結構でした」とて喜色滿面。友「それではお店の御損になつて濟みませぬ」。主「私の商品で私が損をしてもそれは當然で、何の遺憾も有りませぬ。尙ほ此の品は市內の小賣へ廻せば今日の相場で直ぐ賣れて誰の損にもなりませぬ。マーヨカツタ。お得意のアナタに御損をかけなかつたのが何よりです。目出たい〳〵」。主「時に、アナタから砂糖を戴きたいですが」とのことで、百萬圓程の商談とゝのい、他の用事をも了へて歸朝しました。早速友は店員を集めて、彼の店での樣子を話し、且つ感激の餘り、嚴命して運搬中ヘリカンの無い樣、目方の幾%かづゝ餘分に詰めさせました。尋いで先方よりの書面に、砂糖慥かに受取りました。いつもながら如何にも良品で喜んで居ります。併し目方が幾%餘分に入つて居ましたから、相當代金をば御請求額以外に添えて御送りいたした、御査取下さい云々」。

斯る店が人に信賴され繁榮するのは自明の道理であります。我が日本の商人衆も、是非とも滿・支・の隣友を初め、諸外國民に對し右に劣らぬ友好信義を表はして、今時事變をして有終の美を濟さしめ、以て上は聖謨に沿ひ奉り、下は英靈を慰めまゐらす樣、切に〳〵御互に誓ひ合はねばなりませぬ。よく商衆は儲けるのが第一義諦だ。掛引が必要だ。機先を制せねばならぬと申されますが、こゝにも相對的有爲の慣習的な醉夢をさまして、絕對的無爲の信義至上・親切第一とな

りましたなら、敵を敗るのでなく敵は決して出來ずに八紘一宇の經濟界となりませう。

商工省貿易當局のお話によりますと、「今後の貿易政策は、東亞經濟圏に不足な必需資源の獲得を目標として、　第一には、相手國又は地域に應じて輸出と輸入とを聯繫せしめ、計畫的に進めてゆく、即ち輸出超過額が外貨として利用出來ぬやうな諸國との貿易は、一方に於て外交的手段等により必要なる物資の輸入を確保すると共に、之に對する輸出は自ら必要ある物資の輸入を賄ふの範圍に止め、又輸出超過額が外貨として自由に活用出來るやうな國に對しては、一見不利なる輸入をしても、ヨリ大なる輸出がなし得るならば、敢て之が輸入を行ふ必要が有らう。　第二には、輸出品の價格の安定を圖つて、日本品を買ひ易いやうに仕向けて行くことである。我が國輸出貿易の最大の缺陷は、邦商同士の惡競爭が激烈なためにお互に本邦商品を賣崩してゆくことで、そのため外國の輸入商なり邦商なりに不安がらせがちとなり、日本國家として當然得らるべき外貨は得られず、製造家としては採算苦のために自ら品質が粗惡となり、その結果は日本商品の聲價を傷つけることゝなるが、輸出の確保を最大緊要とする非常時の今日尙ほ、改善されて居らぬ。　第三には、日本商品（實用品を中心）の高級化を圖つて、優良なる物品の輸出を增進することである。價格低廉を主としたのでは、今後は歐米品の代位とはならぬ。　第四には、輸入品の種類に檢討をかへて、今後輸出增進の可能性大なるものゝ輸出に力を致すことである」とありますが、國民一般の留意すべき事項と存じます。但し之が實行には、一日も早く肩書主義を排して無名有能者、即ち本當の苦勞人を簡拔して、その忠誠心に信賴することが第一義諦でありませう。（獨・伊・ソの全體主義經濟を指導する人々の任期は、長きは一生、短かくも二三十年、責任明確・有機的）古來國を興した英雄は、武力の外に財政經濟に對し、卓絕せる才能と獨特の苦心をしてゐないものはないでせう。

古來支那からは東方の君子國と稱せられ、國民自身は大和魂の唯一の所有者として自任し、國際的誓言契約を曾て寸毫も曲げたことの無い日本國の吾々は、一私人としての商賣に於てもロンドン商人に劣つてはなりませぬ。而かもその實行には何等の智慧も才覺も要らぬ。否なそれ等の小我・小智を根本から捨てさへすれば、誰にでも出來る筈です。又それが隣人交友、商道開拓の唯一の方法であります。古人も「衣食の中に道心無し、道心の中自ら衣食有り」と申しました。實に金言と存じます。職業の如何を問はず、決してパンを唯一の目的に働く樣な、食のためにチン〳〵マイ〳〵する小犬に似た樣な卑い人が、神の後裔・佛敎國民・中に一人でも出來てはなりませぬ。敎養しては猶更らなりませぬ。

家はその性質上家族全體の樂園であり、修養場であるべく、從つて居間本位とすべきもので、決して主人の專用物でもなく、虛榮滿足の對象物であつてもならぬことは、誰にも異論の無い筈

てすが、實際に於ては家族第一主義の家は案外少ない樣てあります。又家族第一主義から申しますと、姑と嫁との關係がたとへ極めて圓滿でも、事情が許すならば、同屋敷内に別居する事が理想かと考へます。さうすれば機嫌の好い時ばかり遇ふことができて、而かも何かにつけ力となりますから、本當の家族制度の趣旨が徹底して結構てあります。衛生上・居間はせい〴〵南向きとし、部屋の奥まて紫外線を含んだ强い日光の通る樣にありたいものです。諺にも「日光が入いらねば醫者が入いる」と申す如く、嘗て瑞西て調査した結果によりますと、陰鬱な家の死亡率は三倍以上にのぼり、病者は死者の四十倍以上てあつたと申します。陽表の緣先きへは落葉樹の外植えては冬いけませぬ。我々の呼氣には炭酸瓦斯以外に劇毒な「ブトマイントキシン」を含んてゐますから、差收ない限り室を開放して換氣を良くせねばなりませぬ。

居間を主人室・老人室・主婦室・小兒室・女中部屋・其の他種々に戸障子て區劃するのは從來の習慣てすが、書齋・老人室などは別として、他は一個の大廣間にまとめて主婦室とし、必要の都度、衝立・幕等て任意の仕切をなすことは極めて便利て、而かも家庭内の親しみもそこて涌くのだと考へます。生活の程度によつては、應接間も客間も茶の間も食堂も此の主婦室の臨機の模樣換えて辨じます。從つて此の室に主力を注いて、作務並に衞生の外更に、美育にも德育にも其他の修養にも役立つ樣に最善の注意を拂ひ、特に子供の生活を無視しない樣にありたいと存じます。幼兒の居るべき部屋ては、花瓶・植木鉢・火鉢・等は手の屆かぬ高さに安定し、家具は角を丸くしたいものです。又少し長じたものには、ブラッシ・其他の掃除具を與へて、知らず〳〵の間に清潔・整頓の訓練を與へねばなりませぬ。幼兒の玩具は毀さぬ先きに取かへ修繕し、新舊循環的に與へ、厭きて粗末にする癖のつかぬ樣工夫することが頗る肝要です。又兒童自ら玩具其他を始末し得る箱などを與へ、整頓の習慣と趣味とを養成するには絶好の時機てあります。此の機會を失つてはなりませぬ。今日の御婦人方は、別に職業の無いお方ても交際上外出の多いのは已むを得ないことてはありますが、婦人活動の本舞臺は必然的に家庭ですから、「家を出てずして教を國になすの如く、公衆の矯風・濟世等お志しのお方も、先以て自身率先して家庭を模範的に作り、家庭の内には常に春風が吹いて、家族の心身をなごやはにし、一同感謝の念に滿ち、心からなる「有りがとう」の言葉が、最も度數多く聞える音聲である樣ありたいと存じます。

世間ては、何か家庭に不和が有ると新舊思想の衝突とか申して、その判定は大抵老人に不利な世評が多いやうてすが、果して之が正當てありませうか。子を持つて知る親の恩と申しますが、自分が老人とならねば老人の境界は分りませぬから、お若い方は能くそのお考を願ひたいものと存じます。「何時まてもあると思ふな親と金」。社會の事については世の變遷に隨伴する必要もありませうが、家庭内ては老人を尊敬の中心とすることが、一家のためにも至當と信じます。「家

は親に聽き國は君に聽く」と申す如く、中心・當を得る家は實に萬代不易であります。併し老人を大切にすると云ふのは、唯だ樂におくといふだけではいけませぬ。老人は身心共に衰へ性急にも健忘性にもなつて、身體は不自由でも心は益々動き通して、口はやかましくなり、決して靜穩な人のみとは限りませぬから、深き同情を以て慰め、老人相應の仕事を賴んで、感謝の意を表しつゝ接觸を密にしなければなりませぬ。古訓には人の生命の要因として、衣・食・志・業・の四つを擧げて居ますが、衣食の十分なお方でも、樂隱居となつて何等の希望も無く仕事も無い樣になると、人目には如何にも結構なやうで、其の實は生命の二大要因たる志・業・が缺けますから左樣なお方は隱居後久しからずして死亡されます。老人によつては謠曲・生花・茶の湯・花卉栽培・墓參・神社佛閣の參詣・等その好き〳〵の道を勸むべく、殊に老人は大抵孫を愛することは子よりも甚しいですから、其の呼吸を呑込む必要がありませう。川柳にも、「初孫の力姑の角を折り」とあります。多くの老人は靜かを好きで而かも淋しがりですから、若いお方には一寸無理な注文の樣ですが、孝養の心さへ有れば老人ほど事へ易いものは有りませぬ。(柔かな嫁姑姑のお齒に合ひ)。老人の室としては日常り風通しの良い離れ座敷が結構ですが、餘りに家族の居間を距だて過ぎることは人によつては好まぬから、何事も老人の氣に從ふのが第一でありませう。室内に神棚・佛檀を設け最も神聖な仕事として其の奉仕方を賴めば、一家の重心ともなり、圓滿の守護ともなりませう。併し老人には「死」の話は極めて禁物です。

佛樣の奉仕につき、嘗て或る人が南隱先師に、「佛前で御經をどう念つて諷誦するのが宜しうございますか」と尋ねましたら、師は言下に、「何も思はぬがよろしい」と答へられました實に金言と存じます。何事に當つても機法一體でなくてはいけませぬ。純一無雜でなくてはいけませぬ。修養でも仕事でも萬事萬端、苟くも名譽だの・利益だの・成功だの・功德だの・と餘念の有る樣ではダメで、鞍上に人無く鞍下に馬無しの境地に立ちたいものであります。今日第一線に在つて、かりそめの墓標を樹てゝ野花を手向け一心に戰友の靈を弔ふ將兵の涙、そこに天地を動かす永遠の情緒が存し、八紘一宇の礎石ともなりませう。

餘談ながら大豪農本間家の家憲を御紹介申しませう。

(一)忠君愛國は國民の本分なれば一旦緩急ある時は、奉公の大義を守り一身一家を國家に獻ぐべし。　(二)敬神・奉佛は誠心・誠意の根本なれば、一日なりとも信仰の念を忽かにすべからず。(三)公共の事業に心を留め、國利民福を圖るためには私財を呑むこと勿れ。　(四)鰥・寡・孤・獨・を憫み、窮乏を恤み、每に陰德を施すことを忘るべからず。　(五)勤儉は祖先傳來の金言寶訓なり、宜しく嚴守して其の功德を發揮すべし。　(六)子弟の教育を怠らずして忠孝を以て本とし、決して怠慢・懈怠あるべからず。　(七)緣組は富豪をのみ選ぶべからず。清系なる家庭の子

女は結婚の第一要義なり。（八）世態人情を知るは身を修め家を治むる要道なり、家々の嗣子たる者は必ず全國を漫遊視察すべし。（九）我國の美風は祖先を崇ふにあり、一家に於ても亦然り、一家の大事は必ず祖先に奉告して後斷行せよ。（十）長幼の序を正すは家庭を清肅にする所以なれば、殊に嚴守して紊るゝこと勿れ。（十一）勸善懲惡の法を明かにし、農事を奬勵し、小作人を優遇すべし。（十二）自ら勤勞して得たるものに非ざれば眞の財産に非ず。投機事業・會社事業には干與すべからず。又財政については、第一、上の保護なくんば家榮ゆることなし、財産の四分の一を獻納の資となすべし。第二、神佛の加護・祖先の遺德・に因りて家隆んなり。財産の四分の一を寄附・祭祀の資とすべし。第三、田戸あつて地主賑ひ、各戸豐にして自他安寧なり、財産の四分の一を其の救助に充つべし。第四、殘餘の四分の一を以て其の家計費に充て、勤儉自ら奉じ、勉めて剩餘を生ぜしめ之を蓄積すべし」と。

本間家の繁榮、誠に偶然では有りませぬ。投機事業・會社事業の干與を誡むるは實に尤もの事で、「濡手で粟」の射倖・投機心は道德上戒むべきは勿論、利得の上から申しても、ヒラデルヒヤ商業會議所の世界的調査に依りますと、投機で富豪となり遂げた人は僅かに百分の五に過ぎず、それも結局は貧窮に終り、プロバビリチー（僥倖率）の極めて小なるものであります、會社事業も「棚から牡丹餅」の樣に人に說き附けられ、利益勘定だけを聞いて、何等事業上の智識も了解も無いのに手を出すことは、本人のためには勿論、事業のためにも好ましくありませぬ。無理解な金持の發起に係る事業會社は大に怪しいものと、よく〳〵吟味せねばなりませぬ。若し或る事業を愛する心あらば、其の事業に十分の造詣有り經驗有る人を見出して、之に活動し發展し得るだけの資金を追ひ〳〵に供すること、恰かも後日雄飛せしめんとする大鳥の雛を飼育する心持で援護することが、安全且つ成功の速かな方法と存じます。ドイツの銀行家は發明家に對して上述の方法を採り、多くの發明事業を完成させて居ります。序ながら申上げまずが、先年亡くなられました英皇室の御姻戚の某伯爵は遺産が四百萬圓で、相續稅が概算壹百萬圓だと申します。又彼の國では「良心稅」と申して、自家所得の申告書に遺漏の有つたことを後日發見した場合には、其の額に相當したゞけの稅金を匿名で大藏大臣宛に納附する慣習ださうです。大和魂を誇る日本人には是非之に劣らぬ覺悟が有るべき筈と存じます。

第五章　（京）・（前三三後三三）

「いろは歌」の終りに加へた「京」の解釋については、首肯のできる文獻は私には見當りませぬが、「いろは」が四句の偈をうたひ、四句の偈に佛敎が綜合され、佛敎が我が國敎である以上、「京」

をば國體を明徴し・國民をして嚮ふ所を知らしむる・極めて緊要缺くべからざる文字として解釋を試むることは、有意義なる事と存じ、僭越ながら愚見のまゝ左に述べます。

古來王道を行ひ給ふ天皇御常住の土地を「京」と申し、覇道を行ふ將軍の居所を幕府又は覇府と申して、覇者は如何に政治・軍事の諸權を總攬する場合があつても「府を開く」と申した如く、如何に僭上な北條氏の如き時代になつても鎌倉を「京」とは改稱せず。豊臣の大阪・德川の江戸もその通りであり。如何に城廓が雄大莊嚴であり市街が繁榮殷賑であつても、國民をして「あきつかみわが大君のおはしますみさとの土はふむもかしこし」(佐久良東雄)と長愛憧憬せしめたのは「京」に限ります。

覇者は帝王の德(絶對的無爲)を以て立たず、寧ろ力(相對的有爲)を主とするのであるから、その施政の如何に抱はらず、いつしか敵が出來て恒久性が有り得ませぬ。德川家康公が「爲レ政以レ德譬如北辰居二其所一而衆星共レ之に對し、「德」とは何ぞとの問を發したるも明答を得なかつたと傳へられますが、かつて林羅山が日本紀進講中、「食者天下之本也、黄金萬貫不レ可レ療レ飢、白玉千箱何能救レ凍」(米と木炭)の章に到るや、公は乍ち講義を中止せしめ、本多正信を召し、米穀を蓄へ・諸國へも其の旨達すべきを命ぜられたと申す程の「刻實行主義の偉人なる公にして、「德」を未了解のまゝ放置さるゝ筈は有りますまいが、蓋し「德」を本當に解釋表現したら、我國では幕府の存在が許されぬ筈ですから、流石の公も居並ぶ碩儒達も解せぬ樣な顏をして、「見ざる・聞かざる・言はざる」の三猿主義をまねたのでありますまいか。又東西・古今に獨歩の觀ある豊臣秀吉公は、聚樂第造營の節、「奢るもの久しからず」との加藤清正の諫言に對し、「奢らずとても久しからず」と苦笑されたとのことですが、確かな筋からの口傳によりますと、公は人臣に曾て先例なき「殿下」の稱號を賜はつた程御覺え目出たく、雲上の御事蹟拜承の便宜を得たので、「なぜ我が皇室に限り、萬世一系の天祐を保有せさせ給ふか」とのかねての疑問を釋き、子孫擁護の手段を見出さんとされたが、折りよくも歴朝に於かせられては佛教を皇室教と御定めさせられ、御内侍所・二間(フタマ)には觀音をおまつりになり、御讓位の際の御秘勅中には、必らず「具二一切功德一、慈眼視二衆生一」の二句を含ませらるゝ御事を拜知して、「是れ有るかな」と驚歎、且つ疑團氷解されたとの事です併し公はそのため彌ましに皇室尊崇の念を増すと同時に、武力至上主義たる覇者の非道を覺られ、從來の幕府政治によらず朝臣(關白)として政治を行ひ、外政・媾和等の大事は一々天皇に奏上して後に行ひ。聚樂第に行幸を仰いだ際には諸大名をして子々孫々まで皇室に對する忠誠を誓はしめ(武家には空前絶後)。珍しいものがあれば第一番に天覽に奉供しました。又斯る廣大無邊なる御丕德・御稜威を仰ぎ得る以上は、世界經略(教化・德化をも含めて)は難事にあらずと確信し、さてこそ手始めとして征明軍を起こし、(朝鮮の二王子の禮狀には、秀吉及清正の恩に背か

ば天罰を受くべしと感謝)尙はホルトガル印度總督への返書には、明國征略の途次印度(今の蘭印方面)へ立寄るなど雄圖を示されたと傳へられて居ります。又公は居常、東亞の略圖を畫いた扇を使用し。澳門のホルトガル人に命じて西洋式の支那大地圖を獻納せしめる等、絕えず海外の大勢に注意されました。

さてその「一切功德」とは何を指すのでせうか、觀音經全體がその具體的解釋となつてゐますから、他日御覽を願ふことゝして、假りに通俗的に一言申せば、惟神(カンナガラ)の德であり、分けて申せば仁・信・明・武・等々・一切の至德を數へられませう。併し此等諸德も大君の御立場より申せば大慈悲が究竟となりませう。而かも歷朝の御詔勅を拜しますと、この大慈悲心に立脚し給ひ、國民の嚴父として慈母として連綿常住し給ふ御事蹟は、餘りにも明瞭であり、此の御聖德を廣く一切に光被せしめ給ふ御聖謨は、實に炳として八紘を照らし、赫として千紀に光あるべき所以のものと、拜察さるゝ次第であります。

然るに海外に在りてはその邦家の誇りとする元首が、その尊稱の如何に拘らず等しく覇者の本領を脫し得ず、從つてその邦家は、謂ゆる「國亡びて山河在り」の悲みを反覆し、その建國年數の如きも、我が皇紀二六〇〇年を算するに對し、イギリス…二二七年。アメリカ合衆國…一五四年。イタリー…八〇年。フランス…七一年。中華民國…二九年。ソヴイエト聯邦…二四年。ドイツ…二三年。滿洲帝國…七年。の比であります。「開創之世」に遡れば大約五千年に垂んとする支那に在りてさへ、三百年を算するものは周朝以外には一代も有りませぬ。而もその易姓革命には、先朝の廟を發ばき、遺骨を粉にして棄て、且つその九族を夷ぐる等、遺孽の復讐根絕に周到であつたのです。又世界無比の雄大莊嚴を誇る北京の王宮も、今はたゞ一遺跡として存するのみで、正しく百世の帝たるべき眞の王者無かりしを證して居ります。

又現下世界の動きとその旗印とを檢討しますと、(一)英・米・佛は「個人」を基本とする自由主義を標榜し(實際は財閥が勞働階級の汗を食ふ)。(二)ソ聯は「階級」を根柢とせる共產主義を宣傳し(實際は人間を動物と同一に扱ふ)。其の他の國も兩者何れかにからみついて、今や全世界が强きは始終、修羅・畜生・餓鬼の三界に出入し、弱きは常に地獄に墮在して居ます。又新中央政權の嚴乎確立せる今日、猶ほ排日的揑造虛僞の材料を本國に送附して援蔣を煽動しつゝある、某々國在支宣敎師の頗る多數なることは隱れなき事實であり。彼等の福音は漁夫の餌料撒布そのまゝで、之によつて大小の魚群(愚民の心)を集め、一網打盡の巨利を博せんとする準備行動なることは、殷鑑遠からず、我が日本帝國の比隣の殆んど總べてが彼等敎徒の侵略領土、卽ち謂ゆる福音信者(羅馬法皇は、臣民は非キリスト敎徒たる帝王に服從する義務なしと云へり)(帝冠は敎徒より授かる)の捧げた土地で、アジアは日本を除き全面的に彼徒の侵略下にあります。決して「對岸の火災」視して

はなりませぬ。祝融は最早現に隣家を見舞つて居ります。今や、彼等は日本を正面の敵として日夜侵入に專心です。

前の大戰では、インド兵を驅り立てゝ第一線の彈の楯とし、支那の苦力を百萬も傭入れて塹壕を掘らせ、序に彈丸の的とし、自分達はそのかげに隱れてバチ〳〵やり。今次大戰では友軍を捨て本國に逃歸つてその迅速を誇る英國在り。支那事變には雜軍を潰すつもりで第一線に立たせた蔣介石がある等、我等日本人の到底考ひ及ばぬ彼等ヤソ教徒の殘忍さであります。幸にして我國には、「暑くとも笠を冠らず・寒くとも衣を重ねず・土坐せず・士食せざれば食はず・生死必ず同じくす」の將帥の規範が傳統され、實に有難き極みであります。

「個人」・「階級」・孰れも彼等國民にとつては存在の理由も唱道の必要もありませうから、吾々は「人の疝氣を我が頭痛に病む」の愚を學ぶではないが、兩者ともに相對的の信條であつて、信條そのものが既に腦裏に敵(對立)を印して居るのですから、他からは奪ひ得るたけトコトンまで掠奪して了つて、然る後にその獲物保存のための現狀維持をば、枉げて平和と呼び、秩序と呼んで居るので、其の間眞の道義など少しもなく、「力卽ち是正義」が通念となつて居ります。從つて被害國が報復を圖るのは理の當然であります。斯くして相剋を續けますから、彼等の流轉・興亡は永久に止む時なかるべく、而かもこの修羅相は早晩といはず、卽今我國に影響しつゝありますから、決して馬耳東風であつてはなりますまい。是非とも大慈悲を基調とし給ふ八紘一宇の聖謨を翼贊し奉つて、彼等の迷夢泥醉を覺醒せしめる大使命をしつかりと負擔せねばなりませぬ。絕對(時・處・位・を超越せる唯一無二の眞理・渾然たる一德一心)は遂に相對(部分の對立・相剋)を包容統一すべく運命づけられて居ります。卽ち上述の如き相對主義近代思想は、必ずや絕對的なる皇道(惟神の大道)に歸趨(仁者無敵)せられませう。この意味に於て今時事變は、實に百千萬劫難遭遇とも申すべき好機會であります。而かも日・滿・支は善隣友好・共同防共・經濟提携・の三原則に渾然一致し、一大「京」の建設は既に曉明に入つて居ります。我々は瞬時も油斷なく、渾身是れ膽の意氣込みで、增上慢の第三國に對しては齒に衣を着せずに、率直に有體に打明け、無限責任を背負つて、八正道の旗幟鮮明に前線銃後・渾然一體となつて聖戰に勇往邁進し、皇民の大使命を遺漏なく果遂し。「八紘一宇」・「世界の敎化・德化」を必ず實現させねばなりませぬ。(經に曰く、或は一念を起して我は是れ凡夫なりと言はゞ、三世佛を誇るに同じく法中に重罪を結す)。英國皇帝ジョージ六世陛下には、ヴィクトリア女皇の誕生日で全英國祭日たる五月廿四日(昭和十五年)ラヂオで、全國民に對し固き決意を下の如く促されました。「敵の企圖するところは單なる領土的征服ではなく、英帝國を顚覆し、その據つて立つ所の基礎を粉碎し、然る後世界を征服するにある。之が從來あらゆる平和工作を失敗に終らしめたる敵の宿望といつても決して誤りではないだらう。今や我々の敗戰

は世界の破滅であつて、廢墟と化した世界の上に暗黑時代が支配することは明白である。我々の目的は社會の諸制度の發達を促がし、生活狀態の改善を可能ならしむる平和の維持にあるが、敵はこの我々の維持せんと努力しつゝあるものを破壞せんと欲してゐるのである。我々はこの危急存亡の秋に當り我々の祖先のなせる如く神に賴るのほかはない。海外に在る同胞諸子も、全國を擧げて行はるゝ日曜日の祈禱に參加し、我々がその任務を忘れず、決意を鈍らせず、神の加護によつてその目的を達し得る樣祈ることを望む」と御心痛のほど實に御同情にたえない次第ですが、遠慮なく申上ぐれば、英國の今日までの政策は、ヤソ敎國の御多分にもれず、「京」の建設でなく「府」の幕張りであつて、弱肉强食的暴力をもつて世界に臨みつゝあつたのだから、專らドイツばかりを責めても、本當の神樣なら、「既往の一切（ヴエルサイユ條約・植民政策・東亞政策・等々を反省せよ」・「禍も福も外からは來ない」・「業因無量」・「自業自得」・「心だに誠の道にかなひなば祈らずとても神や守らむ」と、お告げがあるかも知れませぬが。外國人の心持は我が「和魂」・「荒魂」と違ひ、祈り方も我が八幡大菩薩信仰とは全く相異して居ります。ドイツ外務省情報部長が署名入りで、「貴方の演說は少しも皇帝の威嚴を持たない憐れなものだ。貴方は全世界の同情を求めて、イギリスは正義と理想と自由と平和のために戰つて居ると述べたてるが、それは全然反對だ。イギリスの歷史がその證據ぢやないか。自由と正義の名に隱れて今度もイギリスが戰爭を仕掛けた。そして自分の財產を護るために、オランダ・ベルギー・まで戰爭に引入れた。その全責任はジョージ六世自身にある。ドイツの國防軍はこのジョージ六世の演說に對し、武器を以て峻烈なる回答を與へるであらう」と、英帝攻擊をやつて居ます。又某新聞は、「イギリスではドイツは世界を破壞せんとしてゐると云つてゐるが、ドイツはイギリスで考へて居るやうな世界、卽ちイギリスが他國民を奴隷化してゐるが如き世界は、大いに破壞せねばならぬと考へるものだ。數世紀にわたりイギリスは他國民を壓迫し、掠奪し、殺戮するために、どの國よりも多く戰爭を行つて來た。イギリスこそは數世紀にわたり平和の眞の敵であつたのだ。ドイツは再三イギリスの攻擊を受けた。イギリスは不利となつた形勢を好轉するために、「ドイツは平和を破つた」と世界に向つて叫んで居るが、かうした古臭ひトリツクではもはや何人かも欺き得ない。イギリスは今や放火犯人として世界の法庭に立たされて居るのである」と、ひどく反駁して居ります。

前大戰に際して英國と其の植民地との聯絡交通は、我が日本海軍によつて之を支持し、兵員の輸送・物資の供給・一として我が海軍の援助若くは援護を借らざるはなかつた。而るにヴエルサイユ會議では、英國は佛人さへも贊成したる日本全權提出の人種平等案に、最後の一擊を加へ、其の申渡の役目を務めたのは英國全權であつた。（日本萬代の耻辱）。ワシントン會議では、甘言もて日本代表者をワシントンまでも招寄せ、米國と腹黑き隱謀を企て、遂に五・五・三・の比率に屈服

せしめ、日英同盟をば反古同様に振棄て、爾來四個國條約と云ひ、九國條約と云ひ、先から先へと悉皆、英國が謀主となつて日本を抑へることのみを其の本務とした。支那事變開始以來滿三ケ年間、日本に對し最も不利・不便・不親切・にして敵性暴露もて始終したる第三國は、實に英國を第一とする。英國は事變の當初より我國に對し、只管・妨害運動をもて一貫した。この事變を斯くも引張つた責任者の第一は英國だ。我國に於ては宜しく先づ斯る禍を包藏する外交の網より超脱するのが最大緊要であります。

フランスの印度支那に對する植民政策は全く隷屬主義で、殆んど植民地の利益を顧みず、專ら母國自身の利益をもつて一切の政策の據點とし、從つて土人は全く佛人の搾取を助ける機械であり・奴隷であつて、最高の教育を受けても上級官吏たるを得ませぬ。又歴代の安南王に對する虐遇殊に甚だしく、一八八三年王朝四代の嗣德王が、フランスをのろいつゝ悶死されて以來一九二五年啓定王薨し、現在の保大王卽位まで、僅か四十年位の間に王位代ること九代、而かも其の間辛うじて無難なりしもの現王を加へて僅に三人、他は或は毒殺・流竄・禁錮・投獄され、斷食して獄死を遂げられたお方さへもある位で、其他の虐政は推して知るべしでありますが、一二の例を擧げますと、トンキンでは十八歳以上の土民には何人を問はず、約一ケ月(一日十二時間)分の勞働賃銀を人頭税として課し、一組の夫婦には約その二倍の課税かなし、又アルコール醸造の獨占會社を設立してその粗惡酒を土人に强ひつゝ、從來の私造に對しては嚴罰を以て臨んで居るので、いかに從順な土人も、近年到るところ反佛暴動が起りつゝあります。八紘一宇完遂上、一日も對岸の火災視することは許されますまい。孰れもヤソ教信奉國の執れる政策の歴史的成果であります。

蘭領東インドは、本國中心の從屬主義を基調としながらも、産業開發に著しき效果を擧げ、對土民政策にも比較的保護主義の形跡を見るも、彼等西南太平洋諸國の原住民の運命は、西歐獨裁者より與へられたる運命で、必要次第何時でも奪還せらるべき悲慘なものですから、一日も早く有色人種共榮圏内に納めて、皇道に基く天惠に均露せしむることは、皇國の使命完遂途上にかける最大緊要事であり、今が千載一遇の絶好時機でありませう。特に彼等土人は我々の祖先と深き關係が有るやうです。

曩古以來皇道に孚育され、日本歴史の全體を宿藏した大和魂は、和魂(ニギミタマ)と荒魂(アラミタマ)との二の方面に分けて說明いたしますが、和魂は賑ふ意味で、詳しく申せば、一切のもの(諸行)卽ち萬事萬物(人・生物・器物・山川・草木)を、有るが故に有らしめ、美しきが故に美しからしめ、懷かしきが故に懷かしからしめる。卽ち餘さず漏さず眞・善・美・愛化するところの、平かなる・大いなる・有難く・懷かしき・心と解釋します、從つて和魂からは憎みは無い筈です。又和魂を「クシミタマ」或は「サキ

ミタマ」と言ひ表はすこともありますが「クシ」は「串」で多くの獨立せるものを平等に一貫する意、卽ち貴賤上下のへだてなく、一億一體となつて、有難く・懷かしき心を、神(天つ神・現つ神國つ神)に捧げる「ミタマ」であります。「サキミタマ」の「サキ」は、花咲く崎・刀尖・幸・等の差別を含み、數多豐富となる義、いや進みに邁進する義・萬有をして各々その處を得(幸福)しむる義を含んで居ります。

「荒魂」とは、矛盾反對をも憎惡排斥せず、之を和魂の同一理想(皇道)に同化(轉迷改悟)せしてゆく猛き心といふ義で、我々の祖先は如何なる敵に對しても、之を「神」たるべき本質を有する人間として認め、敵の大小・强弱によつて、「まつろはぬ神」・「あらぶる神」・「螢火のかゞやく神」・「小蠅なす神」・など其の名を異にはしたが、孰れも之を「神」と稱し、人格の神聖と尊嚴とを認め外國に於ける如く、敵を人間以下のものとして之を卑しみ憎むことは斷じてなさず、改悟して「まつろひ」(祭合ふ同一理想を奉ずる)さへすれば、等しく同胞(天下一姓)として相携へて、至高の理想を實現(日本國の經營)することに努力したので、戰爭といへども、「まつろはぬもの」を「まつろはす」ためにのみ軍をおこし、決して私利貪婪のためでなく、徹底して八紘一宇の聖戰が行はれ、「天の益人」としての大使命を奉じ、人類の敎化・德化・幸福化・を目標とする大慈悲を基調として來つたのであります。卽ち天皇が神のまに〳〵日本國をしろしめし給ふ「神ながらの道」をば、祖先は自身を「すめろぎの神の宮人」と呼んで、神のまに〳〵天皇に仕へ奉り來つたのであります。この和魂と荒魂との現はれをば、フランスの思想家ボールリシヤル氏は、「一面に於ては恐るべく、他面に於ては優美に充ち、不斷に飛躍する力を微笑の裡に包めるものを汝の自然となす。此の自然を愛慕する汝は、其の姿に象りて造られたり。汝は此の自然の凛烈と溫柔とを兼ね有し。美に對する典雅の趣味と力に對する豪放の趣味とを兼ね具ふ」と評しました。極めて適評でありませう。我が「武」には由來必ず「文」(仁)を具備して居ります。

我等が古事記・日本書記を通じて知り得る如く、我が太古祖先の奉じた宗敎は、天祖を以て宗敎生活の統一的中心とし、天祖が日本國を經營すべく天神の詔命を奉じ、天上の諸神を率ゐて此の國に天降り(行幸)て國神を歸服せしめ給ひ、天上より御供仕れる神(祖先)は、國神と共に天祖の神意そのまゝに先住諸神をまつろはせ・統一せしめられたとの確乎不拔の信仰を奉し、「統一したる神の世界」が、國の政治の基礎觀念となり、この觀念が我等の祖先をして、猛けく・直く・明らけく・彌進みに進ましめ、自尊の念を養はしめて、天祖の子孫として君臨し給ふ皇室に對する忠義の感情に燃え立たしめ、日本國を以て神國と信じ、その信仰が啻に內治の基礎となりしのみならず、同時にまた外交への基調となり、從つて法律も道德も總べて此の基礎の上に立てられたのであります。